北里小学校トイレ改修工事

発　注　者

近江八幡市教育委員会事務局教育施設整備推進室

設　　計

株式会社　中田設計

図　面　リ　ス　ト

建築主体工事			電気設備工事			機械設備工事		
No.	図面名称	SCALE	No.	図面名称	SCALE	No.	図面名称	SCALE
A－ 1	建築工事 特記仕様書(1)	―――	E－ 1	特記仕様書	―――	M－ 1	機械設備工事　特記仕様書	―――
A－ 2	建築工事 特記仕様書(2)	―――	E－ 2	配置図	1/ 50,500	M－ 2	衛生機器リスト	―――
A－ 3	建築工事 特記仕様書(3)	―――	E－ 3	普通教室棟　1階トイレ改修図面　電灯・コンセント設備図	1/ 50,100	M－ 3	普通教室棟　1，2Fトイレ改修図　(給排水衛生設備)	1 /50
A－ 4	建具特記仕様書	―――	E－ 4	2階トイレ改修図面　電灯・コンセント設備図	1/ 50,100	M－ 4	3Fトイレ改修図　(給排水衛生設備)	1 /50
A－ 5	配置図、体育館棟平面図	1/100,1/500	E－ 5	3階トイレ改修図面　電灯・コンセント設備図	1/ 50,100	M－ 5	特別教室棟　1，2Fトイレ改修図　(給排水衛生設備)	1 /50
A－ 6	校舎棟　1階平面図	1/200	E－ 6	特別教室棟　1階トイレ改修図面　電灯・コンセント・弱電設備図	1/ 50,100	M－ 6	2F・職員トイレ改修図(給排水衛生設備)	1 /50
A－ 7	2階平面図	1/200	E－ 7	2階トイレ改修図面　電灯・コンセント設備図	1/ 50,100	M－ 7	換気機器リスト	―――
A－ 8	3階平面図	1/200				M－ 8	普通教室棟　1，2Fトイレ改修図　(換気設備)	1 /50
A－ 9	普通教室棟　1階平面詳細図(現況・改修後)、建具リスト、部分詳細図	1/10,20,50				M－ 9	3F・職員トイレ改修図(換気設備)	1 /50
A－10	1階展開図(現況・改修後)	1/ 50				M－10	特別教室棟　1，2Fトイレ改修図　(換気設備)	1 /50
A－11	2階平面詳細図(現況・改修後)、建具リスト、部分詳細図	1/50,100						
A－12	2階展開図(現況・改修後)	1/ 50						
A－13	3階平面詳細図(現況・改修後)、建具リスト、部分詳細図	1/2,10,20,50,100						
A－14	3階展開図(現況・改修後)	1/ 50						
A－15	特別教室棟　1階平面詳細図(現況・改修後)、建具リスト、部分詳細図	1/10,20,50,100						
A－16	1階展開図(現況・改修後)	1/ 50						
A－17	2階平面詳細図(現況・改修後)、建具リスト、部分詳細図	1/10,20,50,100						
A－18	2階展開図(現況・改修後)	1/ 50						
A－19	職員トイレ　平面詳細図(現況・改修後)、展開図(現況・改修後)	1/ 50						
	建具リスト、部分詳細図	1/ 50						
A－20	サイン詳細図(1)	1/2,1/3						
A－21	サイン詳細図(2)	1/2,1/3						

【特記事項】

株式会社　中田　設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

検印	担当	担当

年月日 H27.3.31
縮尺 ―
工事名称 北里小学校トイレ改修工事　設計図
図面名 図面リスト
図面番号 Ａ－００

建築工事特記仕様書

Ⅰ 工事概要

工事名称	北里小学校トイレ改修工事
工事場所	滋賀県近江八幡市江頭町地先　　敷地面積　5,091.00㎡
用途規制	第１種低層　第２種低層　第１種中高層　第２種中高層　第１種住居　第２種住居 準住居　近隣商業　商業　準工業　工業　工業専用　指定なし
防火規制	防火地域　準防火地域　法22条指定区域　指定なし
その他の規制	風致地区　自然公園　宅造規制区域　市街化区域　市街化調整区域　未線引き
工事期間・限	入札仕様書による
工事種目	

NO	名称	工種	構造	床面積（㎡） 1階	2階	3階	4階	5階	延面積	備考
A	普通教室棟	改修	RC造	一式	一式	一式	――	――	一式	
A	特別教室棟	改修	RC造	一式	一式	――	――	――	一式	
A	体育館棟	改修	RC造	一式	――	――	――	――	――	
E	電気設備工事	改修	RC造	――	――	――	――	――	――	
M	機械設備工事	改修	RC造	――	――	――	――	――	――	

概要説明

本工事は、北里小学校トイレ改修工事とし、普通教室棟、特別教室棟、体育館棟のトイレ改修を行う。

生徒用トイレ５箇所、職員用トイレ１箇所、体育館トイレ１箇所　計７箇所とする。

それに伴う、電気設備工事並びに機械設備工事は本工事とする。

Ⅱ 建築工事仕様

1　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書平成２５年度版」・「公共建築改修工事標準仕様書平成２５年度版」・「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）平成２５年度版」・「建築物解体工事共通仕様書・同解説平成２５年度版」（以下「標仕」という）による。

（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　「建築工事監理指針平成２５年版」・「建築改修工事監理指針平成２５年度版」・「電気設備工事監理指針平成２５年度版」を参考とする。）

2　特記仕様　　1 項目は番号に ○ 印のついたものを適用する。

2 特記事項は ⊙ 印のついたものを適用する。

⊙ 印のない場合は ※ 印のあるものを適用する。

⊙ 印と ※ 印のある場合はともに適用する。

3 特記事項に記載の〈　〉内表示番号は、標仕の当該項目、当該表、当該図を示す。

章	項目	特記事項
一般共通事項	① 施工基準	本工事は、近江八幡市建設工事執行規則に基づき、工事請負契約書及び同約款を遵守し、本特記仕様書を含む図面３８葉、標仕により完全に施工する。(1.1.1)
		上記相互間に相違のある場合の優先順位は、記載の順序とする。
	② 完成図及び監理用製本	完成図の種類、記入内容および様式は標仕により作成し、原図、ＣＡＤデータおよび焼付製本２部（発注者・監理者）を提出するものとする。なお、標仕の表1.7.1の完成図に本特記仕様書を加えたものとする。
		工事着手前までに、監理用製本（縮小版Ａ４折サイズ）２部（発注者・監理者）を提出すること。
	③ 保全に関する資料	保全に関する資料は標仕により作成し、監督員に指示された必要部数の原本、複写図および電子データを提出するものとする。なお、作成に際しては、国土交通省作成の「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」を参考とし、詳細については監督員の指示による。(1.7.1, 1.7.2)
	④ 工事写真	工事管理写真はカラーとし、その内容が明確に判別できるものとする。デジタル写真とする場合、使用するデジタルカメラの総画素数は200万画素以上、記録画素数は640×480画素以上とする。(1.7.3)

区分	分類・規格	撮影箇所	部数	備考
着工前	サービス版	・ 5 ・ 10 ⊙ 15	1	状況によりつなぎ写真
工事中	サービス版		1	必要に応じ撮影する
完成時	サービス版	・ 6 ・ 9 ⊙ 12	3	完了届提出用
定期提出	サービス版	・ 3 ⊙ 6 ・ 9	1	工事月報用
竣工写真	※ サービス版 ⊙ キャビネ版	・ 5 ・ 10 ・ 15	3	主として外観
	※ サービス版 ⊙ キャビネ版	・ 10 ・ 20 ⊙ 30	3	主として内観
	竣工写真については、銀版写真の場合はネガ、デジタル写真の場合はファイル形式をＪＰＥＧとし、ＦＤ、ＭＯ、またはＣＤ－ＲＯＭにて提出すること。（発注者２部・監理者１部）			

工事写真の撮影要領は、「工事写真の撮り方・建築編」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）による。

完成写真の撮影場所は監督員の指示による。 工事写真キャビネ版はアルバム台紙に、サービス版は工事写真は工事写真帳に貼り付けて提出すること。

⑤ 技術検査　工事施工途中において、適宜中間技術検査を行う。(1.6.2)

⑥ 現場代理人　原則として、現場代理人は他の工事と重複して従事することはできない。

契約約款第10条第 3項の規定に基づく現場代理人の常駐義務を緩和する期間および本工事における現場代理人が他の工事の現場代理人を兼務できる条件は、別に定める「現場代理人の常駐に関する運用基準（滋賀県土木交通部）」による。

①現場代理人の常駐を要しない期間

・ 請負契約の締結の日の翌日から平成　年　月　日までの期間については、現場代理人の工事現場への常駐は要しない。

⊙ 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、現場代理人の工事現場への常駐を要しない。

なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。

②工事が完成し、事務手続き、後片付け等のみが残っているなど、工事現場において作業等が行われていない期間については、現場代理人の工事現場への常駐を要しない。

現場代理人は、請負人との直接的な雇用関係が確認できる資料を監督職員に提出すること。

⑦ 技術管理　請負人は、建設業法に定める専任の技術者の任命を行い、現場に派遣し技術管理にあたらせること。

①技術者の専任を要しない期間

・ 請負契約の締結の日の翌日から平成　年　月　日までの期間については、主任技術者または監理技術者の工事現場への専任は要しない。

⊙ 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。

なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。

②滋賀県建設工事請負契約約款（以下「契約約款」という）第31条第2項の規定に基づく検査を完了した日から契約期間満了までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。

なお、検査を完了した日とは、発注者が契約約款第31条第2項に基づく当該検査の結果を通知した日（契約約款第31条第6項に該当するものを含む）とする。

また、日程の都合上、契約工期満了後に検査が行われる場合は、契約工期満了後の監理技術者等の工事現場への専任を要しない。

⑧ 技能士　各工種の作業については、極力技能士の資格を有する者に作業をあたらせること。(1.5.2)

また、請負人は、○印のついた工事種別および技能検定の職種について、職業能力開発促進法による一級技能士または単一等級の資格を有する者を、１職種１名以上該当工事作業中工事現場（資材製作加工の場合は製作所）に常勤させるとともに、作業に先立ち事前にその氏名等を監督職員に届け出なければならない。

・ 仮設工事（とび）　・ 鉄筋工事（鉄筋）　・ ｺﾝｸﾘｰﾄ工事（・ 型枠 ・ ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送）　・ 鉄骨工事（構造物鉄工）
・ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ/ALCﾊﾟﾈﾙ工事（・ CB積 ・ ALCﾊﾟﾈﾙ施工）　・ 石工事（・石張り ・ 石積み ・ 石材加工）
・ 防水工事（ ・ ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 ・ 合成ｺﾞﾑﾛｰﾙ防水 ・ ｳﾚﾝｶﾞﾗｽ系塗膜防水 ・ ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水 ・ ｾﾒﾝﾄ系防水 ・ ｼｰﾘﾝｸﾞ）
・ ﾀｲﾙ工事（ﾀｲﾙ張り）　・ 屋根及び樋工事（ ・ 屋根金属薄板葺き及び樋設置　・ かわらぶき　・ 石綿ｽﾚｰﾄ葺き）
・ 木工事（建築大工）　・ 金属工事（鋼製下地）　・ カーテンウォール工事（金属製カーテンウォール施工）
・ 左官工事（ ・ 金こて仕上 ﾓﾙﾀﾙ塗り、吹付 ・ 断熱硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付）
・ 建具工事（ ・ ｻｯｼ施工 ・ ｶﾞﾗｽ加工取付 ・ 木製建具加工取付 ・ 自動ドア取付）　・ 塗装工事（塗装）
・ 内装工事（ ・ 表具 ・ 壁装 ・ 畳製作施工 ・ ｱﾙﾐｶｯﾄ系床施工 ・ ｶｰﾍﾟｯﾄ系床施工 ・ ﾀｰﾌｼﾞ施工 ・ ﾎﾞｰﾄﾞ仕上）
・ 排水工事（配管）　・ 植栽工事（植栽）　・ 外壁改修工事（樹脂接着剤注入施工）

⑨	建築材料等	建築材料等は、極力県内産品を選定することとし、製品等は特記されたものまたは同等品以上とする。 ただし、同等品以上とする場合は監督職員の承諾を受けること。 工事で使用する各種塗料類、接着剤類、その他の材料のホルムアルデヒド放散量はＦ☆☆☆☆とする。 あわせて、その他室内空気汚染（揮発性有機化合物）対策として、その原因となる物質の含有量が低濃度である材料を極力選定する。（標仕を参考とすること。）(1.4.1) さらに、環境配慮の視点から、以下の材料の利用に努めること。 （1）グリーン購入法に基づくエコマーク商品 （2）建設リサイクル法により再資源化されたリサイクル製品、材料 （3）滋賀県リサイクル製品認定制度に基づく滋賀県リサイクル製品 （参考URL http://www.pref.shiga.jp/d/haikibutsu/gomizero/h2112reeflet.pdf)(1.4.1) 工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとすること。(1.4.1) 製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁　平成18年2月15日）に準拠した証明書を、監督員に提出すること。(1.4.2)
⑩	材料の検査に伴う試験	試験は、原則として公的試験場で行うものとし、その場所の決定にあたっては監督職員の承諾を受けること。
⑪	特殊な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
⑫	各種検査合格書等	各種検査を必要とするもの、責任施工のもの等は、各合格書又は保証書およびその写し各１部を提出すること。なお、責任施工のものは、請負契約者・施工下請業者・材料製造所の連名書とする。
⑬	設備工事との取合	各設備工事によるコンクリート部分の梁、壁、床の貫通補強及び仕上げ部分、軽量鉄骨天井下地、同壁下地の開口補強は建築工事とする。(1.3.11)
⑭	下請け業者の選定	各種下請業者、製造所等県下で供給出来るものについては、極力県内業者を選定すること。
⑮	公害対策	工事着手前に付近の状況を調査し、騒音、振動、塵埃の発生、土壌汚染、排水汚染等公害発生のなきよう、工事竣工まで万全の対策を講ずること。(1.3.8)
⑯	産業廃棄物の処理	請負人は、産業廃棄物を適正に処理するにあたり下記事項を含め、事前に監督職員に施工計画書を提出して承諾を受けること。 (1) 本工事に使用する特定建設資材及び排出する特定建設資材廃棄物については、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）を厳守し、分別解体及び再資源化等実施すること。 (2) 「資源の有効な利用の促進に関する法律」（リサイクル法）及び建設副産物適正処理推進要綱を厳守し、建設副産物の発生抑制および再利用の促進に努めること。また再生資源利用（促進）計画書および同実施書を作成し遂やかに報告のこと。 (3) 請負人は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を厳守し、同法第１２条の３によるマニフェストシステムにより的確に実施すること。
17	発生材の処理	引渡しを要するもの：
⑱	保険等	請負人は工事の内容に応じた火災保険、建設工事保険等を工事目的物に付するものとする。
⑲	安全対策	※　工事車両の出入りについては、速度制限を厳守し、危険防止に努めること。また、必要に応じて交通整理員を配置するとともに、近隣家屋に騒音、振動等の公害が発生しないよう留意し、工事全般に万全の対策を講ずること。また、施設運営についても担当者と協議を行い、支障のないよう努めること。 国道４２１号線からの入り口には交通整理員を増員し、安全に努めること。
⑳	総括安全衛生管理義務者	労働安全衛生法第３０条第２項の総括安全衛生管理義務者には、（※建築工事　・ 電気設備工事　・ 機械設備工事） の請負人を指名する。
㉑	シンナー等の保管	シンナー等については、工事現場に放置することなく、保管を厳重に行い盗難を防止するとともに、保管数量についても、作業前、作業終了後の確認等確実な管理を行うものとする。
㉒	火気の管理	喫煙等については一定の場所を指定し、火元責任者を配置すること。
㉓	過積載防止の措置	請負人は過積載等の違法運行防止のため、道路交通法を遵守する旨を記載した施工計画書を提出すること。
㉔	騒音振動の防止	請負人は、「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成13年国土交通省告示第487号）」に基づき指定された建設機械（「97ラベル）を使用すること。
㉕	工事カルテの作成及び登録	請負人は、工事請負代金５００万円以上の工事について、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）入力システムに基づき「工事カルテ」を作成し、監督職員の確認を受けた後、（財）日本建設情報総合センター（JACIC）に提出するとともに、センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督職員に提出すること。 なお、工事請負代金が５００万円以上２，５００万円未満の工事については、受注時の登録のみでよい。 提出の期限は以下のとおりである。 （１）受注時登録データの提出期限は、契約締結後１０日（土、日、祝日、年末年始を除く）以内とする。 （２）完了時登録データの提出期限は、工事完了後１０日（土、日、祝日、年末年始を除く）以内とする。 （３）施工中に受注時登録データの内容に変更があった場合は、変更があった日から１０日以内に変更データを提出しなければならない。
26	低入札価格調査制度に基づく措置	(1)配置技術者の増員 建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合において、監理(主任)技術者とは別に、入札公告に定める監理(主任)技術者の要件と同一の要件を満たす技術者を専任で１名現場に配置しなければならない。 なお、当該技術者は、監理(主任)技術者を補助し、監理(主任)技術者と同様の職務を行うものとする。 また、当該技術者を求めることになった場合には、その指名その他必要な事項を監理満た技術者と同様の方法により届け出ること。 (2)施工体制台帳および施工計画書にかかる内容の説明 建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合において、請負人は施工体制台帳および施工計画書の提出に際して、監督職員からその内容の説明を求められたときは、応じなければならない。 (3)材料、下請負代金等の支払い状況等の説明 建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合において、毎月の下請負代金の支払い状況が確認できる資料を履行報告に追加して提出すること。 また、監督職員から材料費、労務費、下請負代金、その他経費（以下「経費等」という。）の支払いの状況について説明を求められた場合は、これまでに要した経費等の支払いを確認できる資料ならびに今後必要とする経費等とこれにかかる資金の調達方法の資料を提示するとともに、それらの内容について説明を求められた場合は、応じなければならない。 (4)工事コスト調査への協力 請負人は、建設工事等入札執行要領第１７条第１項ただし書きの規定に基づく基準に満たない価格で落札した場合において、工事コスト調査に協力しなければならない。 （概要は県ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.pref.shiga.jp/h/d-kanri/kensetsu_low/index.html を参照のこと） ・元請者は、下請者の協力を得て、間接工事費等諸経費動向調査票（建築工事においては共通費実態調査票）の作成を行い、完了届提出後１週間以内に発注者に提出するものとする。なお、調査票等については、別途、監督職員から指示するものとする。 ・請負人は、間接工事費等諸経費動向調査票等について、費用の内訳についてヒアリング調査に応じるものとする。この場合において、元請者は、下請者についてもﾋｱﾘﾝｸﾞに参加させるものとする。
27	契約後ＶＥ方式に関する特記事項	1．定義 ＶＥ提案とは、契約書第１９条の２の規定に基づき、設計図書に定める工事目的物の機能、性能を低下させることなく請負代金額の低減を可能とする施工方法等に係る設計図書の変更について、請負人（以下「乙」という。）が発注者（以下「甲」という。）に行う提案のことをいう。 2．提案の範囲 （１）乙がＶＥ提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のうち工事材料および施工方法等に係る変更により請負代金額の低減を得ようものと、原則として工事目的物の変更を伴わないものとする。 （２）以下の提案は、ＶＥ提案の範囲に含めないものとする。 ①施工方法等を除く工期の延長等の施工条件の変更を伴うもの。 ②契約書第１８条にもとづき条件変更が確認された後の提案。 ３．ＶＥ提案書の提出 （１）乙はＶＥ提案を行う場合は、次に掲げる事項をＶＥ提案書（様式１～４）に記載し、甲に提出しなければならない。 ①設計図書に定める内容とＶＥ提案の内容の対比および提案理由。 ②ＶＥ提案の実施方法に関する事項。（当該提案に係る施工条件等を含む） ③ＶＥ提案が採用された場合の工事代金額の概算低減額および算出根拠。 ④甲が別途発注する関連工事がある場合は、それとの関係。 ⑤工業所有権等の排他的権利を含むＶＥ提案である場合、その取扱いに関する事項。 ⑥その他ＶＥ提案が採用された場合に留意すべき事項。 （２）甲は、提出されたＶＥ提案書に関する追加資料、図書その他の書類の提出を乙に求めることができる。
28	総合評価方式に関する特記事項	（３）乙は、ＶＥ提案を契約の締結日より、当該ＶＥ提案に係る部分の施工に着手する３５日前までに提出できるものとする。 （４）ＶＥ提案の提出にかかる費用は、乙の負担とする。 ４．ＶＥ提案の審査 ＶＥ提案の審査は、施工の確実性、安全性、設計図書と比較した経済性等を評価する。 ５．ＶＥ提案の採否等 （１）甲は、ＶＥ提案の採否について、ＶＥ提案の受領後１４日以内に書面により通知するものとする。 ただし、乙の同意を得たうえでこの期間を延長することができるものとする。 （２）提出されたＶＥ提案が適正と認められなかった場合の通知は、その理由を付して行うものとする。 （３）甲は、ＶＥ提案による設計図書の変更を行う場合は、契約書第１９条の２の規定に基づくものとする。 （４）甲は、ＶＥ提案による設計図書の変更を行う場合は、契約書第２４条の規定により請負代金額の変更を行うものとする。 （５）前項の変更を行う場合においては、ＶＥ提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の10分の5に相当する金額（以下「ＶＥ管理費」という。）を削減しないものとする。 （６）ＶＥ提案が適正と認められた後、契約書第１８条の条件変更が生じた場合において、甲がＶＥ提案に対する変更案を求めた場合、乙はこれに応じるものとする。 （７）ＶＥ提案が適正と認められた後、契約書第１８条の条件変更が生じた場合、ＶＥ管理費については原則として変更しないものとする。ただし、双方の責に帰することができない事由（不可抗力や、予測することが不可能な事由等）により、工事の続行が不可能、または著しく工事低減額が減少した場合においては、甲乙協議して変更できるものとする。 ６．ＶＥ提案の保護 ＶＥ提案については、その内容が一般的に使用されている状態となった場合は、その後の工事において無償で使用できるものとする。但し、工業所有権等の排他的権利を有する提案についてはこの限りではない。 ７．責任の所在 発注者がＶＥ提案を適正と認め、設計図書の変更を行った場合においても、ＶＥ提案を行った請負人の責任が否定されるものではない。 １．競争参加資格の確認申請時の技術提案内容の担保 請負人は、競争参加資格の確認申請時に提出した施工計画等に関する技術提案書（以下、「技術提案書」という。）に基づき、工事を履行しなければならない。 ２．技術提案内容の施工計画書への反映 施工計画書の取り扱いは標仕のとおりであるが、請負人は技術提案書の内容を満足する施工計画書を監督職員に提出しなければならない。なお、施工計画書において、技術提案書の内容を一覧できる様式に整理すること。また、提案事項ごとに具体的な実施方法、履行の確認方法および確認時期について、監督職員の承諾を得るとともにその内容をあわせて施工計画書に記載すること。 ３．配置技術者等 請負人は、技術提案書に記載した配置予定技術者を当該工事の主任技術者または監理技術者あるいは現場代理人として配置しなければならない。 ４．履行の確認方法 （１）技術提案の履行確認のとりまとめについては、「技術提案の履行確認書（以下、「履行確認書」という。）」によるものとする。 （２）工事着手前に受注者において「技術提案内容」欄に必要事項を記入し、監督職員の確認を得るとともに、履行確認方法について監督職員と協議のと決定し、原案として施工計画書と併せて提出するものとする。なお履行確認方法については、技術提案書において あらかじめ示した方法によるものとする。 （３）請負人は完了時に「履行確認の概要」、「各〔対策〕の履行状況」、「技術提案履行率」、「減点係数」および「技術提案加算点」を記入し、「減点数」を計算したうえ監督職員へ提出するものとする。 （４）計算結果については、受発注者の両者で確認を行うこととする。 （５）履行の確認にあたり必要があると認められるときは、監督職員はその理由を受注者に通知して、工事目的物を最小限度破壊して確認することができる。この場合の確認または復旧に要する費用は、請負人の負担とする。 ５．再度の施工 （１）請負人は、前項の確認により技術提案事項が履行できていないことが明らかになったときは、直ちに再度施工または手直しの計画書を監督職員に提出しなければならない。ただし、発注者が再度の施工が適当でないと判断した場合は、この限りではない。 （２）請負人は、前項の計画書の内容について監督職員の承諾が得られたならば直ちに実施し、再度監督職員の確認を受けなければならない。 ６．不履行に対する措置 技術提案書に記載された内容について、請負人の責により入札時の提案内容が履行されない場合は、次式により求めた点数を工事成績評定（法令遵守等）において減点することとする。 なお、履行確認の対象とするのは、技術提案（簡易な施工計画）および県産材の使用の有無とする。 ●各着目点の不履行による減点数＝α×β×３ α：減点係数（表１のとおり） β：受注者の各着目点の加算点数（ただし、技術提案において加算点評価されなかった内容については β＝0.2とする。） ●工事成績評定における減点数＝各着目点の不履行による減点数の総和 ※「各着目点」は発注者が設定する着目点をいう。また「県産材の使用」については評価項目単位とする。 表１：減点係数（α） 履行率 / 減点係数（α） 50%未満 / １．０ 50%以上　75%未満 / ０．６ 75%以上　90%未満 / ０．３ 90%以上　100%未満 / ０．１ ※実績を評価対象とした現場代理人の従事期間における減点係数は、以下のとおりとする。 ＜加算点評価の対象となった現場代理人の従事＞ 技術提案書に記載した現場代理人が、工期内で途中交代した場合、全体工期に対して従事していた期間により履行率を求め、減点係数（α）を設定し減点する。 ＜加算点評価の対象とならなかった現場代理人の従事＞ 減点の対象とはしない。 ※県産材の使用における減点係数は、以下のとおりとする。 ＜加算点評価の対象となった資材＞ 完了時の使用数量に占める県産材使用量が50%を下回った場合にのみ、減点係数（α）を「１．０」とし減点する。ただし、提案のあった県産材使用量以上の利用が合った場合やむを得ない理由と認められる場合はこの限りでない。 ＜加算点評価の対象とならなかった資材＞ 減点の対象とはしない。 ７．契約変更の取り扱い （１）請負人が作成する施工計画書のうち、技術提案に係る資料については、発注者が確認するが、請負代金額の変更は行わない。 （２）不可抗力（地震・風水害等）によって、地形が変形し数量に変更があった場合は、発注者と請負人が協議のうえ、発注者が認めたものについて変更の対象とする。 （３）現場条件、関係機関との協議、社会的条件（地元対応等）によって、新たな対策や施工体制の変更が生じた場合には、発注者と請負人の協議のうえ、発注者が認めたものについて変更の対象とする。
29	施工体制点検	「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に従い、施工体制を講じること。
30	設計ＧＬ	※ 図示　　・ 監督職員が現場にて決定する。
31	揮発性有機化合物の室内濃度測定	平成18年国土交通省告示第1130号に基づく「評価方法基準　第５ 6-3 (3)」に定められた方法によること。 測定箇所：２箇所 (1.5.9) 測定位置は監理者との協議により決定する。 測定方法：パッシブ型採取機器により行う。 測定化学物質　・ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ　・ﾄﾙｴﾝ　・ｷｼﾚﾝ　・ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ　・ｽﾁﾚﾝ　・ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ
32	不法無線局の排除	請負人は電波法を遵守し、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとし、工事現場において、不法無線局を搭載していると疑われし車両を発見したときは、速やかに監督職員にその旨報告すること。 竣工引渡し時に取扱説明書等必要書類を必要部数作成し、ファイリングして提出すること。
33	取扱説明書の作成	（部数、詳細については、監督職員の指示による。）

34	近隣住民等への説明	請負人は、施工に先立ち地元自治会、近隣住民等に工事施工内容の説明を行うこと。
35	近隣家屋の調査	請負人は、工事の着手前および完了後に、図示部分の近隣家屋・工作物等の調査を実施し、工事に起因する損傷等の有無を確認すること。万一、損傷等が生じた場合は請負人の責任において現状に復旧すること。 また、請負人自ら必要と思われる図示以外の近隣家屋・工作物等についても調査を行うこと。 調査は工損調査等標準仕様書に準じて実施すること。
㊱	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ	バリアフリー化にあたっては、「だれもが住みたくなる福祉滋賀のまちづくり条例」を遵守すること。
㊲	別途工事との連絡協議	請負人は、別途施工する電気・機械設備工事の業者間で互いに連絡を取り、定期的に協議を行い、工事施工上の調整を図ること。また、工事区分の取り合いについて図示がある場合においても、施工時に必要に応じて協議を行い連絡を密にすること。
38	住宅性能評価	請負人は、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」を遵守し、住宅性能評価書に示された品質を確保すること。
㊴	暴力団員等による不当介入の排除	滋賀県の発注する建設工事等における暴力団員等による不当介入の排除について（「不当介入に関する通報制度」の徹底について） １：請負者（請負人または受注者）は、暴力団員等（暴力団の構成員および暴力団関係者、その他県発注工事等に対して不当介入をしようとするすべての者をいう。）による不当介入（不当な要求または業務の妨害）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うものとする。 ２：請負者は、前項により通報を行った場合には、速やかにその内容を記載した通報書（別記様式第１号）により所轄警察署に届け出るとともに、監督職員に報告するものとする。 また、請負者は、以上のことについて、下請負人に対して十分に指導を行うものとする。 ３：請負者は、暴力団員等による不当介入を受けたことが明らかになり、工程等に被害が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。
㊵	環境配慮指針	公共建築に係る環境配慮指針評価施要領に基づく、チェックシートを作成し提出しなければならない。
㊶	その他	工事に際し、現場代理人は監督員及び学校管理者と十分に協議を行い、学校運営に支障の無いよう配慮すること。又、事故等無いよう安全対策に努めて工事を行うこと。 本工事は原則、学校休校時（夏季休暇及び土曜日）に行うこと。ただし、学校長及び監督員と協議の上、許可を得た工事についてはこの かぎりではない。
㊷	生徒参画事業への協力	本工事において本学校児童及び大阪市立大学大学院生が行う、トイレ改修工事に対する生徒参画事業へ、施工者として、改修工事における技術的な協力と施工上の配慮を行うこと。 ピクトサイン図柄や壁面絵画のデザインを児童のデザインしたものにする等の対応を行うものとする。

② 仮設工事

1	監督員事務所	監督員事務所の規模　（ ・ １０㎡ ・ ２０㎡ ・ ３５㎡ ・ ６５㎡ ・ １００㎡）程度 (2.3.1) 備　品　：　机、いす、書棚、黒板、ゴム長靴、雨がっぱ、保護帽、安全帯、衣類ロッカー 請負人加入電話の子機、冷暖房機器、消火器等監督職員の指示による。(2.3.1)
②	仮囲い	図示による他鉄板塀、金網塀、板塀等の仮設計画を立案し、監督職員と協議すること。
③	工事用水	構内既存の施設　⊙ 利用できる　（ ※ 有償 ・ 無償 ）　・ 利用できない
④	工事用電力	構内既存の施設　⊙ 利用できる　（ ※ 有償 ・ 無償 ）　・ 利用できない
⑤	シート養生	必要に応じて室内外の壁、天井、床等シートで養生する。 溶接作業を行う場所については、防災シートを使用し、防火対策を講ずる。
⑥	足場	足場を設ける場合には、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省平成21年4月）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置すること。 (2.2.4)

③ 土工事

1	埋戻しおよび盛土	種　別 ・ Ａ種　※ Ｂ種 ・ Ｃ種 ・ Ｄ種　　不足分は良質土搬入する。 (3.2.3)
2	建設発生土の処理	・ 構内指示場所散きならし　・ 構外指示場所数きならし　　※ 構外搬出適切処理 (3.2.5)
3	山留め	・ 自立鋼矢板　　・ 切梁腹起鋼矢板　　・ 松矢板 (3.3.1)
4	購入土、搬入土	・ 平成２３年度以降に実施した土壌環境の品質管理試験資料を事前に監督職員に提出し、確認を受けること。

④ 地業工事

1	試験掘削	杭の本数　※ 各棟最初の１本　　・ 図示　　方所
2	試験杭	支持力の算定方法　※ 平成13年７月２日国土交通省告示1113号による。 (4.2.2) 杭の本数　※ 各棟最初の１本　・ 図示　　方所　・寸法　　m (4.2.2)
3	載荷試験	・杭載荷試験　　方所　長期設計支持力　　ｋＮ／本 (4.2.3) ・地盤載荷試験　　方所　長期設計支持力　　ｋＮ／本 (4.2.4)
4	既製コンクリート杭	杭の種類　／　規格・材質 ※遠心力高強度プレストレストコンクリート杭　／　※ＪＩＳ Ａ5373 （ ・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種） ・ 建築基準法の認定品 ・　／
		長期設計支持力　　ｋＮ／本 (4.3.2) 施工法　※ セメントミルク工法 (4.3.3~5) アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　※ 1.5 m ・ m 支持地盤への根入深さ　※構造図による ・ 打込み工法 施工法の種類： 打込杭の推定支持力の算定方法　※構造特記による ・ 特定埋込杭工法 施工法の種類：　※構造特記による 杭先端の形状　・ 開放型 ・ 半開放型　※ 閉そく型（ ・ ペンシル型　※ 平坦型） 杭頭の処理　※ ダイアモンドカッター ・ 油圧カッター ・ 手ばつり (4.3.7) 杭の精度　水平方向の位置ずれ　※杭径の1/4かつ100mm以内 ・ mm以内 ずれが上記を超えた場合は、監督員の指示により補強を行うこと。 杭の継手　※ アーク溶接継手 ・ 無溶接継手（工法：　） (4.3.6) 杭周固定液　・ 使用する ・ 使用しない
5	鋼杭	工　法 ・ 打込み工法 (4.4.3.4) 施工法の種類： 打込杭の推定支持力の算定方法　※構造特記による ・ 特定埋込杭工法 ※ 構造特記による 鋼杭の種類　・ 鋼管杭（記号：　） ・ Ｈ形鋼杭（記号：　） (4.4.2) 杭先端の形状　※ 開放型 ・ 杭の継手　※ JIS A 5525 による ・ (4.4.5) 杭頭の処理　・
6	場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭	※ 構造特記による 鉄筋　帯筋組立の形及び割付け　※標仕（各部配筋参考図2.2④丸形(D)）による ・図示 (4.5.3) 最小かぶり厚さ　※100mm ・ mm コンクリート種別　・ Ａ種 ・ Ｂ種 コンクリートの設計基準強度　　Ｎ／mm2 掘削工法　・ ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ工法 ・ ﾘﾊﾞｰｽ工法 ・ ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ工法 ・ (4.5.4) 構造体ｺﾝｸﾘｰﾄ強度と供試体の強度の差を考慮した割増し　・行う（　N/mm2）　※行わない 杭の精度　水平方向の位置ずれ　※100mm以内 ・ mm以内
7	杭頭補強	補強の方法　・Ａ形 ・Ｂ形　※ 図示 (別図1.1)
8	砕石	※ ＲＣ－４０ ・ (4.6.2)
9	床下防湿層	ポリエチレン系シート厚さ　0.15mm以上　重ね・のみ込み寸法　250mm以上 (4.6.2)，(4.6.5)
10	土間下断熱材	特記仕様書（２）内装工事の「断熱材」による
11	基礎支持地盤の確認	根切完了後、監督職員の承諾を得て施工する。また支持地盤で設計支持力が得られないと見込まれる場合は、監督職員と打合せのうえ、適切な処置を取ること。 (3.2.1)
12	地盤改良	

【特記事項】

株式会社 中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検印	担当	担当	年月日 H27.03.31 縮尺 ―	工事名称 北里小学校便所改修　工事設計図 図面名 建築工事特記仕様書（１）	図面番号 Ａ－０１

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋の種類
※ 異形鉄筋（ＪＩＳ Ｇ３１１２） (5.2.1)
※ ＳＤ２９５Ａ ・Ⓓ10 ・Ⓓ13 ・Ｄ16 ・Ｄ19
・ＳＤ３４５ ・Ｄ19 ・Ｄ22 ・Ｄ25 ・Ｄ29
・ ・Ｄ10 ・Ｄ13 ・Ｄ16
・ 建築基準法第３７条の規定に基づき認定を受けた鉄筋

② 溶接金網 編目形状寸法（※ 150*150 ・100*100 径（※ ６ ・ ８） (5.2.2)

③ 加工および組立
直接基礎の配筋 (5.3.1～4,7)
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図1.1）による
基礎接合部の補強配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図1.2）による
基礎梁主筋の継手、定着及び余長
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図1.3）による
基礎梁のあばら筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図1.4）による
柱主筋の継手、定着及び余長
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図2.1）による
帯筋組立の形及び割付け
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図2.2）による
柱の打増し補強
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図2.3）による
大梁主筋の継手、定着及び余長
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図3.1）による
あばら筋組立の形及び割付け等
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図3.2）による
梁の打増し補強
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図3.3）による
小梁主筋の継手、定着及び余長
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図3.4）による
片持梁主筋の継手、定着及び余長
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図3.5）による
壁の基準配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図4.1）による
壁の継手及び定着
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図4.2）による
壁の交差部及び端部の配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図4.3）による
壁の開口部補強
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図4.4）による
壁の打増し補強
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図4.5）による
スラブの基準配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図5.1）による
スラブ筋の定着及び受け筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図5.2）による
片持スラブの基準配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図5.3）による
片持スラブ先端に壁が付く場合の配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図5.4）による
スラブ開口部補強
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図5.5）による
出隅及び入隅部の補強配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図5.6）による
スラブの打継ぎ補強配筋等
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図5.7）による
段差のあるスラブの補強配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図5.8）による
片持スラブ形階段の基準配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図6.1）による
二辺固定スラブ形階段の基準配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図6.2）による
梁貫通孔の配筋
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図7.1）による
梁貫通孔の補強形式
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図7.2）による
コンクリートブロック帳壁との取合い
・別図による ・構造配筋標準図による ※ 標仕（各部配筋参考図7.3）による
90°未満の折曲げの内径直径
使用箇所 ：あばら筋、帯筋、スパイラル筋
D16以下 ※ 3d以上 ・
D19～25 ※ 4d以上 ・
使用箇所 ：上記以外の鉄筋
D16以下 ※ 4d以上（SD390の場合は5d以上） ・
D19～25 ※ 6d以上 ・
D29～38 ※ 8d以上 ・

④ 鉄筋の継手
・重ね継手 ・機械式継手 ・溶接継手 (5.3.4)
・ガス圧接継手 SD345（径 19 mm 以上）D19～D25、 SD390 D29～D32
主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手長さ
・図示 ※ 40d（軽量コンクリートの場合は50d）と標仕表5.3.2の重ね継手の長さのうち大きい値
柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ
・図示 ※ 40d（軽量コンクリートの場合は50d）と標仕表5.3.4の重ね継手の長さのうち大きい値

⑤ 圧接完了後の検査 ※ 超音波探傷試験による検査 ・ 引張試験による検査 (5.4.9)

⑥ 土間ｺﾝｸﾘｰﾄ補強 ※ 入れる ・ 入れない (各部配筋参考図5.7別図 5.11)

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの強度 普通コンクリート (6.1.4)

設計基準強度Ｆｃ（Ｎ／mm²）	構造体強度補正値Ｓ	施 工 箇 所
・１８ ㊟２１ ・２４	標仕による	スラブ補修箇所
・２７	標仕による	
※１８	標仕による	

調合管理強度＝Ｆｃ＋Ｓ
Ｆｃ 設計基準強度 (表6.4.1)
Ｓ 構造体強度補正値
コンクリート圧縮強度試験：脱型、１週、４週（公的機関）

② ﾚﾃﾞｨｰﾐｷｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄの類別 ※ Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.1.5)

③ 気乾単位容積質量 普通コンクリート ※ 2.3 t/m3 ・ (6.2.2)

④ 荷卸し地点におけるスランプ ※標仕による ・ (6.2.3)

⑤ セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種 (6.3.2)
・早強ポルトランドセメント
・

⑥ 骨 材 アルカリシリカ反応性による区分 ※ Ａ ・ Ｂ (6.3.3)

⑦ 混和材 混和剤の種類 ※ＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤 (6.3.5)
⑧ 打継ぎ目地 形状及び寸法 ※ 標仕9.6.3(a)(1)による ・ (6.6.3)，(6.9.2)
9 ひび割れ誘発目地打放し仕上げ 位置・ピッチ 監督職員と協議のうえ、施工のこと。
⑩ 型 枠 外部に面するｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げの打増し厚さ ※ ２０ ㎜ ・ ㎜ (6.9.2)
打放し仕上げの種類 ・Ａ 種 ※Ｂ 種 ・Ｃ 種 (6.9.3)
せき板の材料 ※ 標仕による ・ (6.9.3)
⑪ ｺﾝｸﾘｰﾄ中の塩分測定 基礎及び各階躯体打設ごと (6.5.4)，(表6.10.1)
12 軽量コンクリート 種 別 ※１種 ・２種 (6.11.1)
設計基準強度（Ｎ／㎜ ） ・ (6.1.4)
気乾単位容積質量 ※ 1.8 t/m3 ・ 施工箇所： (6.11.3)

7 鉄骨工事

1 鉄骨の製作所 ※ 構造物製作認定工場の認定グレード (7.1.3)
（・Ｓ・Ｈ・Ｍ・Ｒ・Ｊ）以上で監督職員の承諾する工場
・ 監督職員の承諾する工場
2 施工管理技術者 ※ 適用する ・ 適用しない (7.1.2)，(7.1.4)
3 鋼材の種類 材 質 ・ＳＳ４００ ・ＳＴＫ４００ ・ＳＴＫ４００ ・ＢＣＲ２９５ (7.2.1)
・ＳＭ４９０ ・ＳＮ４００Ｂ ・ＳＮ４９０Ｃ ・ＳＳＣ４００
規 格 ※ＪＩＳ規格 ・７．２．１０（ａ）の試験に合格するもの
4 高力ボルトの種類 種 類 ※トルシア形高力ボルト（建築基準法認定品）
・ＪＩＳ形高力ボルト ・溶融亜鉛メッキ高力ボルト（建築基準法認定品） (7.2.2)
5 アンカーボルト 構造用アンカーボルト (7.2.4)
材 質 ※ＳＮＲ４００ ・
建方用アンカーボルト
材 質 ※ＳＳ４００ ・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格および仕上げの程度
※標仕による
6 ターンバックル 胴の種類 ※ 割枠式 ・パイプ式 (7.2.6)
ボルトの種類 ※ 羽子板ボルト ・両ねじボルト ・アイボルト
7 工作図 ※ＣＡＤ加工図 ・床書き現寸図 (7.3.2)
8 溶 接 開先の形状 ※図示 (7.6.4)
エンドタブを切除する部分 ※図示 (7.6.7)
スカラップの形状 ※図示
9 溶接部の試験 ・超音波探傷試験（検査は第３者検査会社によるものとし監督職員の承諾を受ける） (7.6.11)
ＡＯＱＬ ※ ４．０％ ・ ２．５％
検査水準 ※ 第６水準 ・ 第（ ）水準 ・ 図示による
・放射線試験 （１フレーム当たり８ヶ所行う）
10 ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄの溶接 ※ アークスポット溶接 隅肉溶接 (7.7.8)
合成スラブとして使用するﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄの接合
※ 焼き抜き栓溶接 ・
11 耐 火 被 覆 (7.9.2)

種 別	材料及び工法		材料及び工法
・耐火材吹付け	ロックウール	・半乾式 ・湿式	建築基準法の指定又は認定を受けたもの 使用部位：湿式（EVｼｬﾄ内）、半乾式（その他）
・耐火板張り	・無石綿ケイ酸ｶﾙｼｳﾑ板		建築基準法の指定又は認定を受けたもの
・耐火材巻き付け	・		建築基準法の指定又は認定を受けたもの
・ラス張りモルタル塗り	標仕１５章２節による		所定の耐火性能を有するもの
・			

12 ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ等の設置 種 別 ・Ａ 種 ※Ｂ 種 ・Ｃ 種 (表7.10.1)
13 材底均しモルタル 工 法 ※Ａ 種 ・Ｂ 種 (表7.10.2)
14 検査結果の報告 工場加工は、認定工場における自主検査または滋賀県鉄構工業組合の一般検査を受け報告書を提出すること。
15 溶融亜鉛メッキ高力ボルト接合 摩擦面の処理 ※ ブラスト処理 ・りん酸塩処理 (7.12.4)

8 コンクリートブロック・ALCパネル 押出成形セメント板工事

1 空洞コンクリートブロックの種類 種 別 ・Ａ種（08） ・Ｂ種（12） ※Ｃ種（16） ・Ｃ種防水（16Ｗ） (8.2.2)
厚さ（㎜） ・１００ ・１２０ ・１５０
2 各部の配筋 耐 力 壁 ※ 構造図による (8.2.5)
帳壁・塀 ※ 構造図による (8.3.3)
3 ＡＬＣパネル (8.4.2)

種 類	厚さ（mm）	耐火性能
外 壁 用	・５０ ・１００	
間仕切用	・５０ ・１００	
屋 根 用	・５０ ・１００	
床 用	・１００ ・１５０	

・外壁パネル工法 種 別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 (8.4.3)
出隅、入隅目地幅（㎜）※ ２０
・間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ工法 種 別 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種 (8.4.4)
4 押出成形ｾﾒﾝﾄ板 種 別 ※ノンアスベスト品（ＪＩＳ Ａ ５４４１規格品） (8.5.2)
※ 塗装品 ・無塗装品 厚さ（mm）：１５
・外壁パネル工法 ・Ａ種 ・Ｂ種 (8.5.3)
・間仕切壁パネル工法 ・Ｂ種 ・Ｃ種 (8.5.4)
パネル製造所：昭和電工㈱又は同等品以上
5 防火サイディング
6 押出成型板 ｶﾞﾗｽ繊維混入ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ押出成型板 t=16 横貼り 参考：神栄１６ｼﾘｰｽﾞ F16F,R16F-10 指定色塗装品
神島化学工業㈱又は同等品以上

9 防水工事

1 アスファルト防水 (9.2.2)，(9.2.3)，(表9.2.3～8)，(改修標仕表3.3.3～10)

防水層の種類	種 別	施 工 箇 所
・屋根保護防水密着工法	・Ａ－１ ・Ａ－２	
・屋根保護防水密着断熱工法	・ＡＩ－１ ・ＡＩ－２	
・屋根保護防水絶縁工法	・Ｂ－１ ・Ｂ－２	
・屋根保護防水絶縁断熱工法	・ＢＩ－１ ・ＢＩ－２	
・屋根露出防水密着工法	・Ｃ－１ ・Ｃ－２	
・屋根露出防水絶縁工法	・Ｄ－１ ・Ｄ－２	
・屋根露出防水断熱工法	・ＤＩ－１ ・ＤＩ－２	
・屋内防水密着工法	・Ｅ－１ ・Ｅ－２	

屋根露出防水の仕上塗装塗り ※ 行う（ ・ シルバー ・ カラー ） ・ 行わない
アスファルト ※３ 種 (9.2.2)
アスファルトルーフィング ・９４０ ※１５００ (9.2.2)
断熱工法の断熱材 厚さ（mm） ※ ２５ (9.2.2)
材質 ※押出法ポリスチレンフォーム３種ｂスキン層付き
端部押え金物 アルミ製 ※ Ｌ－30×15×2.0 ・Ｌ－40×10×2.0 (9.2.2)
立上り部の保護 ・押出成形ｾﾒﾝﾄ板t=15 ・乾式保護材 ・ ｺﾝｸﾘｰﾄ押え (9.2.5)

2 改質アスファルトシート防水 (表9.3.1)，(改修標仕表3.4.1～3)

防水層の種類	厚 さ	施 工 箇 所
・AS-1 ・AS-2		
・AS-3 ・AS-4 ・AS-5 ・AS-6 ・AS1-1 ・AS1-2		

3 合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水 ※ 露出防水 (9.4.2)，(9.4.3)，(表9.4.1)，(改修標仕表3.5.1)

工 法	種 別	シートの種類	シートの厚(mm)	施工箇所	仕上塗料塗り	使用分類
接着工法	・S-F1 ・S1-F1	加硫ゴム系	※1.2 ・1.5		・ｼﾙﾊﾞｰ ・ｶﾗｰ	※ 非歩行
	・S-F2 ・S1-F2	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系	※2.0 ・1.5			
機械的固定方法	・S-M1 ・S1-M1	加硫ゴム系	※1.5 ・		・ｼﾙﾊﾞｰ ・ｶﾗｰ	・ 軽歩行
	・S-M2 ・S1-M2	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系	※1.5 ・			
	・S-M3 ・S1-M3	熱可塑性ｴﾗｽﾄﾏｰ系	※1.2 ・			

4 塗膜防水 ※ 露出防水 (9.5.2)，(表9.5.1)

種 別	施工箇所
・X－１ ・X－２	
・Y－１ ・Y－２	

Ｙ－２の保護層 ※設ける ・設けない
5 施工票 工事完了後に監督職員の指示する場所に取り付ける。
6 責任施工及び保証期間 防水工事は責任施工とし、保証期間は次のとおりとする。
・アスファルト防水 １０年間
・改質アスファルトシート防水 １０年間
・合成高分子系ルーフィングシート防水 １０年間
・塗膜防水 １０年間
・ＦＲＰ防水 １０年間
⑦ シーリング 材 料 ※ 標仕による (9.6.2)

種 別（記 号）	施工箇所

接着性試験 ※ 行う（ ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 ） ・ 行わない (9.6.5)
図中 印面所に施工 ただし 印なき箇所も必要と思われる所は施工すること。
8 脱気装置 材 質： 設置数量：
9 止水材

10 石工事

1 石材 (表10.2.1)，(表10.2.2)

施 工 箇 所	石材の種類・品質	産地・名称	仕上の種類

品 質 床 用 ・ １等 ※ ２等 その他 ※ １等 ・ ２等 (10.2.1)
2 テラゾブロック 種石の種類・大きさ ※ 大理石の類（１２㎜以下） ・ 花こう岩の類（６㎜以下） (10.2.1)
磨き仕上げの種類 ※ 本磨き ・ 水磨き ・ 粗磨き
屋内の床を本磨き仕上げとする場合のワックスがけ ※行う ・行わない
3 テラゾタイル 種 類 ・花こう岩類 ・大理石 (10.2.1)
形状・寸法 ・３００×３００ ・４００×４００
磨き仕上げの種類 ※ 本磨き ・ 水磨き ・ 粗磨き
屋内の床を本磨き仕上げとする場合のワックスがけ ※行う ・行わない
4 甲板

⑪ タイル工事

① 材料 (11.2.1)，(11.2.2)

施 工 箇 所	形状・寸法	耐凍害性	釉 薬	役 物	品質及び品番等
職員トイレ 床	30×30	磁器質	施薬	無	一般品
職員トイレ 壁	100×100	陶器質	施薬	無	一般品
普通教室棟２階 壁	10×10	磁器質	施薬	無	ｽﾍﾘﾂﾝﾙ ｼﾞｭｴﾘｰﾓｻﾞｲｸ同等

試験張り ・行う ※行わない
見本焼き ・行う ※行わない
② 工法 外装タイル ※ 密着張り ・ (表11.3.2)
内装タイル ※ 改良積上げ張り ・接着張り
3 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 ※ 入れる ・ 入れない (表11.1.1)
位 置 ※ 標仕による ・ 立面図による
④ 接着力試験 ※ 行なう ・行なわない (11.1.4)
5 タイル製造所

⑫ 木工事

① 木材の使用について 間伐材を含め極力県内産を使用すること。
② 木材の断面寸法 表示寸法で板材、造作材は仕上がり寸法、構造材はひき立て寸法とする。
③ 表面仕上げ ・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種 (12.1.4)，(表12.1.1)
④ 木材 木材の含水率 ※Ａ種 ・Ｂ種 (表12.2.1)
造作材の品質 ※Ａ種 ・Ｂ種 (表12.2.2)
樹 種 ※ 標仕表12.2.3による。 (12.1.1)
・代用樹種を適用しない箇所 構造材（ ）
造作材（ ）
⑤ 集成材 ・構造用集成材 (12.2.2)

樹 種	強度等級	材面の品質	接着性能	厚さ(mm)	施 工 箇 所
		※２種 ・			
		※２種 ・			

・構造用単板積層材

樹 種	接着性能	曲げ性能	厚さ(mm)	施 工 箇 所

・造作用集成材

樹 種	見付け材面の品質	厚さ（mm）	施 工 箇 所
	※１等 ・		
	※１等 ・		

・化粧ばり造作用集成材

心材の樹種	化粧薄板の樹種	化粧薄板厚	見付け材面の品質	厚さ(mm)	施 工 箇 所
			※１等 ・		
			※１等 ・		

・造作用単板積層集成材

表面の品質	防虫処理	厚さ（mm）	施 工 箇 所
※ 天然木化粧加工 ・			
※ 天然木化粧加工 ・			

13 屋根及びとい工事

6 床張り用合板 ・合板 厚さ(㎜) ・５．５ ・１２ 接着の程度 ※ １類 表面の品質 ※ ２等 (12.2.3)
樹種および施工箇所：
・ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ 厚さ(mm) ※ １５ ・ 接着の程度 ※ １３Pﾀｲﾌﾟまたは１３Mﾀｲﾌﾟ
樹種および施工箇所：
7 防腐処理 木材保存剤は、人体への安全性および環境への影響に配慮した表面処理用木材保存剤とする。 (12.2.8)
種類および品質： ・ 木材保存協会認定の薬剤又は、ＪＩＳＫ１５７１を用いてのＪＩＳＡ９００２による加圧保存処理した木材
・ 木材保存協会認定の薬剤又は、ＪＩＳＫ１５７１の表面処理用薬剤
8 防蟻処理 ※ 行う 適用範囲：コンクリート接地面より1,000 内容： (12.2.9)
⑨ 腰貼り シナベニア t=4(底目貼り) ＰＢ t=12.5 下地の上、木材保護塗料塗り 腰壁見切含む

1 長尺金属板葺 屋根葺形式 ・横葺 ・瓦棒葺 ・平葺 ・ (13.2.3)
材 種 ・塗装溶融亜鉛メッキ鋼板および鋼帯 (表13.2.1)
・溶融アルミニウムめっき鋼板および鋼帯
・塗装溶融亜鉛ー５％アルミニウム合金メッキ鋼板および鋼帯
・塗装溶融５５％アルミニウムー亜鉛合金メッキ鋼板および鋼帯
・ポリ塩化ビニル被覆金属板
・冷間圧延ステンレス鋼板および鋼帯
・塗装ステンレス鋼板
・フッ素ガルバリウム鋼板
厚 さ 一般部 ※ ０．４㎜ ・ 谷部 ※ ０．４㎜ ・ (13.2.2)
下 葺 ※ アスファルトルーフィング９４０ ・ ゴムアスルーフィング
参考品番（横 葺）：タイマルーフＭ型（シーラ付） 株式会社カナメ又は同等品以上
参考品番（瓦棒葺）：キャップ分離丸桟ダブルかん合式瓦棒葺き（ＫＲ－５） 上商株式会社又は同等品以上
2 折板葺 形 式 ・重ね形 ・はぜ締め形 ・ (13.3.2)
材 種 ・塗装溶融亜鉛メッキ鋼板 ・溶融アルミニウムめっき鋼板 ・フッ素ガルバリウム鋼板
種 類 山 高 (mm) 山ピッチ (mm) 耐 力 (N／㎡)
板 厚 ・０．６mm ・０．８mm 軒先面戸板 ※ あり ・ なし
けらば包み ※ あり（厚さ (mm) 幅 (mm)） ・なし
３０分耐火 ※ あり ・ なし
断 熱 材 ※ あり（種別： 厚さ： mm 防火性能： ）・ なし
3 粘土瓦葺 種 類： 寸 法： 産 地：※ 県内産 ・ (13.4.2)
桟木の留付け工法：
棟の工法：
4 陶器瓦葺 ・ 屋根伏図による(下葺：ゴムアスルーフィング)
参考品番：Ｆ型桟瓦カバラ（ＫＳ４０） 丸栄陶業株式会社又は同等品以上
5 セメント瓦 ・ 屋根伏図による(下葺：ゴムアスルーフィング)
6 工法 建築基準法に基づき定められた区分
基準風速 Ｖo＝（４０）m/s 垂直積雪量（５０）cm
※上記により定める風圧力及び積雪加重に対応した工法とすること。
7 雪止め瓦
8 雪止め金物
9 責任施工および保証期間 ・ 瓦葺 １０ 年間
・ 板葺 １０ 年間
・ 瓦棒葺 １０ 年間
10 とい 材 種 ※ 硬質塩化ビニル管 ・ 配管用鋼管（屋内防露処理） (13.5.2)，(表13.5.1)
・アルミ製 ・ステンレス管（既製品）
掃 除 口 ・設ける ・設けない
防 露 材 ※ 標仕表１３．５．４による ・ 施工場所：
鋼管製といの防露 ※ 標仕表１３．５．５による。
11 ドレン ・ フロアドレン 錆鉄製タールエポキシ塗（ ・ ２種 ・ ３種）
・ ルーフドレン 錆鉄製タールエポキシ塗（ ・ ２種 ・ ３種）
・ 横引ドレン 錆鉄製タールエポキシ塗（ ・ ２種 ・ ３種）

14 金属工事

① ステンレスの種類 種 類 ※ＳＵＳ３０４ ・
表面仕上げ ※ＨＬ仕上げ ・Ｎｏ．２Ｂ ・鏡面仕上げ (14.2.1)
② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)，(表14.2.1)

種 別	表 面 処 理	施 工 箇 所
※Ｂ－１種	無着色	
・Ｂ－２種	電解着色（ 色）	
・Ｄ 種		

3 鉄鋼の亜鉛メッキ (14.2.3)，(表14.2.2)

表 面 処 理	種 別	施 工 箇 所
溶融亜鉛メッキ	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	
電気亜鉛メッキ	・Ｄ種 ・Ｅ種 ・Ｆ種	

④ 軽量鉄骨天井下地 野縁等の種類 屋内 ※ １９型 ・２５型 屋外 ・１９型 ※ ２５型（耐風仕様） (表14.4.1)
外部野縁受、吊りボルト、インサートの、端部からの設置位置 ※ １５０以内 ・ (14.4.3)
外部野縁の間隔 ※ 標仕表１４．４．２による。 ・
天井のふところが３ｍを超える場合の補強： (14.4.4)
⑤ 軽量鉄骨壁下地 スタッド、ランナーの種類 ○ ５０型 ○ ６５型 ○ ９０型 ・１００型 (表14.5.1)
6 金属成型板張り (14.6.2)

形 状	材 種	寸法（mm）	厚さ（mm）	表 面 処 理
・スパンドレル形	・アルミニウム			※Ｂ－１種
・パネル形				・Ｂ－２種(色：)
				・

7 アルミニウム製笠木 笠木本体 ・２５０型 ・３００型 ・３５０型 ・ ・図示による (14.7.2)
表面処理 ※ Ａ－１種または Ｂ－１種 ・Ｂ－２種 ・外壁色合わせアクリル樹脂塗装
8 エキスパンションジョイント 材 質 ※ ステンレス製成品 ・ アルミ製既製品
性 能 ・ 耐火仕様 ・ 一般仕様
⑨ 天井廻縁 材 質 ・アルミニウム製 ※塩化ビニル製 ・木製（樹脂シート貼）
10 天井見切り縁 材 質 ・アルミニウム製 ※ 塩化ビニル製
⑪ 壁見切り縁 材 質 ・アルミニウム製 ※ 塩化ビニル製 ○ 木製（樹脂シート貼）
⑫ 点検口 天 井 各２箇所 計１２箇所 設置位置は協議による
材 質 ㊟アルミ既製品 ・ 規格： ※ ４５０角 ・
床 ２箇所 設置位置は協議による
材 質 ㊟アルミ既製品 ・ 規格： ※ ６００角 ・
壁 設置位置は協議による
材 質 ※ 樹脂製品 ・ 規格： ※ ３００角 ・
⑬ ﾜｲﾔｰｽﾄｯﾊﾟｰ 参考品番：Ｌ－１３９Ｎ－１ ジョー・プリンス竹下㈱又は同等品以上
⑭ ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ 参考品番：Ｃ－１００－Ｂ－１ タキゲン製造㈱又は同等品以上
⑮ ﾒｯｼｭﾊﾟﾈﾙｼｽﾃﾑ天井 参考品番：スタンダードメッシュ（ランナー工法） 50×50 φ3.2 日幸産業㈱又は同等品以上
⑯ ｱｸﾘﾙ板固定金具 普通教室棟２階：φ38 1ml当り9箇所 参考品番：ボルトサインナット ㈱大里又は同等品以上
特別教室棟２階：φ20 1枚当り4箇所 参考品番：ボルドバー ㈱大里又は同等品以上
キャップ、ボルト含む

【特記事項】

株式会社 中田 設計	検印	担当	担当	年月日 H27.03.31	工事名称 北里小学校便所改修 工事設計図	図面番号 A－02
一級建築士 登録 第８０８０５号 中田 全一				縮尺 —	図面名 建築工事特記仕様書（２）	

⑮ 左官工事

1	モルタル塗り床目地	目地工法　※ 標仕１５．２．５（ｂ）（３）による　・　(15.2.5)
2	セルフレベリング材塗り	種　類　・せっこう系　・セメント系　(表15.4.1)
3	仕上塗材仕上げ	施工箇所　(表15.5.1)

種　類	呼　び　名	仕上げの形状	施工箇所・備考
薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	
	・可とう形外装薄塗材Ｓi	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	
	・外装薄塗材Ｅ	・	
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・	
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状	
	・外装薄塗材Ｓ	・砂壁状	
	・内装薄塗材Ｃ	・	
	・内装薄塗材Ｌ	・	
	・内装薄塗材Ｓｉ	・	
	・内装薄塗材Ｅ	・	
	・内装薄塗材Ｗ	・	
厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ	・	
	・外装厚塗材Ｓｉ	・	
	・外装厚塗材Ｅ	・	
	・内装厚塗材Ｃ	・	
	・内装厚塗材Ｌ	・	
	・内装厚塗材Ｇ	・	
	・内装厚塗材Ｓｉ	・	
	・内装厚塗材Ｅ	・	
複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・可とう形複層塗材ＣＥ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・複層塗材Ｓｉ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・複層塗材Ｅ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・複層塗材ＲＥ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・複層塗材ＲＳ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・防水形複層塗材ＣＥ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・防水形複層塗材Ｅ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・防水形複層塗材ＲＳ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
	・防水形複層塗材ＲＥ	・凸部処理 ・凹凸模様 ・ゆず肌状	
軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・砂壁状	
	・こて塗用軽量塗材	・平たん状	

4	ロックウール吹付	厚　さ(㎜)　・１０　・１５　・２０　・２５　(15.7.3)
⑤	下地モルタル	⊙ 防水モルタル　(15.7.3)
		⊙ 張り物下地モルタル塗　(15.7.3)

⑯ 建具工事

1	アルミニウム建具	・外部に面する建具　(16.2.2)，(表16.2.1)

種　別	耐風圧性	気　密　性	水　密　性	枠の見込み寸法
※　Ａ　種	Ｓ－４	Ａ－３	Ｗ－４	※　７０　・　１００
・　Ｂ　種	Ｓ－５		Ｗ－５	
・　Ｃ　種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	※　１００

・遮音等級　Ｔ－１以上
参考品番：
・非溶接工法（アジャストアンカー接合）
　但し、協議により従来の溶接工法による施工も可能とする。

2	網　戸　等	防虫網　※ＳＵＳ３１６　・合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　(16.2.3)
3	鋼製建具	・遮音等級　Ｔ－１以上　(16.3.2)
④	鋼製軽量建具	(16.4.2)
⑤	ステンレス製建具	(16.5.2)
⑥	木製建具	加工、組立時の含水率　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　(16.6.2)，(表16.6.1)
7	自動ドア開閉装置	(16.8.2)
⑧	自閉式上吊り引戸装置	(16.9.3)
9	重量シャッター	シャッターの種類：・一般重量シャッター　・外壁用防火シャッター　・屋内用防火シャッター　・防煙シャッター　(16.10.2)
10	軽量シャッター	(16.11.2)
11	オーバーヘッドドア	(16.12.2)
⑫	ガラス留め材	材　質　※　シーリング　・　ガスケット　(16.13.2)
⑬	建具金物	吊金物　(16.7.2)，(表16.7.1) ※　丁番　材質：※　ＳＵＳ　・黄銅　(内部建具の軸は銅製としてもよい) ・ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ　材質：※　ＳＵＳ（ヒンジ部および軸は銅製）　・　亜鉛合金（木製建具用）
⑭	鍵	マスターキーの製作　※　製作する　⊙ 製作しない　(16.7.4) 改修工事におけるキーのマスター合わせ　※　行う　・　行わない 個数：３本　種類：※　既製品　・　製作品 なお、室名等の記入は、事前に監督職員と協議のうえ決定すること。
⑮	既設建具	改修部分における既設建具は全て改修工事完了後クリーニングを行うこと。 又、建付け調整を行い金物に不具合があるもの(クレセント等)は金物を取替えるものとする。

17 カーテンウォール工事

1	メタルカーテンウォール	(17.2.2)
2	ＰＣカーテンウォール	(17.3.2)

⑱ 塗装工事

①	素地ごしらえ	木部　※ Ａ種（透明塗料の場合はＢ種）　・Ｂ種　(18.2.2)，(表18.2.1) 鉄面（鉄骨工事は除く）　・Ａ種　・Ｂ種　※ Ｃ種　(18.2.3)，(表18.2.2) 亜鉛メッキ面　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　(18.2.4)，(表18.2.3) モルタル・プラスター面　・Ａ種　※Ｂ種　(18.2.5)，(表18.2.4) コンクリート・ＡＬＣパネル面　・Ａ種　※Ｂ種　(18.2.6)，(表18.2.5) コンクリート・押出成形セメント板面　・Ａ種　・Ｂ種　(18.2.7)，(表18.2.6) せっこうボード面　・Ａ種　※Ｂ種　(表18.2.7) （縦目処理工法の場合はＡ種）
②	錆止め塗料塗り	塗料種別　亜鉛メッキ面　※ Ａ種（ＥＰ－Ｇの場合はＣ種）　・Ｂ種　(表18.3.2) グリーン購入法に基づく無鉛型錆止め塗装を採用しようとする場合は、事前に監督職員の承認を得ること。 錆止め塗料塗り　鉄　面　※ 見掛りＡ種、見隠れＢ種　(18.3.3)，(表18.3.3) 亜鉛メッキ面　※ 鋼製建具Ａ種、その他Ｃ種 Ｃ種に用いる錆止め塗料種別はＢ種とする。
③	一般塗料	合成樹脂調合ペイント（ＳＯＰ）　標仕による　(18.4.2~5) クリヤラッカー塗り（ＣＬ）　標仕による　(18.5.2) アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）　標仕による　(18.6.2) 耐候性塗料塗り（ＤＰ）　標仕による 鉄面　上塗りの等級：　(18.7.2) 亜鉛メッキ面　上塗りの等級：　(18.7.3) コンクリート面、押出成形セメント板面　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　(18.7.4) つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）　標仕による　(18.8.2~5) 合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）　標仕による　(18.9.2) 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）　標仕による　(18.10.2) ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）　標仕による　(18.11.2) オイルステイン塗り（ＯＳ）　標仕による　(18.12.2) 木材保護塗料塗り（ＷＰ）　標仕による　(18.13.2) マスチック塗材塗り　・Ａ種　・Ｂ種　(18.14.2)
④	特殊塗料	ＪＩＳ規格品

⑲ 内装工事

①	ビニル床シート張り	シートの種類　※ 繊布積層床シート（ＮＣ）　・クッションフロアーシート　(19.2.2) 厚　さ（㎜）　⊙ ２．０　※ ２．５ 縫　目　※ 熱溶接　・突きつけ　(19.2.3) 参考品番：サニタリウム　各トイレ　ロンシール工業㈱又は同等品以上 参考品番：ＳＦプロアＮＷ　特別教室棟２階ベンチ　東リ㈱又は同等品以上
②	ビニル床タイル張り	材　質　※ 半硬質ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ　・軟質ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ　・ﾎﾓｼﾞｪﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ　(19.2.2) 厚　さ（㎜）　※ ２．０　・
③	特殊機能床材	材　質　・　厚さ(㎜)　・　(19.2.2)
④	ビニル巾木	厚　さ（㎜）　※ ２．０　・　高さ(㎜)　・６０　※７５　⊙ １００　(19.2.2)
⑤	カーペット敷き	・織じゅうたん　(19.3.3) 種　別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 パイル形状　・カットパイル　・ループパイル　・カット、ループパイル併用 帯　電　性　※ 人体帯電圧３ｋＶ以下　・ ・タフテッドカーペット パイル形状　・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ　・ﾏﾙﾁﾚﾍﾞﾙﾙｰﾌﾟ　・ﾚﾍﾞﾙﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ　・ｶｯﾄ､ﾙｰﾌﾟ併用 パイル長(㎜)： 工　法　※　全面接着工法　・　グリッパー工法 帯　電　性　※ 人体帯電圧３ｋＶ以下　・ ・ニードルパンチカーペット 厚　さ（㎜）　・　帯電性　※ 人体帯電圧３ｋＶ以下　・ ・タイルカーペット 種　別　※ 第一種　・ 第二種 パイル形状　※ ループパイル　・ カットパイル
⑥	合成樹脂塗床	弾性ウレタン塗床　仕上げの種類　※ 平滑仕上げ　・ 防滑仕上げ　(19.4.3)，(表19.4.3) ・つや消し仕上げ エポキシ樹脂塗床　仕上げの種類　※ 薄膜流し展べ仕上げ　(19.4.3)，(表19.4.4~7) ・厚膜流し展べ仕上げ ・樹脂モルタル仕上げ　・ 防滑仕上げ
⑦	防塵塗床	塗料の種類　・アクリル系　・ウレタン系　・エポキシ系 仕上の種類　・平滑仕上　・防滑仕上
⑧	フローリング張り	(19.5.2)

	種　類	樹　種	厚さ(㎜)	工　法	仕　上　げ
単層	・フローリングボード			・	
	・フローリングブロック			・　・乾式	
	・モザイクパーケット			※乾式釘どめ　・接着	
複合	※ 複合１種フローリング			※乾式釘どめ　・接着	
	・複合２種フローリング			・	
	・複合３種フローリング			・	

9	畳敷き	畳の種類　・Ａ種　・Ｂ種　※ Ｃ種　・Ｄ種　(19.6.2)，(表19.6.1)
⑩	せっこうボード張り	ＪＩＳ規格品　厚　さ（㎜）　⊙ ９．５　⊙ １２．５（水廻りは耐水仕様とする。）　(19.7.2)
⑪	化粧せっこうボード張り	ＪＩＳ規格品　⊙ トラバーチン模様　９．５　・木目模様　９．５　・杉柾模様　９．５　(19.7.2)
12	無石綿セメント板	厚　さ（㎜）　・４　・５　・６　・　(19.7.2)
⑬	無石綿ｹｲ(酸ｶﾙｼｳﾑ)板	厚　さ（㎜）　・５　⊙ ６　・８　・１０　・１２　(19.7.2)
14	化粧ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板	厚　さ（㎜）　・５　・６　・８　・１０　・１２　（無石綿タイプ）　(19.7.2)
15	ロックウール吸音板	厚　さ（㎜）　・９　・１２　・１５　柄　・一般　・リブ　・キューブ　(19.7.2)
⑯	壁紙張り	材　質　※　無機質　⊙ 和調柄（一般品）　(19.8.2)
17	断熱材打込み工法	材　質　※ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材　・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材　**(19.8.2)** ・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材A種　・フェノールフォーム保温材 （ただし、特定フロンを含まないものとする） 厚　さ（㎜）　・２０　※２５　・３０
18	断熱材現場発泡工法	材　質　※　硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑA種１(特定ﾌﾛﾝを含まないものとする)　・　(19.9.3) 吹付け厚さ(㎜)　３０㎜
⑲	グラスウール	床　※ ２４kg品　・３２kg品　厚さ(㎜)・ 壁　※ ２４kg品　・３２kg品　厚さ(㎜) ⊙ ５０ 天井　※ ２４kg品　・３２kg品　厚さ(㎜)・１００
⑳	塩ビフィルム	粘着層付塩化ビニル印刷フィルム 参考品番：ダイノックフィルム　スリーエムジャパン㈱又は同等品以上 ファインウッド、ウッドグレイン、石目、サンド、抽象、メタリックヘアライン、 メタリックグレーン、シングルカラー程度より協議により決定すること。
⑳	曲面化粧板	アイカアールマーレスモールドタイプ　t=5.7　アイカ業㈱又は同等品以上

⑳ 塗装工事

1	フリーアクセスフロアー	フリーアクセスフロア　・塩ビ製　・鋼板製　・木質製　・　(20.2.2) 構　法　※ パネル構法　・ 溝構法 寸　法　※　５００(㎜)×５００(㎜)　・　仕上り高さ：　(㎜) 積載荷重：　(ｔ／㎡)　適用地震時水平力　・　１．０Ｇ　・０．６Ｇ ｽﾛｰﾌﾟ、ﾎﾞｰﾀﾞｰ、およびｺﾝｾﾝﾄの取付対応　※　製造所の標準仕様　・　図示 表面仕上げ材の品質・規格等は、１９章内装工事による
2	可動間仕切(ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ)	構造形式　・ｽﾀｯﾄﾞ式　・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式　・ﾊﾟﾈﾙ式　ﾊﾟﾈﾙ部総厚さ：　・　(㎜)　(20.2.3) 表面材種　※ 鋼板（厚さ：※ ０．６　・ ０．８）　・ 仕上げ材　※ メラミン樹脂合板またはアクリル樹脂焼き付け　・
3	移動間仕切	品質は、ＪＩＳ　Ａ　６５１２によるものとする。 遮音性能　・　一般タイプ　(20.2.4) ・　遮音タイプ(JIS A 6512の遮音試験に準拠し、透過損失として36dB以上のもの)
4	階段滑り止め	表面材　※　鋼板　・　表面仕上げ：　・焼付塗装　・壁紙張り 工　法　工　法　※ 接着工法　・ 埋込工法　(20.2.6) 外部材質　ステンレスＳＵＳ３０４製　幅（㎜）　・３０　※３５　・４０ 内部材質　ステンレス製（ビニルタイヤまたはゴム縁込み）　幅（㎜）　・３０　※３５　・４０ 形　状　両端フラットエンド　※ あり（ ※ ビニル製　・ステンレス製）　・なし
5	黒板	種　類　※　焼付け黒板　・　研ぎ出し黒板　色　彩：※ 緑　・ 黒　(20.2.8) 枠　※ アルミニウム製　・　木製
6	ホワイトボード	種　類　※　ほうろう　・　色　彩：※ 白　・　(20.2.8) 枠　※ アルミニウム製（行率用は打合せにより文字ライン入り）　備品プラン図参照
7	掲示板	形状寸法　・　図示　備品プラン図参照
8	衝突防止表示	※ 図示による（市販品　※ステンレス製　径 ※ 約30㎜　・　㎜ﾉｰﾄﾞ・両面　・片面）　(20.2.10)
⑨	室名表示等	形　式　⊙ 面付型　⊙ 持出型　・　点字型　⊙ 図示による　(20.2.10)
10	ブラインド	材　質　・　アクリル製　・　ステンレス製　・　アルミ製　(20.2.12)

形　式	開　閉　方　式	スラットの材質	スラットの成型幅
※ 横型	※ ギヤ式　・コード式 ・操作棒式　・電動式	※ アルミ合金製 ・	※ ２５ ・
・ 縦型	・１本操作ｺｰﾄﾞ　・２本操作ｺｰﾄﾞ	・ アルミ　・ クロス	・ ８０　・１００

昇降テープの材質：　※ ポリエステル繊維

11	ロールスクリーン	※　図示による　・　(20.2.13)
12	カーテン	形　式　・片引き　・引分け　引分け装置　※ ひも引き　・電動　(20.2.14) ひだの種類　・フランスひだ　・箱ひだ　・つまひだ　・プルーンひだ　・片ひだ きれ地の品質等
13	カーテンレール	材　種　・アルミ合金製　・ステンレス製　(20.2.14) 形　状　・シングル　・ダブル（ただし、暗幕用は300㎜以上の召合せの重掛けとする。）
14	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽおよびｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ	※　図示による ・　市販品（アルミニウム製　押出し型材）　溝幅＊深さ(㎜)：
15	くつふきマット	マ　ッ　ト　・塩ビ製ラインマット　・硬質アルミ　・ブラシタイプマット ・ゴム製　・ステンレス製 受　枠　・ステンレス製　・硬質アルミ合金製
16	消火器	種　類　※ 粉末ＡＢＣ消火器（・４型　・６型　※１０型　・２０型）　・ なお、申請手続きも本工事にて行うことをとする。 消火器ボックス　※ 設ける（ ※　全埋込型　・　据置型）＜文字表示入り＞　・　設けない
⑰	造り付け家具収納・収納家具	家具製作所にて製作するものとし、製作に先立ち施工図作製のうえ、監督職員の承諾を得る。　(12.2.2)，(19.7.2)
⑱	姿見鏡	耐食鏡　W=450,H=1200　木製フレーム付又はＳＵＳ製フレーム付(図示による)　(20.2.15)
⑲	洗面カウンター	メラミンポストフォームカウンター　t=20　アイカ業㈱又は同等品以上
⑳	カウンター	メラミンポストフォームカウンター　t=20　アイカ業㈱又は同等品以上
㉑	面台	メラミンポストフォームカウンター　t=20　アイカ業㈱又は同等品以上
㉒	学校用木製収納	数　量　６箇所　W450×D417×H1800　参考品番：SHW-048WC　㈱イトーキ又は同等品以上

21 排水工事

1	排水溝	種　類　・Ｕ字溝　・現場打側溝　・勾配可変側溝
2	排水管	種　類　・硬質塩化ビニル管(　※ ＶＰ　・ ＶＵ)　(21.2.1) ・遠心力鉄筋コンクリート管(外圧管 ※ １種　・ ２種) ・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（ＲＳ－ＶＵ、ＲＦ－ＶＰ）
3	排水ます	車道部の排水管の敷設　※　図示　・砂基礎（地業厚さ200㎜以上　材料：山砂の類） ますの種類　・現場施工　(21.2.2) ・既製品　環境に配慮した材料として一般廃棄物の溶融固形化物等を極力使用すること （製品はJIS製品、JISに規定のない製品はJIS工場製作品または同等品とする） ふたの種類 ・コンクリート蓋　・　Ｔ－25用 ・マンホール蓋　(21.2.2) 適用荷重　・　Ｔ－２用　・　Ｔ－６用　・　Ｔ－14用　・　Ｔ－20用 ・グレーチング蓋(細目仕様)　(21.2.2) 材　質　・　鋼製　・　ステンレス製 適用荷重　・　歩行用　・　Ｔ－２用　・　Ｔ－６用　・　Ｔ－14用　・　Ｔ－20用　・　Ｔ－25用 ・化粧蓋

22 舗装工事

1	路床	遮断層　※ 設ける（ ・ 川砂　・ 山砂）　・ 設けない　(22.2.2)，(22.2.3) ＣＢＲ試験　※ 行わない　・ 行う　(22.2.5) 締固め度試験　※ 行わない　・ 行う
2	路盤	種　別　※ 再生ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ　RC-40　・ ｸﾗｯｼｬﾗﾝ　C-40　(22.3.2)，(22.3.3) 厚さ:図示による
3	アスファルト舗装	・アスファルト舗装　材質：※ 再生アスファルト　・ストレートアスファルト　(22.4.2~4) 車道部の基層　※ なし　厚さ(㎜)　表層　※ 50　・ ・あり　厚さ(㎜)　表層　※ 30　・　基層　※ 50　・ ・シールコート　※ 行わない　・ 行う　(22.4.5) ・混合物の抽出試験　※ 行わない　・ 行う　(22.4.6) ・締固め度及び舗装厚さの切取り試験　・ 行わない　※ 行う（ただし、200㎡未満は省略する。）　(22.5.2)，(22.5.3)
4	コンクリート舗装	
5	カラー舗装	舗装の種類　・加熱形混合物　・樹脂系混合物（常温形）　・ニート工法　・塗布工法　(22.6.2) 車道部の基層　・あり　・なし 加熱形混合物に添加する着色骨材又は自然石：　(22.6.3)
6	透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	(22.7.2)，(22.7.3)
7	排水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	種　類　・改質アスファルトⅠ類　※ 改質アスファルトⅡ類　(22.8.2)，(22.8.3)
8	ブロック系舗装	・コンクリート平板舗装　(22.9.2)，(22.9.3) 種　類　※ 普通平板　・カラー平板　・洗出平板　・擬石平板 寸法(㎜)　※ ３００角　・　厚さ(㎜) ※　目地材 ※ 砂　・ モルタル ・インターロッキングブロック舗装　(22.9.3) 種　類　※ 標準ﾌﾞﾛｯｸ　・透水性ﾌﾞﾛｯｸ　・誘導、注意喚起用ﾌﾞﾛｯｸ　・ 厚さ(㎜)　車道部　※ ８０　・　歩道部　※ ６０　・ ・舗石舗装 基層の種類　※ コンクリート舗装　・ アスファルト舗装　(22.9.2) 種　類　※　小舗石（花こう岩）　厚さ(㎜)　(22.9.3)
9	路面表示用塗料	品　質　ＪＩＳ　Ｋ　５６６５による　※３種１号　・　色　・白 寸　法　幅(㎜)　※ １５０　・ ３００　厚さ(㎜) ※１．０　施工　※ 溶融式　・
11	縁石等	形状寸法　・　図示 耐力上支障のない箇所については、極力下水汚泥溶融スラグ混入製品を使用すること
12	砂利敷	形状寸法　・　図示　(22.11.2)
13	真砂土舗装	形状寸法　・　図示

23 植栽工事

1	植栽基盤整備工法	種　別　※　Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(23.2.2)　(表23.2.2)
2	植込み用土	※ 客　土　・ 現場発生の良土　(23.2.3)
3	土壌改良材	・パーク堆肥　(23.2.3) ・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
4	支柱	材　質　※　加圧式防腐処理丸太　・竹　(23.3.2) 形　状　・鳥居型　・八ツ掛型　・布掛け型　・二脚型　・四脚型　・ﾜｲﾔ掛け型　・地下埋設型
5	新植樹木の枯補償	※ 引渡しの日から１年　・ 引渡しの日から　２年　(23.3.4)，(23.4.7)
6	移植樹木の枯　損　処　置	※ 引渡しの日から１年　・ 引渡しの日から　２年　(23.3.6)
7	芝張り	種　別　※ こうらい芝　・ 野芝　・　(23.4.2)
8	吹付けは種用種子等	種子の種類　※ 洋芝類　・ クローバー　(23.4.2) 吹付け量
9	樹種銘板	樹種ごとに、２割以上設置すること。　材質 ・寸法 ※　図示による　・

24 ユニバーサルデザイン工事

1	視覚障害者用床タイル	・屋内用　材　質　・塩化ビニル　・レジンコンクリート　・タイル 寸　法　※ ３００(㎜)×３００(㎜)　・厚さ(㎜)：図示による ・屋外用　材　質　・レジンコンクリート　・タイル 寸　法　※ ３００(㎜)×３００(㎜)　・厚さ(㎜)：図示による
2	点字鋲	材　質　・アルミ製　・ステンレス製　・真鍮製　・ナイロン製 参考型番：　または同等品とする。
③	ピクトサイン	設置場所　※　図示による　・ 材　質　・アクリル製　・ステンレス製　・ビニールシート製　⊙ 図示による 枠　※ あり　・なし　厚さ　※ ５mm　・ 参考型番：　または同等品とする。
4	鏡	
5	補助手摺	材　質　・ステンレス製　・塩ビ抗菌製（芯材：　）　・木製（ﾌﾞﾗｯｼｭｽﾃﾝﾚｽ） 参考型番：　または同等品とする。
⑥	手摺	材　質　・アルミ製　表面処理　※ A-1種またはB-1種　・ B-2種 ・ステンレス製　表面仕上げ　・ＨＬ仕上げ　・Ｎｏ．２Ｂ　・鏡面仕上げ ・ＢＬ認定品Ｉ型 ⊙ 塩ビ抗菌製（芯材：　） ・木質製（　） 参考型番：　または同等品とする。
7	手摺点字シート	材　質　・ＵＶ樹脂インク点字加工　透明塩ビシートまたはダイノックシート　シルク印刷 ・ 参考型番：　または同等品とする。
8	総合案内板	※　図示による　・
⑨	建具取手	レバーハンドルを原則とするも、詳細は別図による。

㉕ 解体工事

①	解体工事に関する特記事項	１：解体建物（解体する建物内外にある備品、機器類すべてを含む）は特記なき限り、地盤面下も含め分別解体撤去すること。（地盤面下は捨てコンクリートを含むものとし、根切り土は埋戻しとする。） 廃材処分の廃材投棄場所等については請負人において選定し、事前に監督員に報告すると共に産業廃棄物処理法に基づき契約を締結のこと。 ２：解体材を敷地内において焼却したり埋設することは一切認めない。 また、ガラス破片を残さないよう、特に注意すること。 ３：工事実施にあたっては、風向き等に留意し近隣に迷惑を及ぼさぬ様配慮し、必要ある時は監督員と協議の上工事の一時中止の措置を行うこと。 ４：解体作業により万一近隣建物及び工作物に損傷を与えたり、その構造機能を低下させた場合は、請負人の責任において現況に復旧すること。また、搬入出時において道路等に損傷を与えたり、汚した場合も請負人の責任において現状に復旧すること。 ５：工事中は適時散水を行い、粉塵の飛散を極力防止すること。 ６：解体撤去後の敷地は、特記なき限り根切土にて敷きならしすること。 ７：解体に先立ち、図示部分以外についても建材等のアスベスト含有の有無を確認し、含有する建材等があった場合は監督員に直ちに報告し、その処理方法について協議すること。 ８：アスベスト成形板については、関係法令等に基づき専門業者が所定の方法で解体撤去し、適切に処分すること。 ９：解体に先立ち、ＰＣＢを使用した照明器具の有無を調査し、結果を報告すること。 また、ＰＣＢを使用した器具については、監督員の指示に従い指定された場所に搬出し、諸法令に基づき適正に保管処理をする事。 １０：地下埋設物（排水管、ガス管等）は、特記を除き監督員の指示によりｼﾞｬﾊﾞ止めの処理を行い、原則としてすべて撤去すること。 なお、給水管、汚水排水管、ガス管・高圧ガス等の切り離し撤去に伴う申請については、各関係機関と協議の上、申請業務および必要な諸費用を含め本工事とする。

【特記事項】

株式会社 中田 設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

検印	担当	担当	年月日	工事名称	図面番号
			H27.03.31	北里小学校便所改修　工事設計図	Ａ－０３
			縮尺 ―	図面名 建築工事特記仕様書（３）	

建　具　工　事　特　記　仕　様　書

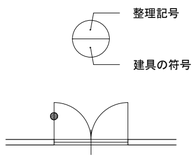
Ⅰ．　一　般　事　項

1．本表の範囲

＊本表は、設計図に示す建具及び建具工事特記仕様書（一般事項、特記事項、標準詳細図）を、一括して表す。

＊戸棚及びカウンター等その他これらに付属する建具については、別図詳細図によるものとし本表には含まない。

2．　シンボル



＊沓摺りは特記無き限り、ステンレス製とする。

3．　防火戸シンボル

特定防火設備	防火設備	特定・防火設備シャッター	機　　構
特	防		常時施錠式
特	防		常時閉鎖式防火戸 手動開放自動閉鎖機構 （１枚の大きさ３．０㎡以下）
特F	防F	SF	常時開放式防火戸 随時閉鎖熱感知器又は温度ヒューズと連動する 自動閉鎖機構
特S	防S	SS	常時開放式防火戸 随時閉鎖熱感知器と連動する自動閉鎖機構 遮煙性能

4．建具の符号

ＳＤ	スチール製扉	ＡＤ	アルミ製扉	ＳＴＤ	ステンレス製扉
ＳＷ	スチール製窓	ＡＷ	アルミ製窓	ＳＴＷ	ステンレス製窓
ＳＧ	スチール製ガラリ	ＡＧ	アルミ製ガラリ	ＳＴＧ	ステンレス製ガラリ
ＳＦ	スチール製枠（建具無し）	ＡＦ	アルミ製枠（建具無し）	ＳＴＦ	ステンレス製枠（建具無し）
ＳＳ	スチール製シャッター	ＷＤ	木製扉	ＬＳＤ	スチール製軽量扉
ＬＳＳ	スチール製軽量シャッター	ＷＷ	木製窓	ＬＳＷ	スチール製軽量窓
ＥＳＳ	スチール製電動シャッター	ＷＧ	木製ガラリ	ＳＰＴ	スチール製軽量間仕切り（学校間仕切り）
ＥＬＳＳ	スチール製電動軽量シャッター	Ｐ	紙障子	ＳＬＷ	スチール製軽量移動間仕切り
ＳＬ	スチール製格子	Ｈ	襖		
ＳＷＤ	スイングドア	ＷＨ	戸　襖	ＷＬ	木製格子
ＴＢ	トイレブース	ＷＦ	木製製枠（建具無し）	ＰＶＣ	ポリ塩化ビニル製枠（建具無し）

5．建具の型式と表示

引き違い	片引き	引き分け	片開き	両開き	上げ下げ	ﾊﾟﾗﾝｽ	引き上げ
はめ殺し	内倒し	突き出し	すべりだし	回　転	シャッター	ガラリ	

6．ガラスの種類と符号

ＳＧ	スリ板	ＦＷＧ	網入り型板	ＦＬＧ	線入り型板
Ｐ	磨き板	ＰＷＧ	網入り磨板	ＰＬＧ	線入り磨板
Ｆ	型　板	Ｆ　Ｌ	フロート	ＨＨＲ	高性能熱線反射ガラス
ＨＰ	熱線吸収磨板　ブルー	ＨＰＷ	熱線吸収網入り磨板　ブルー	ＨＧ	強化ガラス
ＧＢＰ	熱線吸収磨板　グレー ブロンズ	ＧＳＰＷ	熱線吸収網入り磨板　グレー ブロンズ		

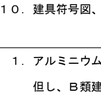
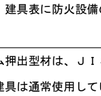
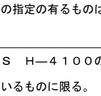
7．建具金物の種類と符号

ＣＰ	シリンダー箱錠	ＬＤ	棒錠締り錠	ＯＨ	オートヒンジ
ＣＬ	本締まり付きモノロック錠	Ｋ	ケースハンドル	ＰＨ	ピボットヒンジ
ＣＭ	モノロック錠	ＤＣ	ドアチェック	ＬＨ	ラバトリーヒンジ
ＰＤ	シリンダー本締り錠	ＦＨ	フロアヒンジ		

8．沓摺りの材種と符号

Ｗ	木　製	ＳＮ	本　石	ＯＨ	オートヒンジ
Ｓ	鋼　製	ＺＢ	人研ブロック	ＰＨ	ピボットヒンジ
ＳＴ	ステンレス製			ＬＨ	ラバトリーヒンジ
ＴＢ	テラゾーブロック				

9．ステンレス沓摺りの型式と符号

番　　号	ＳＴ―１	ＳＴ―２	ＳＴ―３				
型　　式	 4*12	 40*20*2.0	 2.0曲げ加工				

10．ドアガラリの種類と符号

ＷＧ	木　製	ＳＴＧ	ステンレス製	ＰＡＴ	完全ｴｱﾀｲﾄ型　１ｍ３／ｈｒ㎡以上
ＳＧ	鋼　製			ＡＴ	ｴｱﾀｲﾄ型　４ｍ３／ｈｒ㎡以上
ＡＧ	アルミ製			ＳＡＴ	準ｴｱﾀｲﾄ型　１５ｍ３／ｈｒ㎡以上

建具工事特記事項

一般事項

1．建具寸法は概略を示すものであり詳細は製作図作成の上、監督員の承認を得る事。

2．外部建具の結露水は建具において排水可能な構造とする事。

3．ガラスは指示あるも現場にて多少変更する事がある。

4．建具廻り及びガラスのシーリング材料は、特記仕様書建具工事、雑工事参照の事。

5．ガラスの留付材の使用区分は下記による。

　　パテ

　　シーリング　　Ｆｉｘ窓、玄関ドア、特殊窓、網入りガラス窓

　　ガスケット　　一般引き違い窓

6．沓摺りの種別及び特記を除き下記による。

　　種　別　　床仕上材が異なる場合

　　床仕上高さが異なる場合

　　外部廻り出入り口及び内部水掛り部出入り口

　　ＰＡＴ扉の場合

　　工　法　　アンカー付とし先詰モルタル工法とする

7．網戸取付け位置は建具表による。

8．建具表に示すガラリ部の防虫網はステンレス製（１６メッシュ）で取付け方法はステンレスビス止めとし取り外し可とする。

9．各扉のリターン用ドアグリルの形状は　　型とし、材質仕上りは建具表による。

10．建具符号図、建具表に防火設備の指定の有るものは、建築基準法に基く防火性能の認定を受けたものである事。

アルミ製建具

1．アルミニウム押出型材は、ＪＩＳ　Ｈ―４１００のＡ―６０６３Ｓで原則として製作所が通常使用している既製の断面のものとする。但し、Ｂ類建具は通常使用しているものに限る。

2．アルミニウム製建具の各種性能、表面処理は特記仕様書建具工事による。

3．表面処理の種別（共仕１４．２．１表）による。建具の区分は下記の通りとする。

　　Ａ―１　　Ｂ―１　　Ｃ―１

　　Ａ―２　　Ｂ―２　　Ｃ―２

4．特記なき限り二重水切りの鼻先納まりは右図のタイプとし、Ａ型、Ｂ型の選択は、監督員の承認を得る事。

5．鉄骨補強部材□―１００＊１００＊３．２使用部材については監督員の承認を得る事。

アルミ製建具

1．木製建具枠は鋼製若しくは木製とし、その使用区分は建具表による。木製枠使用の場合吊元は桧とする。

2．合板フラッシュ戸に使用する合板は、水掛部分をタイプⅠその他をタイプⅡとして全てシナ合板とする。合板の厚みについては特記仕様建具工事による。

3．ドアチェック、アームストッパーの取付けがボルトは建具を貫通し、ＰＬを当て化粧ナット締めとする。

特殊建具

1．自動ドア

2．アコーデイオンドア

建具用金物

1．建具用金物は特記を除き、ステンレス製若しくは真ちゅうクロームメッキ製とし総て見本品を提出の上、監督員の承認を得る事。

2．特記のあるもの、指定の不明確な金物は外観、性能、材種、取付け箇所等が建具に相応したものを用いる。

3．既製又はこれに準ずる建築用金物のうち、性能上必要な最小限のものについては、特記がなければ建具製作所の仕様による。

4．ステンレス製建具金物は、ＪＩＳのＳＵＳ―３０４とする。

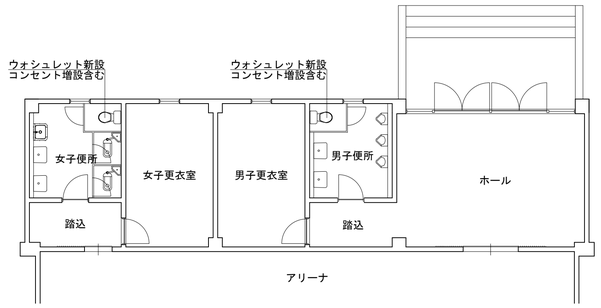
5．錠前のバックセットは６４㎜以上とする。

6．丁番取付け位置は、製作図を作成し監督員と協議の上決定する事。

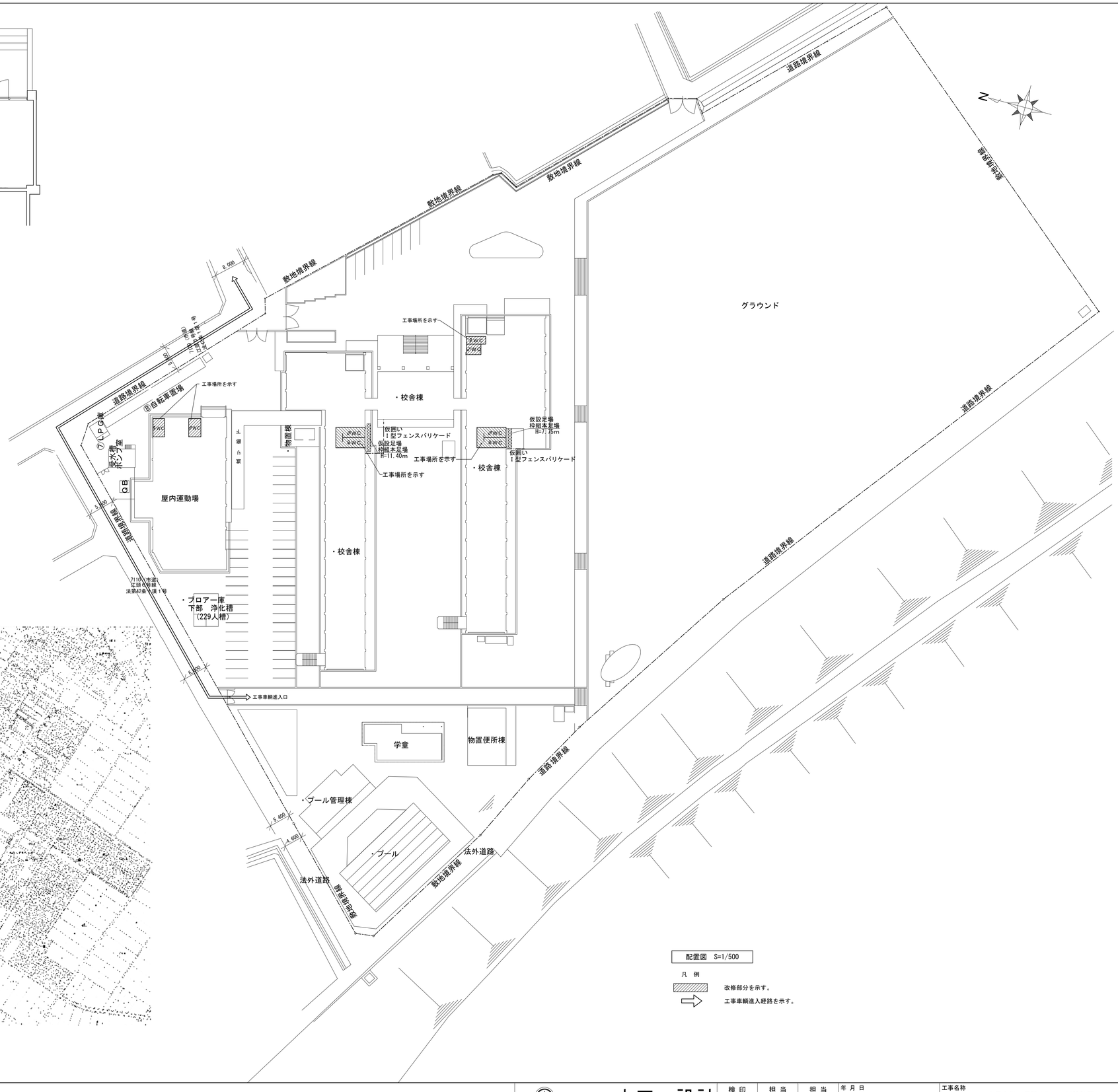
【特記事項】

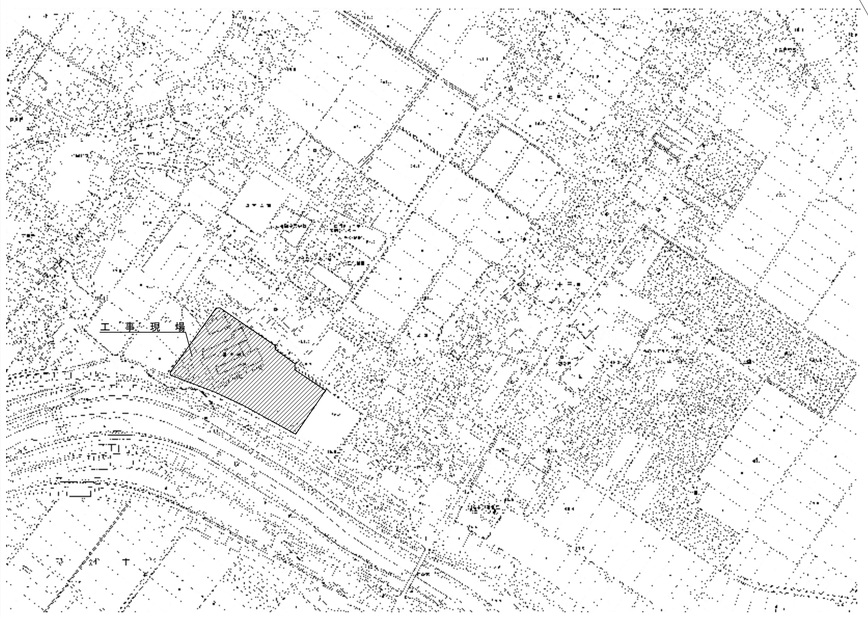
株式会社　中田　設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

検印	担当	担当	年月日	工事名称	図面番号
			H27.03.31	北里小学校便所改修　工事設計図	Ａ－０４
			縮尺	図面名	
			－	建具特記仕様書	



体育館平面図　S=1/100





付　近　見　取　図

配置図　S=1/500

凡　例

改修部分を示す。

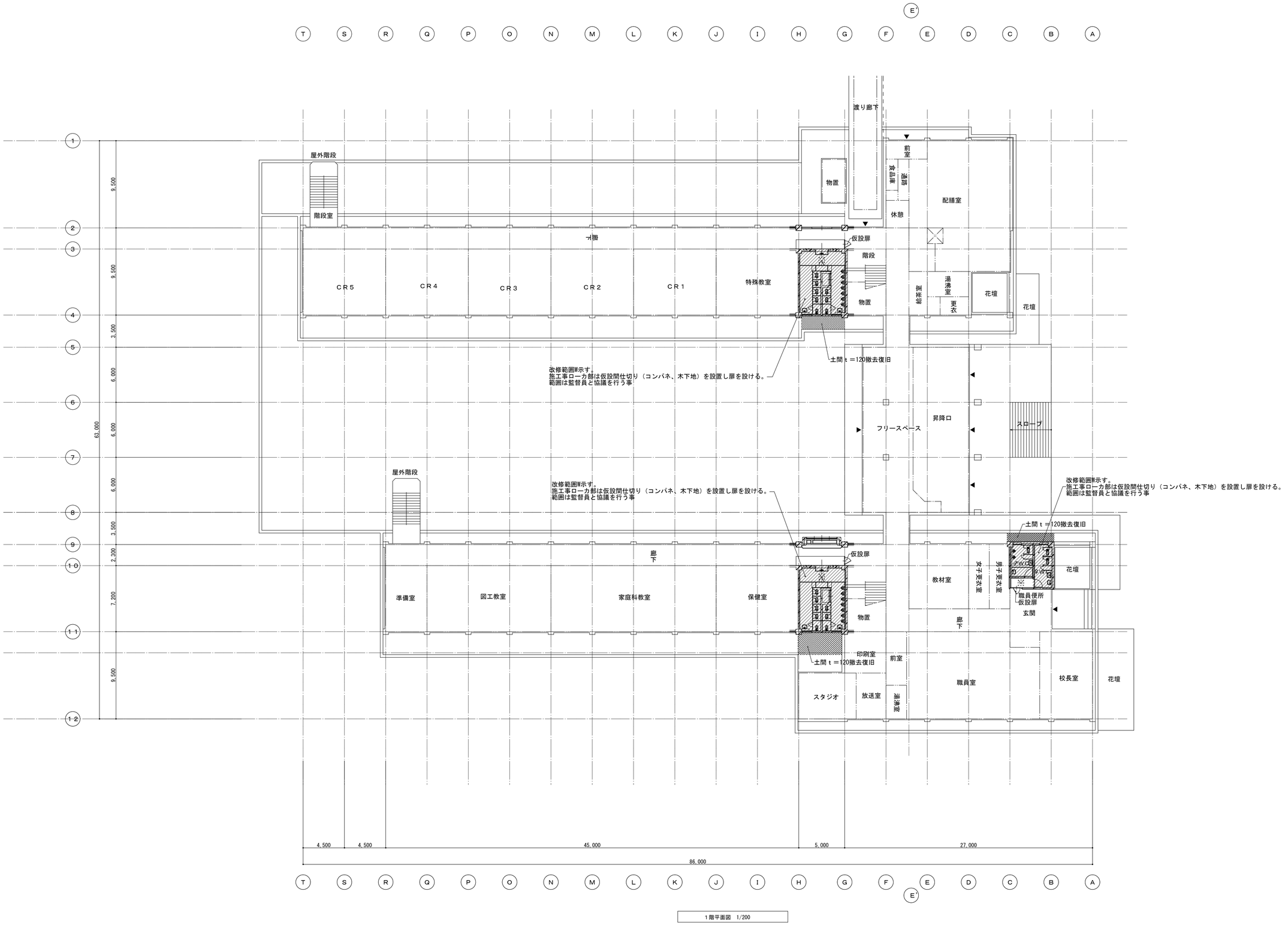
工事車輌進入経路を示す。

【特記事項】

・工事着手に際し、仮囲い・資材置場・工事関係車輌駐車場等の位置については、仮設計画図を作成し監督員の承諾を得ること。

・工事範囲については、Ｉ型フェンスバリケードを設置し安全対策に努めること。

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 H27.03.31 縮 尺 A3:1/200、1000 A1:1/100、 500	工事名称 北里小学校便所改修　工事設計図 図面名 配　置　図	図面番号 Ａ－０５

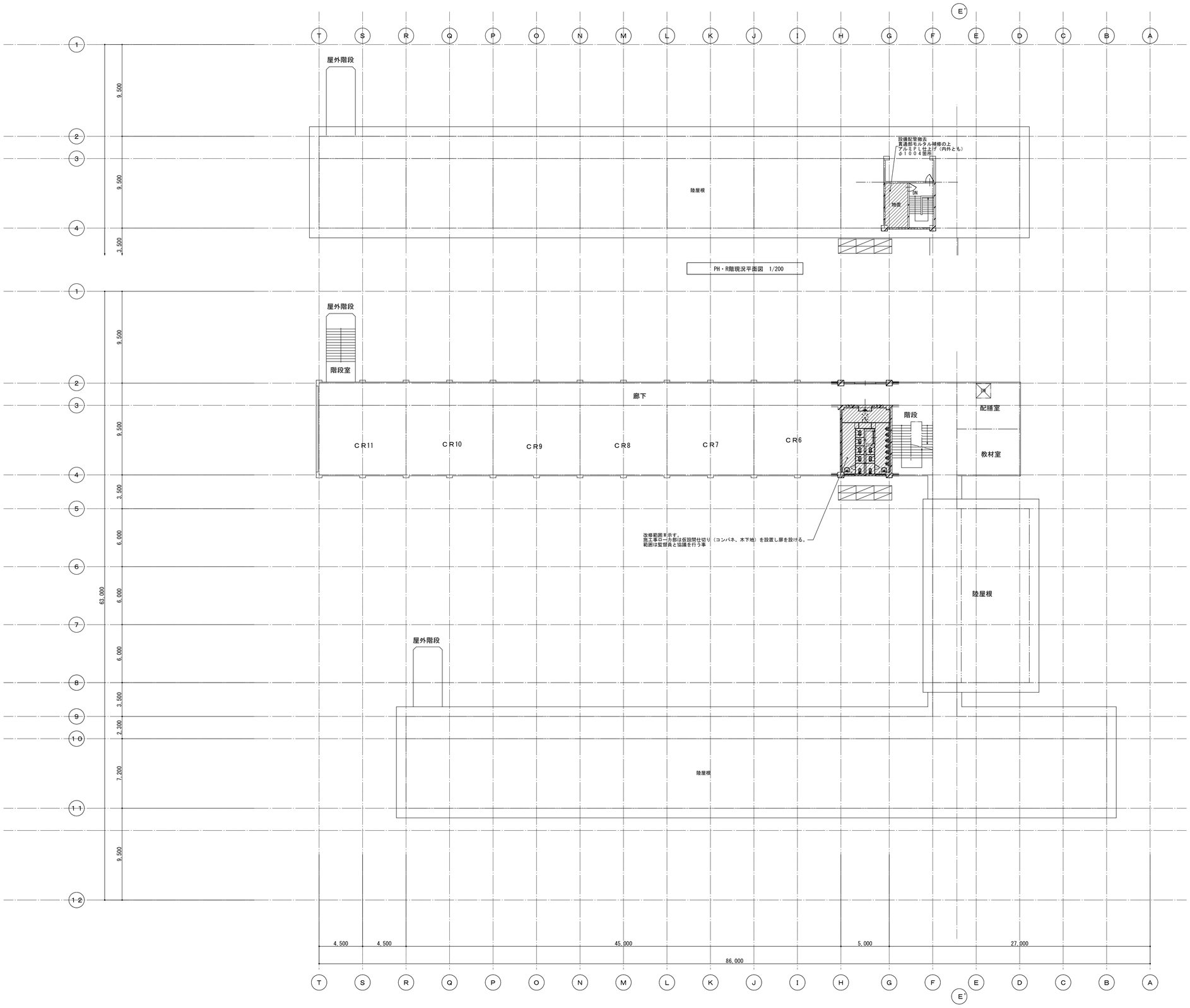


1階平面図　1/200

株式会社 中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検　印	担　当	担　当	年　月　日 2015/ 5/16 縮　尺 1/200	工事名称 北里小学校便所改修　工事設計図 図面名 1階現況平面図【１】	図面番号 A－０６

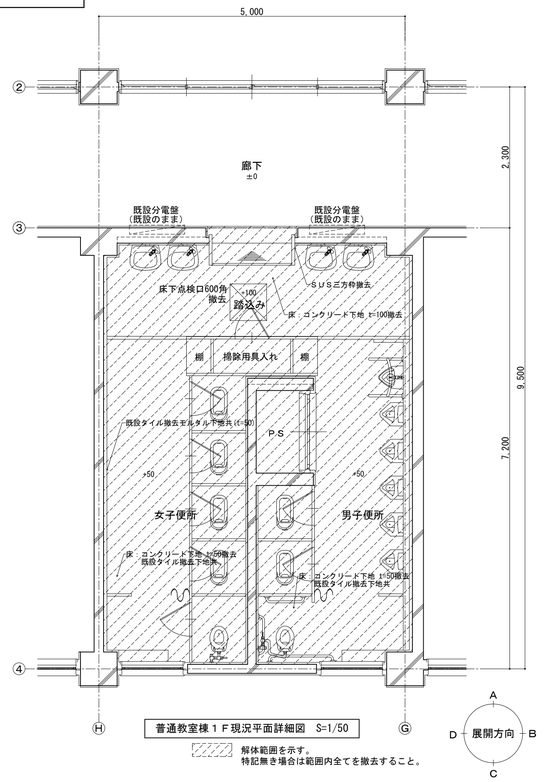
2階現況平面図　1/200

株式会社 中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検　印	担　当	担　当	年　月　日 2015/ 5/16	工事名称 北里小学校便所改修　工事設計図	図面番号 A－０７
				縮　尺 1/200	図面名 2階現況平面図【2】	



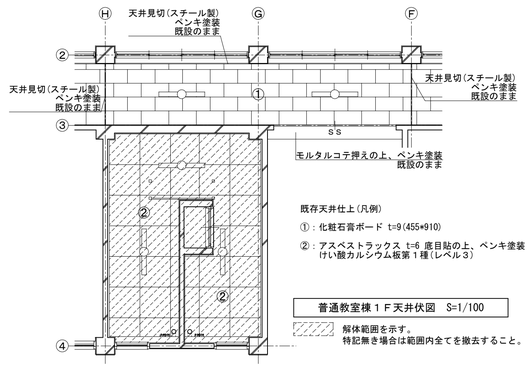
株式会社 中田 設計 一級建築士 登録 第８０８０５号 中田 全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 2015/ 5/16	工事名称 北里小学校便所改修 工事設計図	図面番号 A－０８
				縮 尺 1/200	図面名 3階・PH・R現況平面図【3】	

現　況



普通教室棟１Ｆ現況平面詳細図　S=1/50

解体範囲を示す。
特記無き場合は範囲内全てを撤去すること。



既存天井仕上（凡例）

①：化粧石膏ボード t=9(455×910)

②：アスベストトラックス t=6 底目貼の上、ペンキ塗装
けい酸カルシウム板第１種(レベル３)

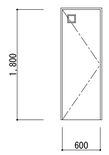
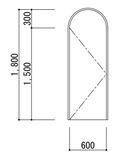
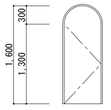
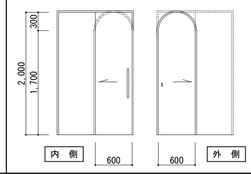
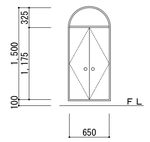
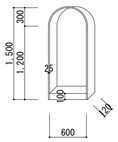
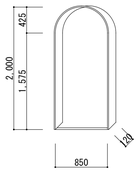
普通教室棟１Ｆ天井伏図　S=1/100

解体範囲を示す。
特記無き場合は範囲内全てを撤去すること。

便　所	
床(踏込み)	長尺塩ビシート仕上げ　軽量コンクリート t=100
床	モザイクタイル張り　モルタル下地，軽量コンクリート t=50共撤去
壁	１００角タイル張り　モルタル下地共撤去
天　井	アスベストラックス t=6 底目貼の上、ペンキ塗装
備　考	ＴＢ　面台　備品　衛生機器　出入り口三方枠（ＳＵＳ）
	特記なき限り全て撤去

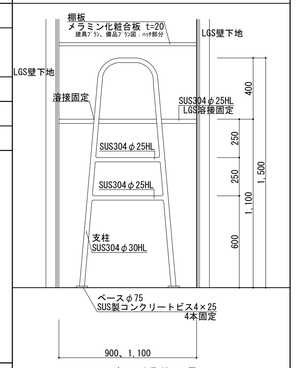
ＰＳ	
床、壁	ＲＣ壁撤去
天　井	既設のまま　区画貫通部耐火ＧＷ充填
備　考	一部配管撤去　配管補強材［－１００＊５０撤去　設備図参照

建具リスト

記　号	ＷＤ－１、ＷＤ－１'		ＷＤ－２、ＷＤ－２'		ＷＤ－３、ＷＤ－３'		ＷＤ－４	
名　称	木製片開きドア		木製片開きドア		木製片開きドア		木製片引戸　常時開放	
位　置	掃除用具入れ		男子トイレ、女子トイレ		男子トイレ、女子トイレ		女子トイレ	
金　物	SUS製丁番・ドアチェック・レバーハンドル 建具枠・戸当り・その他必要金物		SUS製丁番・表示付回転ラッチ引掛錠(非常解除付) 建具枠・戸当り・その他必要金物		SUS製丁番・表示付回転ラッチ引掛錠(非常解除付) 建具枠・戸当り・その他必要金物		建具枠・フラットレール・表示付回転ラッチ引掛錠(非常解除付) 外側：角取手、内側：握りバー(L=450)・指詰防止パッキン ｿﾌﾄｸﾛｰｽﾞﾀｲﾌﾟ仕様・その他必要金物	
ガラス	アクリル樹脂板(半透明)		―――		―――		―――	
仕　上	メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板	
数量・見込	2	３６	4	３６	2	３６	2	３６
姿　図								
記　号	ＳＤ－１		ＷＦ－１		ＷＦ－２			
名　称	鋼製両開きドア		木製三方枠		木製三方枠			
位　置	ＰＳ		でん		男子便所、女子便所			
金　物	SUS製丁番・ケースハンドル・シリンダー錠 フランス落し、建具枠・その他必要金物							
ガラス	―――							
仕　上	焼付塗装(指定色)		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板			
数量・見込	1	４０	2	―	3	―		
姿　図								

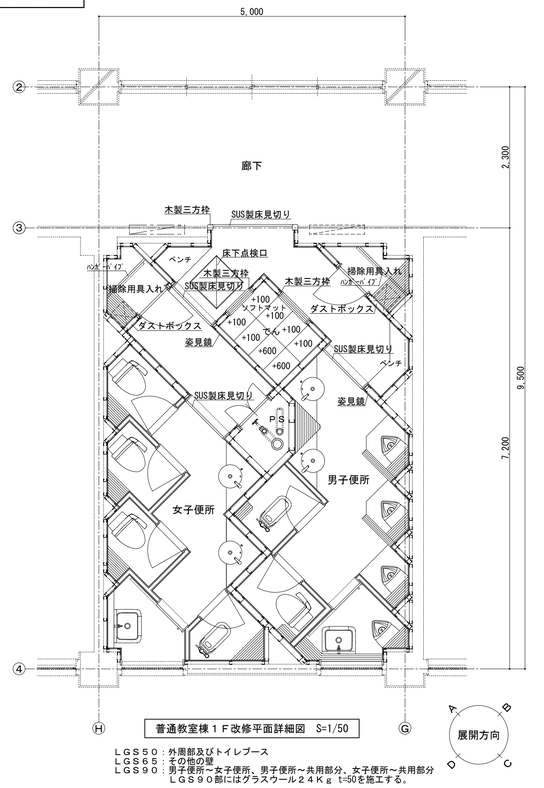
部分詳細図

ハンガーパイプ詳細図 ＨＰ１　S=1/20



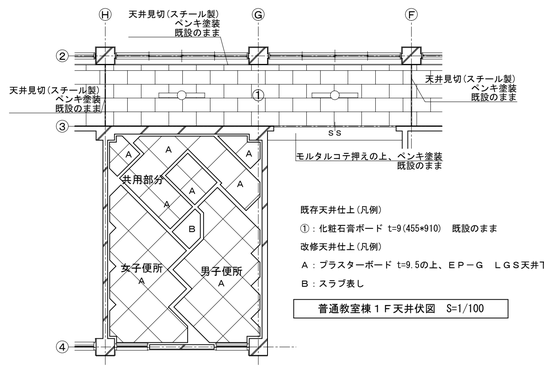
Ｓ字フック取付：６個

改　修　後



普通教室棟１Ｆ改修平面詳細図　S=1/50

ＬＧＳ５０：外周部及びトイレブース
ＬＧＳ６５：その他の壁
ＬＧＳ９０：男子便所～女子便所、男子便所～共用部分、女子便所～共用部分
　　ＬＧＳ９０部にはグラスウール２４Ｋｇ t=50を施工する。



既存天井仕上（凡例）

①：化粧石膏ボード t=9(455×910)　既設のまま

改修天井仕上（凡例）

Ａ：プラスターボード t=9.5の上、ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地

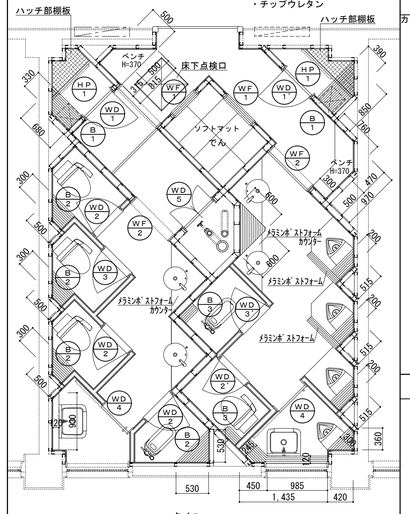
Ｂ：スラブ表し

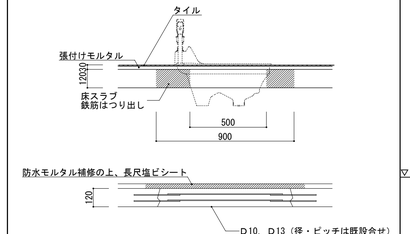
普通教室棟１Ｆ天井伏図　S=1/100

便　所	
床	長尺塩ビシートt=2.0　モルタル下地　小便器前：防汚タイル
巾　木	塩ビ製 H=100
壁	シージングせっこうボード(GB-S) t=9.5 ２重貼の上、塩ビフィルム貼り
天　井	プラスターボード t=9.5の上、ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地
備　考	カウンター、面台　鏡　衛生機器　木製三方枠
	ＳＵＳ製床見切り、ダストボックス、ソフトマット

廊　下	
床	取合い部補修　既存仕上げ同等
壁	取合い部補修　既存仕上げ同等　付属する巾木等含む
天　井	取合い部補修　既存仕上げ同等　付属する廻り縁等含む

建具プラン、備品プラン図　S=1/50



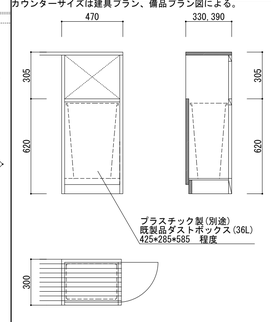


和便器撤去・補修詳細図　S=1/20

部分詳細図

ダストボックス詳細図 Ｂ１　S=1/20

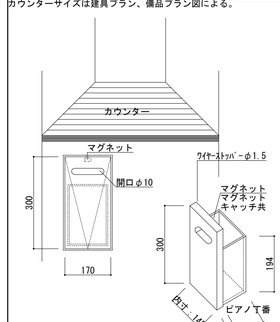
カウンターサイズは建具プラン、備品プラン図による。



面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

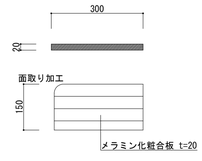
チャームボックス詳細図 Ｂ２　S=1/10

カウンターサイズは建具プラン、備品プラン図による。

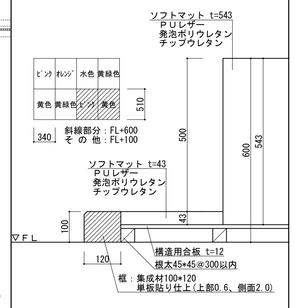


面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

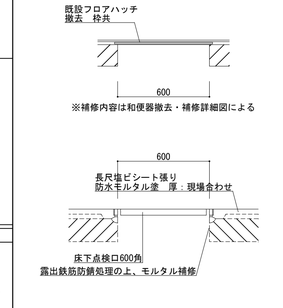
棚板詳細図 Ｂ３　S=1/10



でん断面詳細図　S=1/20

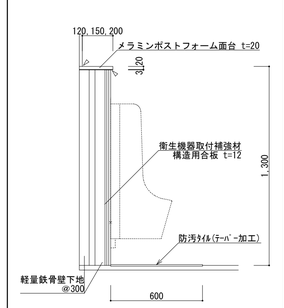


床下点検口詳細図　S=1/20



設備配管用ライニング（ＬＧＳ）詳細図　S=1/20

面台サイズは建具プラン、備品プラン図による。

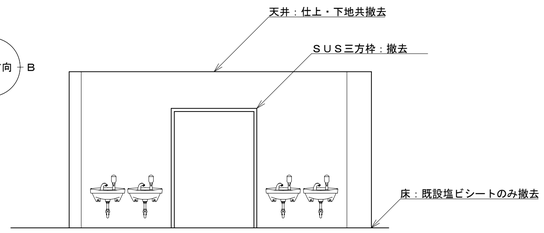


【特記事項】

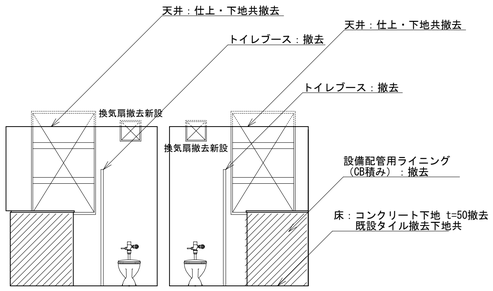
株式会社 中田　設計	検印	担当	担当
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一			

年月日	H27.03.31	工事名称	北里小学校トイレ改修工事　設計図	図面番号	Ａ－０９
縮尺	A3:1/20, 40, 100 A1:1/10, 20, 50	図面名	普通教室棟　１階平面詳細図(現況・改修後)、建具リスト、部分詳細図		

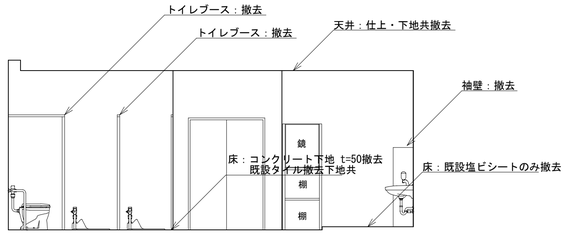
現　況



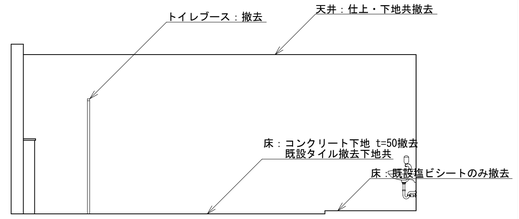
共用部分：Ａ　　共用部分：Ａ



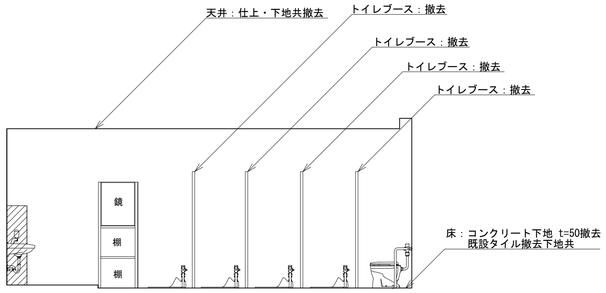
男子便所：Ｃ　　女子便所：Ｃ



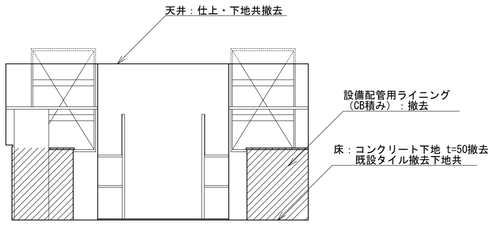
女子便所：Ｂ　　共用部分：Ｂ



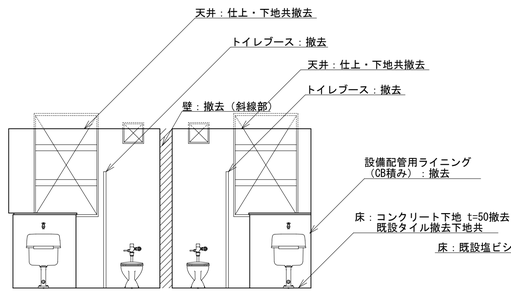
女子便所：Ｄ　　共用部：Ｄ



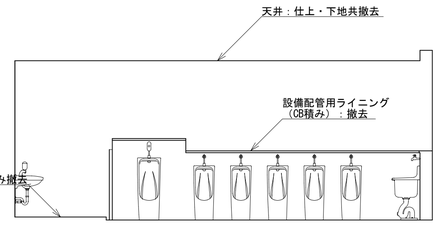
共用部分：Ａ　　女子便所：Ａ



男子便所：Ｃ　　女子便所：Ｃ

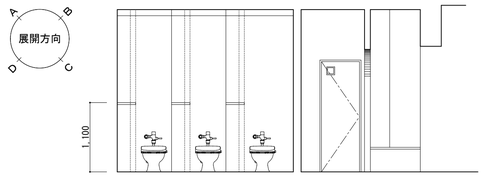


男子便所：Ｃ　　女子便所：Ｃ

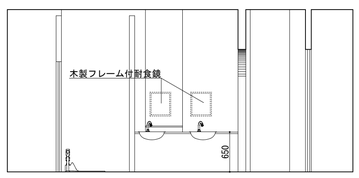


共用部分：Ｂ　　男子便所：Ｂ

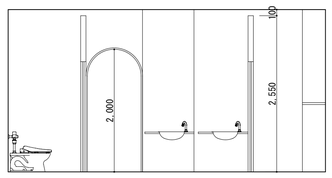
改　修　後



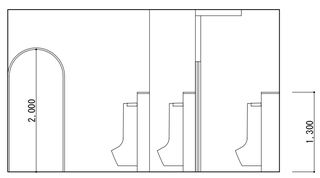
女子便所：Ａ　　共用部分：Ａ



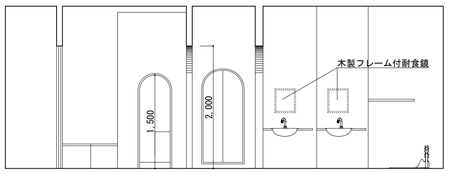
男子便所：Ａ　　共用部分：Ａ



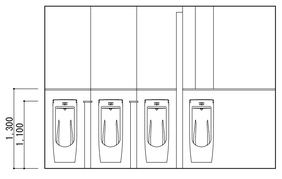
女子便所：Ｂ



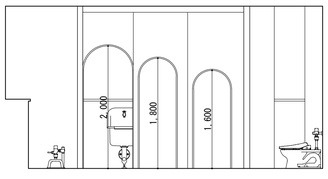
男子便所：Ｂ



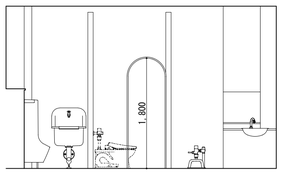
女子便所：Ｃ



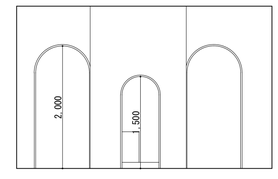
男子便所：Ｃ



女子便所：Ｄ



男子便所：Ｄ

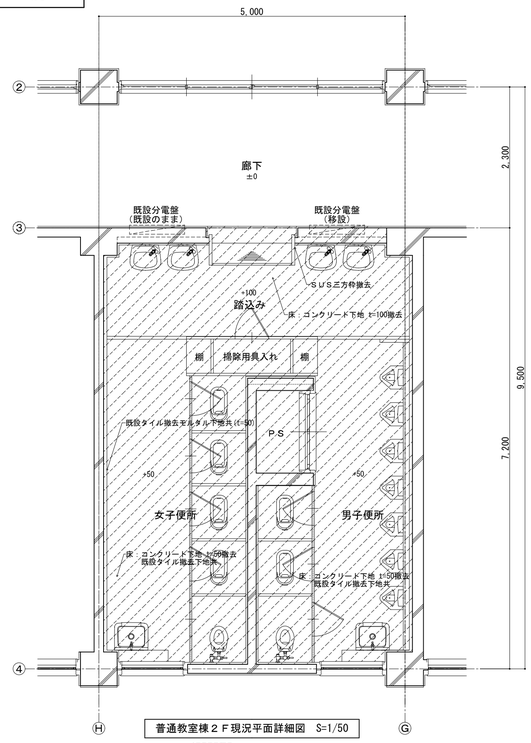


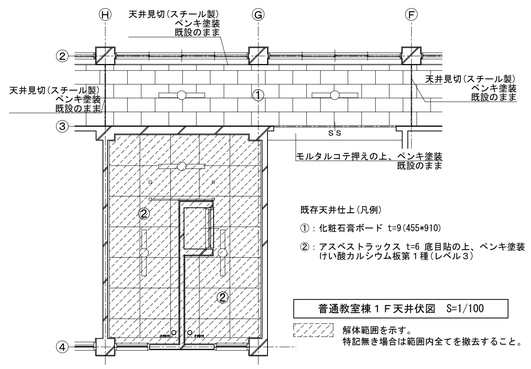
共用部分：Ｄ

【特記事項】

株式会社 中田 設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 H27.03.31 縮 尺 A3:1/100 A1:1/ 50	工事名称 北里小学校トイレ改修工事　設計図 図面名 普通教室棟１階展開図(現況・改修後)	図面番号 Ａ－１０

現　況

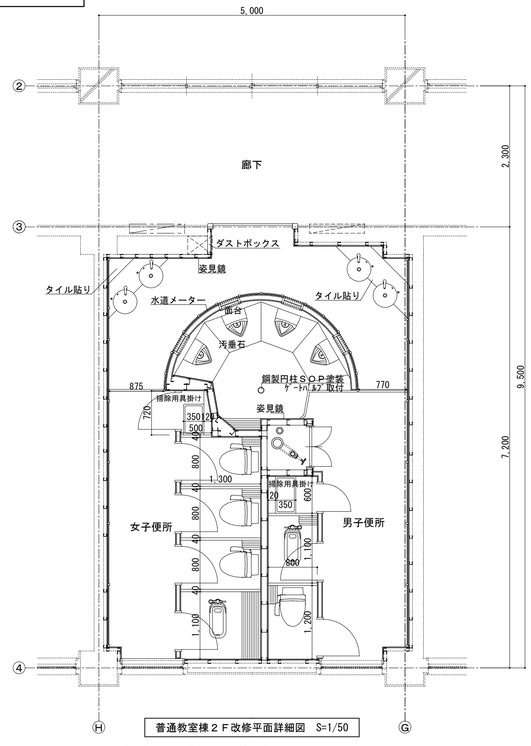


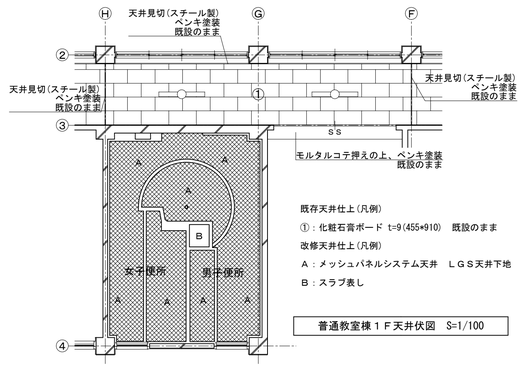


便　所	
床（踏込み）	長尺塩ビシート仕上げ　軽量コンクリート t=100
床	モザイクタイル張り　モルタル下地，軽量コンクリート t=50共撤去
壁	１００角タイル張り　モルタル下地共撤去
天　井	アスベストラックス t=6 底目貼の上、ペンキ塗装
備　考	ＴＢ　面台　備品　衛生機器　出入り口三方枠（ＳＵＳ）
	特記なき限り全て撤去

ＰＳ	
床、壁	ＲＣ壁撤去
天　井	既設のまま　区画貫通部耐火ＧＷ充填
備　考	一部配管撤去　配管補強材［－１００＊５０撤去　設備図参照

改　修　後





便　所	
床	長尺塩ビシートt=2.0　モルタル下地　小便器前：防汚タイル
巾　木	塩ビ製 H=100
壁	シージングせっこうボード(GB-S) t=9.5 ２重貼の上、塩ビフィルム貼り アクリル板及びパンチングメタル下地はSOP塗装仕上げ
天　井	プラスターボード t=9.5の上、ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地
備　考	カウンター、面台　鏡　衛生機器　木製三方枠
	ＳＵＳ製床見切り、ダストボックス

廊　下	
床	取合い部補修　既存仕上げ同等
壁	取合い部補修　既存仕上げ同等　付属する巾木等含む
天　井	取合い部補修　既存仕上げ同等　付属する廻り縁等含む

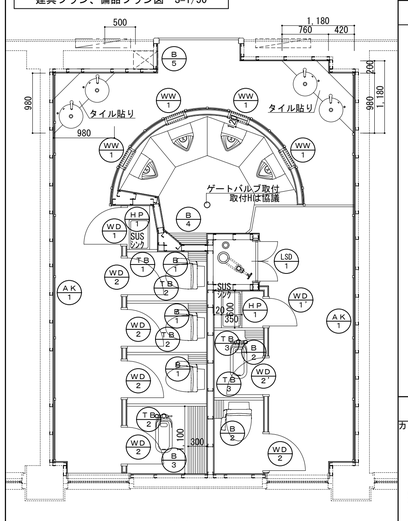
ＬＧＳ５０：外周部及びトイレブース
ＬＧＳ６５：その他の壁
ＬＧＳ９０：男子便所～女子便所、男子便所～共用部分、女子便所～共用部分
　　ＬＧＳ９０部にはグラスウール２４Ｋｇ t=50を施工する。

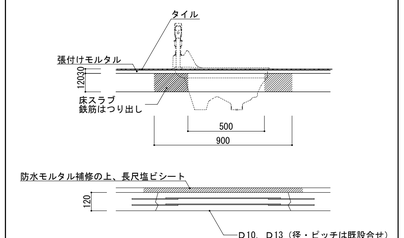
建具リスト

記　号	ＷＤ－１		ＷＤ－２、ＷＤ－２'		ＷＤ－３		ＷＷ－２	
名　称	木製片開きドア		木製片開きドア		木製片開きドア		木製ＦＩＸ窓	
位　置	男子トイレ		男子トイレ、女子トイレ		女子トイレ		男子トイレ	
金　物	SUS製丁番、ケースハンドル 建具枠(SOP塗装)・戸当り・その他必要金物		SUS製丁番・表示付回転ラッチ引掛錠(非常解除付) 建具枠(SOP塗装)・戸当り・その他必要金物		SUS製丁番、ケースハンドル 建具枠(SOP塗装)・戸当り・その他必要金物		建具枠(SOP塗装) その他必要金物	
ガラス	―――		アクリル樹脂板(半透明)		―――		アクリル樹脂板(半透明)	
仕　上	メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		SOP塗装	
数量・見込	1	３６	6	３６	1	３６	2	―
姿　図	1,800 450		300 1,800 1,500 600		1,800 600		300	

記　号	ＴＢ－１、ＴＢ－２、ＴＢ－３		ＬＳＤ－１	
名　称	トイレブース		鋼製軽量ドア	
位　置	女子トイレ		ＰＳ	
仕　上	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 その他必要金物		仕上　亜鉛めっき鋼板 t=1.6(焼付塗装仕上) 芯材　ペーパーハニカムコア 目板・召合せ　亜鉛めっき鋼板 t=1.2(焼付塗装仕上) 枠　亜鉛めっき鋼板 t=1.6(焼付塗装仕上) シリンダー錠、ケースハンドル、フランス落し ＳＵＳ製丁番 その他必要金物	
数量・見込	TB1：1、TB2：3、TB3：2	４０	1	４０
姿　図	1,900 TB1：500 TB2：1,300 TB3：800		1,500 600	

建具プラン、備品プラン図　S=1/50

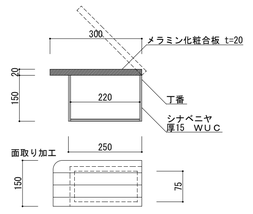




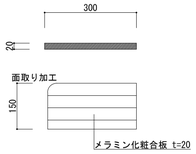
和便器撤去・補修詳細図　S=1/20

部分詳細図

チャームボックス詳細図　Ｂ１　S=1/10

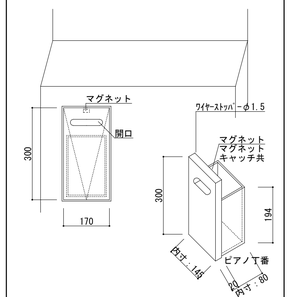


棚板詳細図　Ｂ２　S=1/10



チャームボックス詳細図　Ｂ３　S=1/10

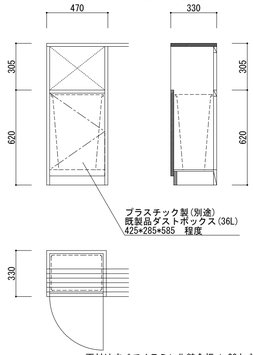
カウンターサイズは建具プラン、備品プラン図による。



面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

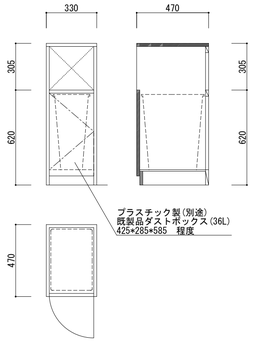
ダストボックス詳細図　Ｂ４　S=1/20

カウンターサイズは建具プラン、備品プラン図による。



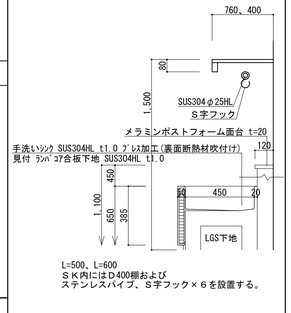
面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

ダストボックス詳細図　Ｂ５　S=1/20

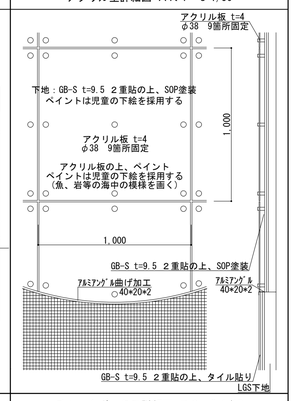


面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

ハンガーパイプ詳細図　ＨＰ１　S=1/20

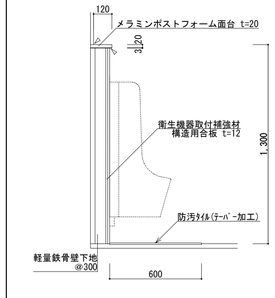


アクリル壁詳細図　ＡＫ１　S=1/50



設備配管用ライニング（ＬＧＳ）詳細図　S=1/20

面台サイズは建具プラン、備品プラン図による。



面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

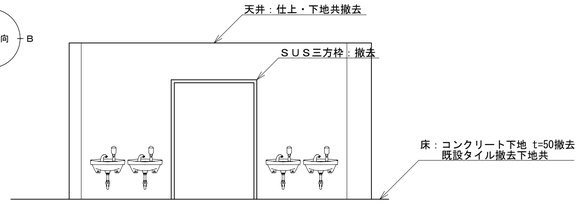
【特記事項】

株式会社　中田　設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

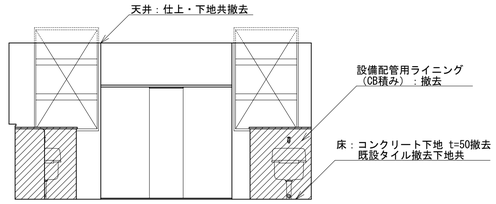
検　印	担　当	担　当

年 月 日	H27.03.31
縮　尺	A3:1/100 A1:1/ 50
工事名称	北里小学校トイレ改修工事　設計図
図面名	普通教室棟　２階平面詳細図（現況・改修後）、建具リスト、部分詳細図
図面番号	Ａ－１１

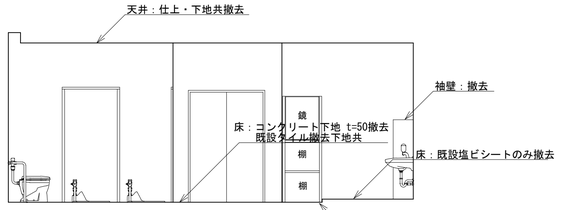
現　況



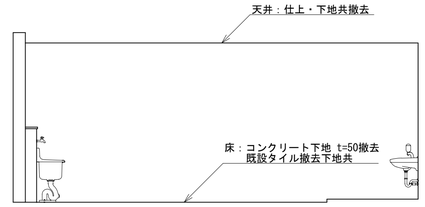
共用部分：Ａ　　共用部分：Ａ



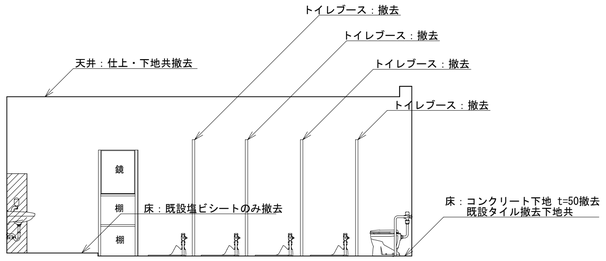
男子便所：Ｃ　　女子便所：Ｃ



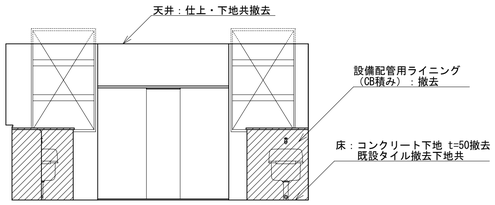
女子便所：Ｂ　　共用部分：Ｂ



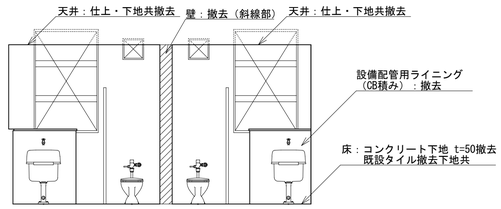
女子便所：Ｄ　　共用部：Ｄ



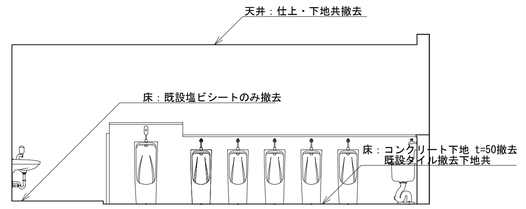
共用部分：Ａ　　女子便所：Ａ



男子便所：Ｃ　　女子便所：Ｃ

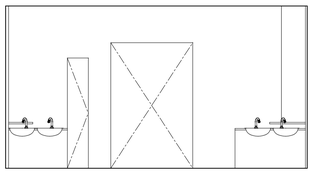


男子便所：Ｃ　　女子便所：Ｃ

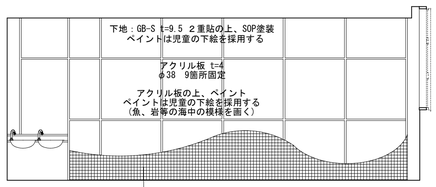


共用部分：Ｂ　　男子便所：Ｂ

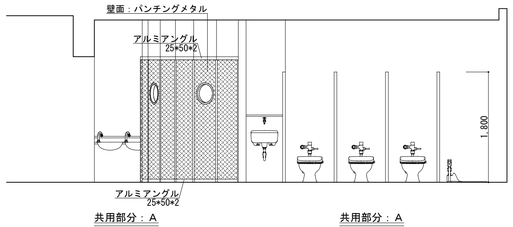
改　修　後



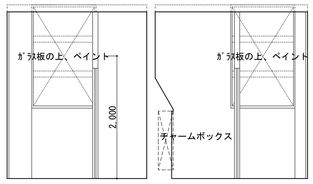
共用部分：Ａ



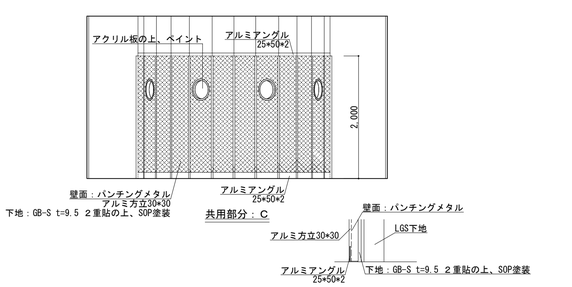
男子便所：Ｂ

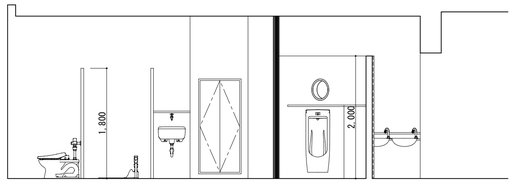


共用部分：Ａ　　共用部分：Ａ

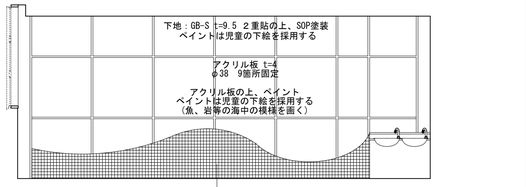


男子便所：Ｃ　　男子便所：Ｃ





男子便所：Ｄ　　共用部分：Ｄ

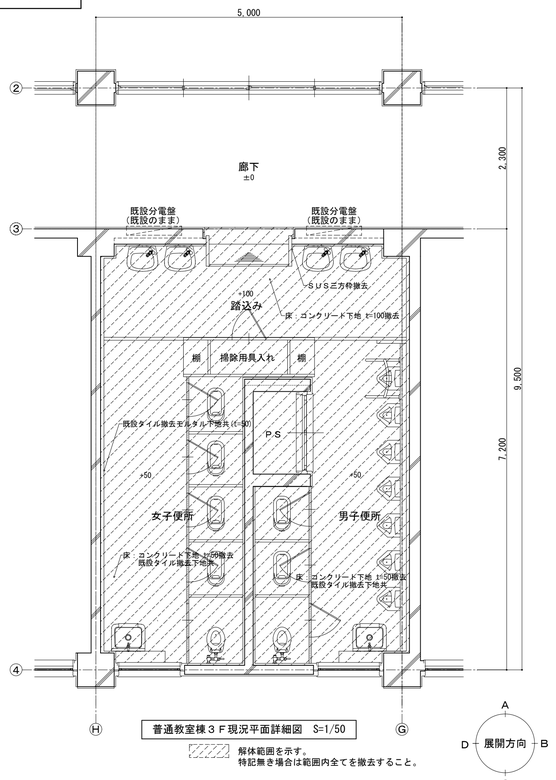


女子便所：Ｄ

【特記事項】

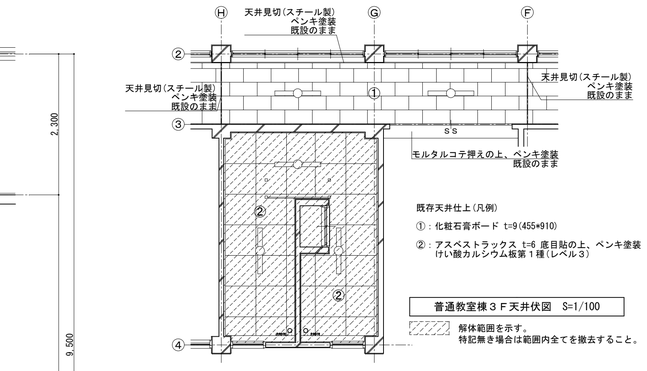
株式会社 中田 設計 一級建築士 登録 第８０８０５号 中田 全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 H27.03.31 縮 尺 A3:1/100 A1:1/ 50	工事名称 北里小学校トイレ改修工事 設計図 図面名 普通教室棟２階展開図（現況・改修後）	図面番号 Ａ－１２

現　況



普通教室棟３Ｆ現況平面詳細図　S=1/50

解体範囲を示す。
特記無き場合は範囲内全てを撤去すること。



既存天井仕上(凡例)

①：化粧石膏ボード t=9(455*910)

②：アスベストラックス t=6 底目貼の上、ペンキ塗装
けい酸カルシウム板第１種(レベル３)

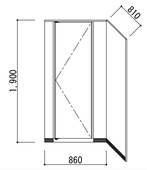
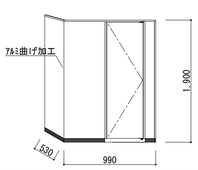
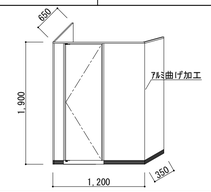
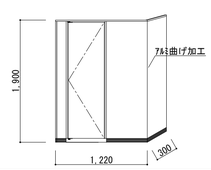
普通教室棟３Ｆ天井伏図　S=1/100

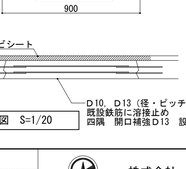
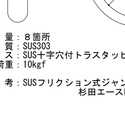
解体範囲を示す。
特記無き場合は範囲内全てを撤去すること。

便　所	
床(踏込み)	長尺塩ビシート仕上げ　軽量コンクリート t=100
床	モザイクタイル張り　モルタル下地、軽量コンクリート t=50共撤去
壁	１００角タイル張り　モルタル下地共撤去
天　井	アスベストラックス t=6 底目貼の上、ペンキ塗装
備　考	ＴＢ　面台　備品　衛生機器　出入り口三方枠（ＳＵＳ）
	特記なき限り全て撤去

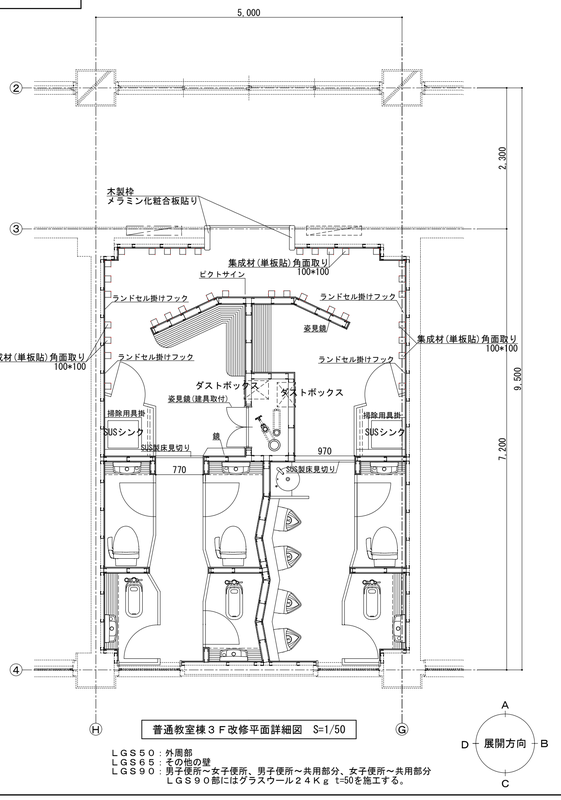
ＰＳ	
床、壁	ＲＣ壁撤去
天　井	既設のまま　区画貫通部耐火ＧＷ充填
備　考	一部配管撤去　配管補強材［－１００＊５０撤去　設備図参照

建具リスト

記　号	ＴＢ－１、ＴＢ－１'	ＴＢ－２	ＴＢ－３	ＴＢ－４
名　称	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース
位　置	女子トイレ、男子トイレ	女子トイレ	女子トイレ	女子トイレ
仕　上	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　(アイカ指定) 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　(アイカ指定) 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　(アイカ指定) 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　(アイカ指定) 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵
数量・見込	2 ／ ４０	1 ／ ４０	1 ／ ４０	1 ／ ４０
姿　図				

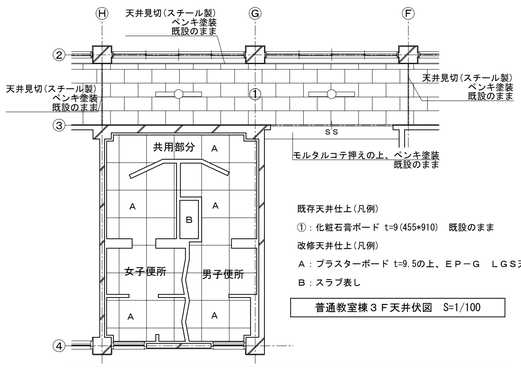
記　号	ＴＢ－５	ＴＢ－６	ＴＢ－７	ＬＳＤ－１
名　称	トイレブース	トイレブース	トイレブース	鋼製軽量ドア
位　置	女子トイレ	男子トイレ	男子トイレ	ＰＳ
仕　上	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　(アイカ指定) 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　(アイカ指定) 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　(アイカ指定) 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　亜鉛めっき鋼板 t=1.6(焼付塗装仕上) 芯材　ペーパーハニカムコア 目板・召合せ　亜鉛めっき鋼板 t=1.2(焼付塗装仕上) 枠　亜鉛めっき鋼板 t=1.6(焼付塗装仕上) シリンダー錠、ケースハンドル、フランス落し ＳＵＳ製丁番 その他必要金物
数量・見込	1 ／ ４０	1 ／ ４０	1 ／ ４０	1 ／ ４０
姿　図				

改　修　後



普通教室棟３Ｆ改修平面詳細図　S=1/50

ＬＧＳ５０：外周部
ＬＧＳ６５：その他の壁
ＬＧＳ９０：男子便所～女子便所、男子便所～共用部分、女子便所～共用部分
　　ＬＧＳ９０部にはグラスウール２４Ｋｇ t=50を施工する。



既存天井仕上(凡例)

①：化粧石膏ボード t=9(455*910)　既設のまま

改修天井仕上(凡例)

Ａ：プラスターボード t=9.5の上、ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地

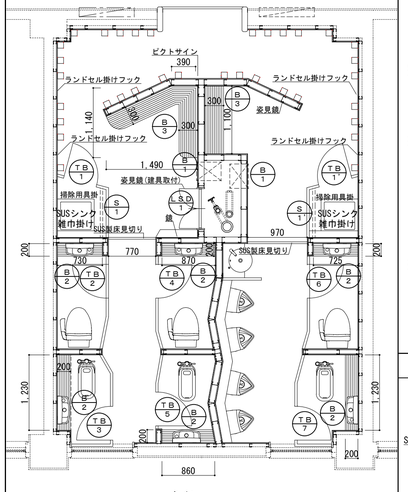
Ｂ：スラブ表し

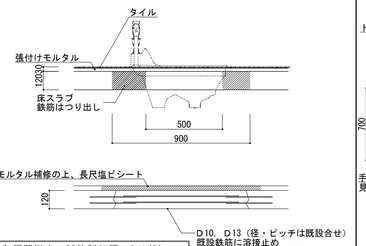
普通教室棟３Ｆ天井伏図　S=1/100

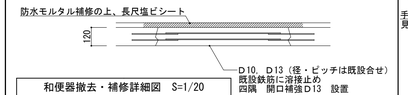
便　所	
床	長尺塩ビシートt=2.0　モルタル下地　小便器前：防汚タイル
巾　木	塩ビ製 H=100
壁	シージングせっこうボード(GB-S) t=9.5 ２重貼の上、塩ビフィルム貼り
	シナ合板底目地張り t=3
天　井	プラスターボード t=9.5の上、ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地
備　考	カウンター、面台　鏡　衛生機器　木製三方枠
	ＳＵＳ製床見切り、ダストボックス

廊　下	
床	取合い部補修　既存仕上げ同等
壁	取合い部補修　既存仕上げ同等　付属する巾木等含む
天　井	取合い部補修　既存仕上げ同等　付属する廻り縁等含む

建具プラン、備品プラン図　S=1/50



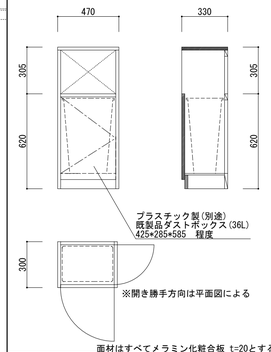




和便器撤去・補修詳細図　S=1/20

部分詳細図

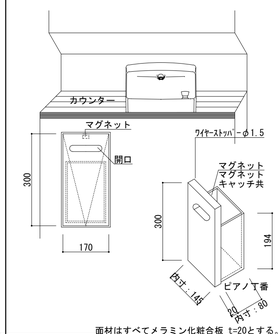
ダストボックス詳細図 Ｂ１　S=1/20



面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

チャームボックス詳細図 Ｂ２　S=1/10

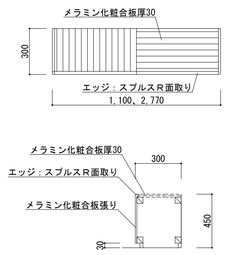
カウンターサイズは建具プラン、備品プラン図による。



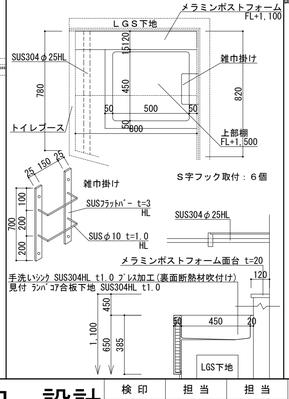
面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

ベンチ詳細図 Ｂ３　S=1/10

ベンチサイズは建具プラン、備品プラン図による。

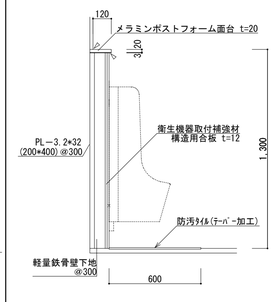


掃除用具入詳細図 Ｓ１　S=1/20

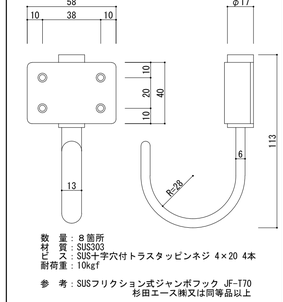


設備配管用ライニング(ＬＧＳ)詳細図　S=1/20

面台サイズは建具プラン、備品プラン図による。



ランドセル掛けフック　S=1/2



数　量：８箇所
材　質：SUS303
ビ　ス：SUS十字穴付トラスタッピンネジ 4×20 4本
耐荷重：10kgf

参　考：SUSフリクション式ジャンボフック JF-T70
　　杉田エース㈱又は同等品以上

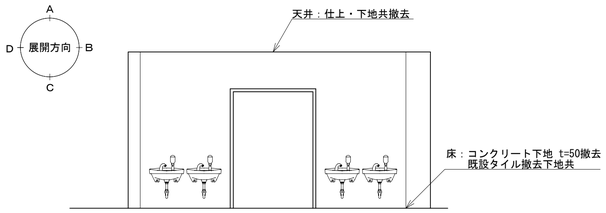
【特記事項】

株式会社　中田　設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

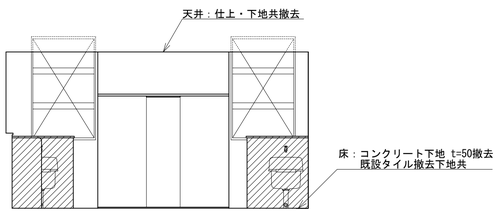
検印	担当	担当

年月日	H27.03.31
縮尺	A3:1/4, 20, 40, 100 A1:1/2, 10, 20, 50
工事名称	北里小学校トイレ改修工事　設計図
図面名	普通教室棟　１階平面詳細図(現況・改修後)、建具リスト、部分詳細図
図面番号	Ａ－１３

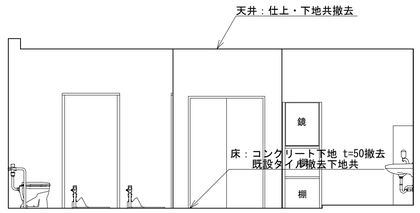
現　況



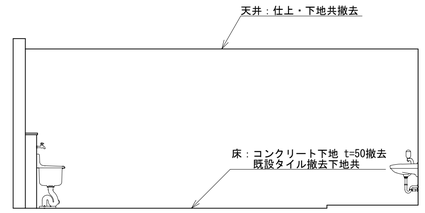
共用部分：A　　共用部分：A



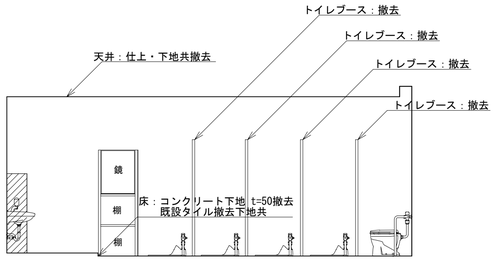
男子便所：C　　女子便所：C



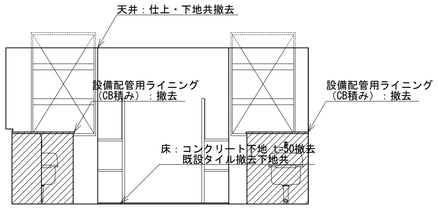
女子便所：B　　共用部分：B



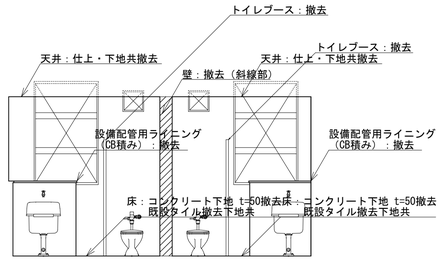
女子便所：D　　共用部：D



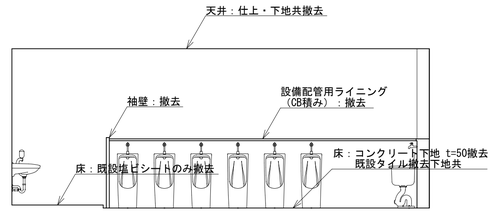
共用部分：A　　女子便所：A



男子便所：C　　女子便所：C

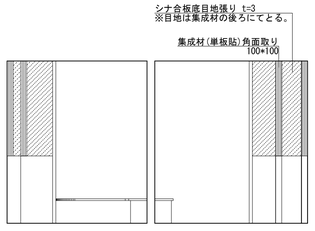


男子便所：C　　女子便所：C

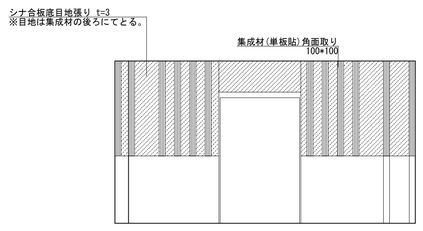


共用部分：B　　男子便所：B

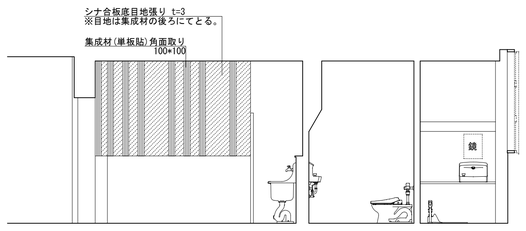
改　修　後



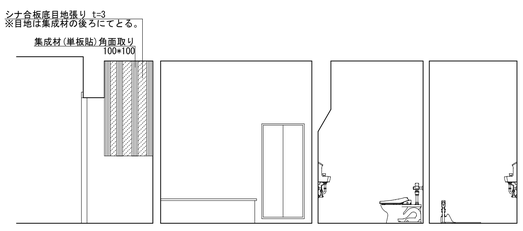
女子便所：A　　男子便所：A



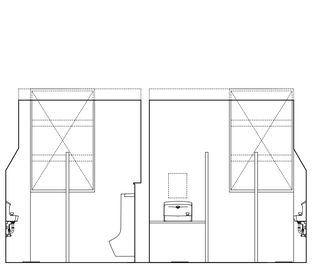
共用部分：A



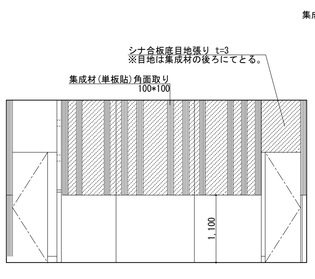
男子便所：B



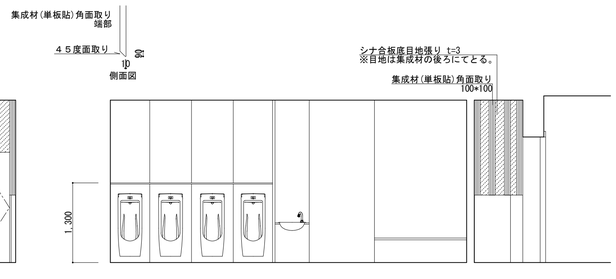
共用部分：B　　女子便所：B



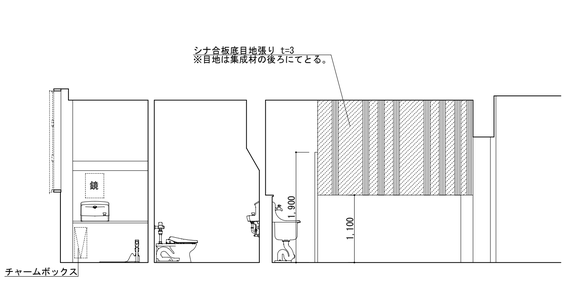
男子便所：C　　女子便所：C



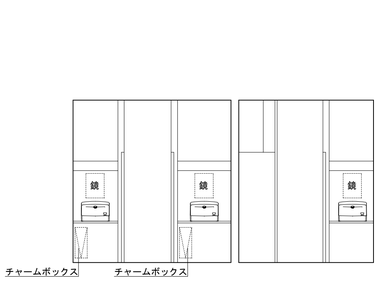
共用部分：C



男子便所：D　　共用部分：D



女子便所：D

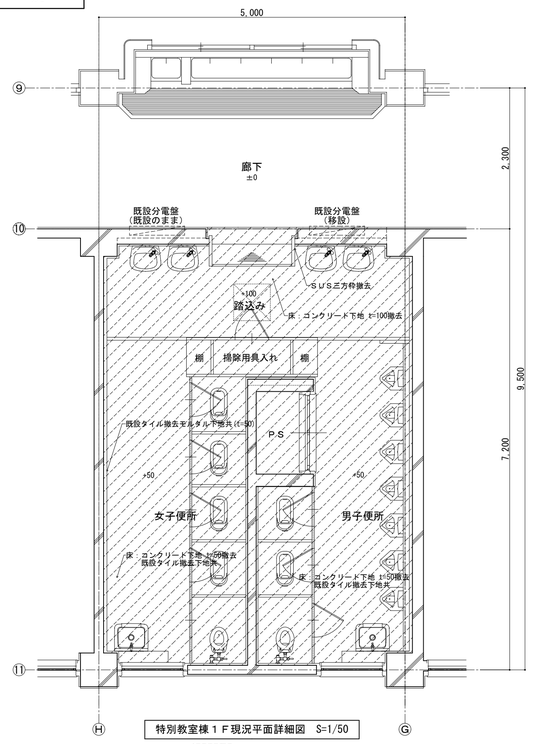


女子便所：A　　男子便所：A

【特記事項】

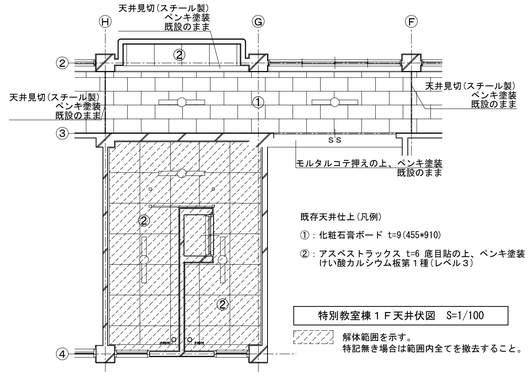
株式会社 中田 設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 H27.03.31 縮 尺 A3:1/100 A1:1/ 50	工事名称 北里小学校トイレ改修工事　設計図 図面名 普通教室棟２階展開図（現況・改修後）	図面番号 Ａ－１４

現　況



特別教室棟１Ｆ現況平面詳細図　S=1/50

解体範囲を示す。
特記無き場合は範囲内全てを撤去すること。



既存天井仕上（凡例）

①：化粧石膏ボード　t=9(455*910)

②：アスベストラックス　t=6　底目貼の上、ペンキ塗装
けい酸カルシウム板第１種（レベル３）

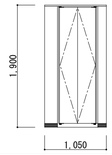
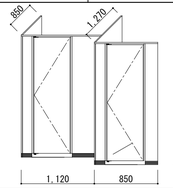
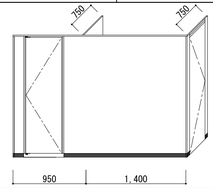
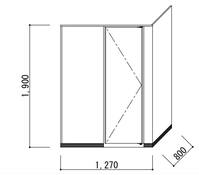
特別教室棟１Ｆ天井伏図　S=1/100

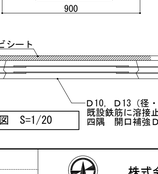
解体範囲を示す。
特記無き場合は範囲内全てを撤去すること。

便　所	
床（踏込み）	長尺塩ビシート仕上げ　軽量コンクリート　t=100
床	モザイクタイル張り　モルタル下地，　軽量コンクリート　t=50共撤去
壁	１００角タイル張り　モルタル下地共撤去
天　井	アスベストラックス　t=6　底目貼の上、ペンキ塗装
備　考	ＴＢ　面台　備品　衛生機器　出入り口三方枠（ＳＵＳ）
	特記なき限り全て撤去

ＰＳ	
床、壁	ＲＣ壁撤去
天　井	既設のまま　区画貫通部耐火ＧＷ充填
備　考	一部配管撤去　配管補強材［－１００＊５０撤去　設備図参照

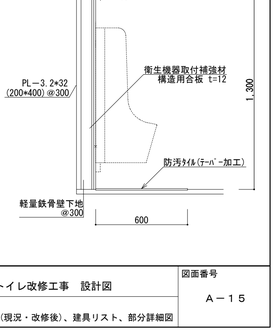
建具リスト

記　号	ＴＢ－１	ＴＢ－２	ＴＢ－３	ＴＢ－４
名　称	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース
位　置	男子トイレ	男子トイレ	女子トイレ	女子トイレ
仕　上	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス その他必要金物	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵
数量・見込	1　／　４０	1　／　４０	1　／　４０	1　／　４０
姿　図				

記　号	ＴＢ－５	ＬＳＤ－１	ＬＳＤ－２
名　称	トイレブース	鋼製軽量ドア	鋼製軽量片引２連ドア
位　置	女子トイレ、男子トイレ	ＰＳ	多目的便所
仕　上	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木：ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　亜鉛めっき鋼板　t=1.6(焼付塗装仕上) 芯材　ペーパーハニカムコア 目板・召合せ　亜鉛めっき鋼板　t=1.2(焼付塗装仕上) 枠　　亜鉛めっき鋼板　t=1.6(焼付塗装仕上) シリンダー錠、ケースハンドル、フランス落し スチール三方枠・ＳＵＳ製丁番 その他必要金物	仕上　亜鉛めっき鋼板　t=1.6(焼付塗装仕上) 芯材　ペーパーハニカムコア 目板・召合せ　亜鉛めっき鋼板　t=1.2(焼付塗装仕上) 枠　　亜鉛めっき鋼板　t=1.6(焼付塗装仕上) 取手(SUS製鏡仕上　φ25 L=600)・自動閉鎖装置付 表示付回転ラッチ引掛錠(非常解除付) スチール三方枠・SUS製沓摺・戸当り枠・その他必要金物
数量・見込	1　／　４０	1　／　４０	1　／　４０
姿　図			

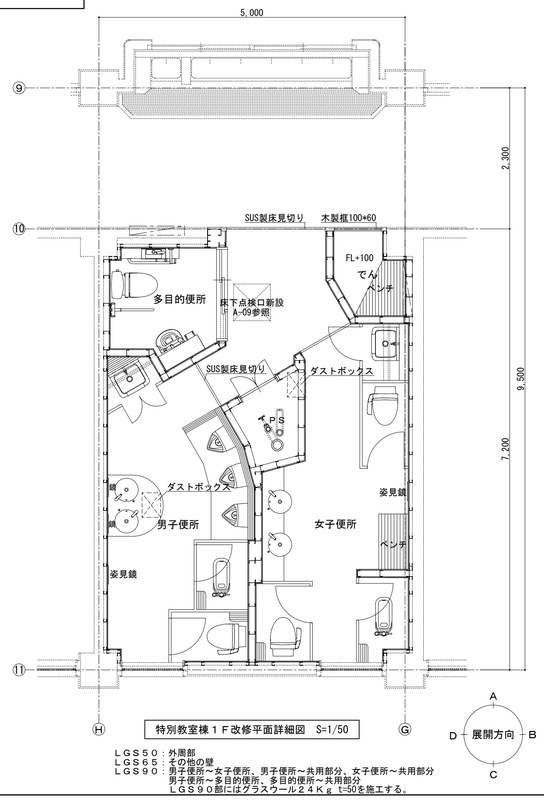
部分詳細図

ハンガーパイプ詳細図　ＨＰ１　S=1/20

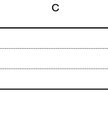


ＳＫ内には Ｄ400棚および
ステンレスパイプ、Ｓ字フック×６を設置する。

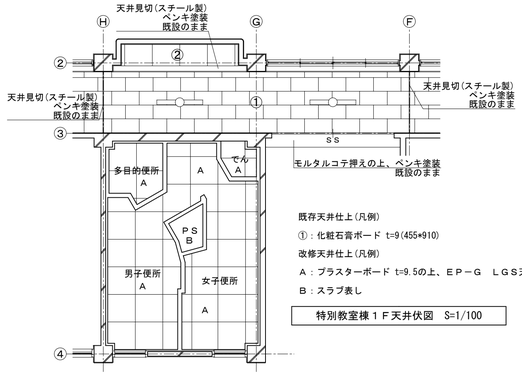
改　修　後



特別教室棟１Ｆ改修平面詳細図　S=1/50



ＬＧＳ５０：外周部
ＬＧＳ６５：その他の壁
ＬＧＳ９０：男子便所～女子便所、男子便所～共用部分、女子便所～共用部分
男子便所～多目的便所、多目的便所～共用部分
ＬＧＳ９０部にはプラスウール２４Ｋｇ t=50を施工する。



既存天井仕上（凡例）

①：化粧石膏ボード　t=9(455*910)

改修天井仕上（凡例）

Ａ：プラスターボード　t=9.5の上、ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地

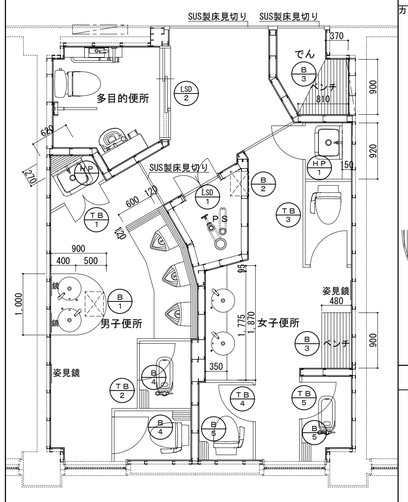
Ｂ：スラブ表し

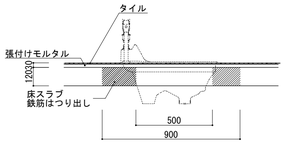
特別教室棟１Ｆ天井伏図　S=1/100

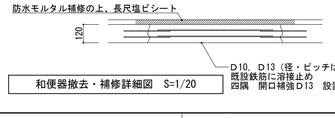
便　所	
床	長尺塩ビシートt=2.0　モルタル下地　小便器前：防汚タイル
壁	塩ビ製 H=100
巾　木	シージングせっこうボード(GB-S) t=9.5 ２重貼の上、塩ビフィルム貼り
天　井	プラスターボード t=9.5の上、ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地
備　考	カウンター、面台　鏡　衛生機器　木製三方枠
	ＳＵＳ製床見切り、ダストボックス

廊　下	
床	取合い部補修　既存仕上げ同等
壁	取合い部補修　既存仕上げ同等　付属する巾木等含む
天　井	取合い部補修　既存仕上げ同等　付属する廻り縁等含む

建具プラン、備品プラン図　S=1/50





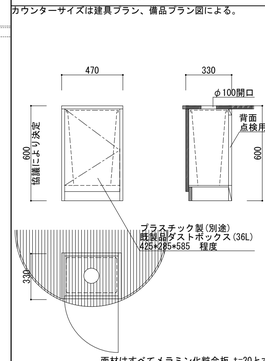


和便器撤去・補修詳細図　S=1/20

部分詳細図

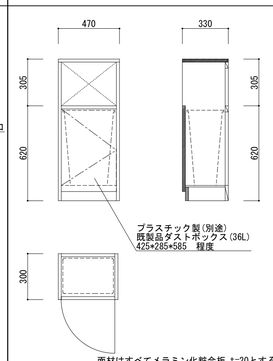
ダストボックス詳細図　Ｂ１　S=1/20

カウンターサイズは建具プラン、備品プラン図による。



面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

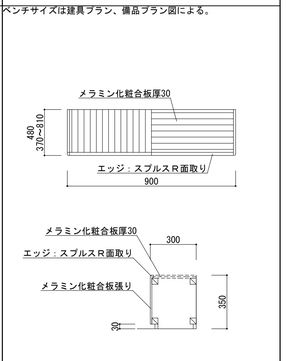
ダストボックス詳細図　Ｂ２　S=1/20



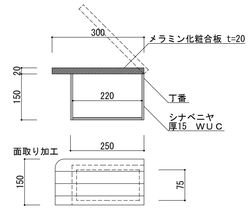
面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

ベンチ詳細図　Ｂ３　S=1/10

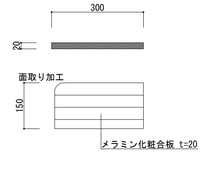
ベンチサイズは建具プラン、備品プラン図による。



チャームボックス詳細図　Ｂ４　S=1/10



棚板詳細図　Ｂ５　S=1/10



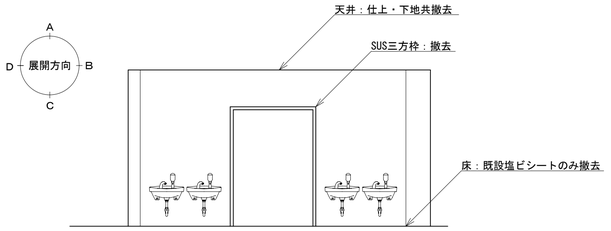
設備配管用ライニング（ＬＧＳ）詳細図　S=1/20

面台サイズは建具プラン、備品プラン図による。

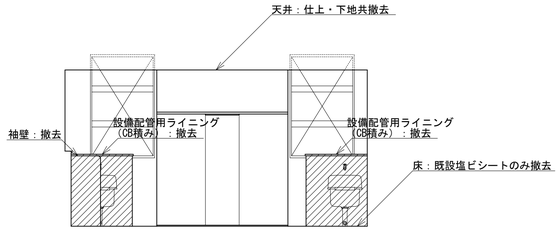
【特記事項】

株式会社　中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日　H27.03.31 縮 尺　A3:1/20,40,100 A1:1/10,20,50	工事名称　北里小学校トイレ改修工事　設計図 図面名　特別教室棟　２階平面詳細図（現況・改修後）、建具リスト、部分詳細図	図面番号　Ａ－１５

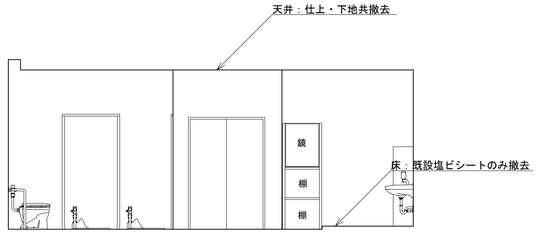
現　況



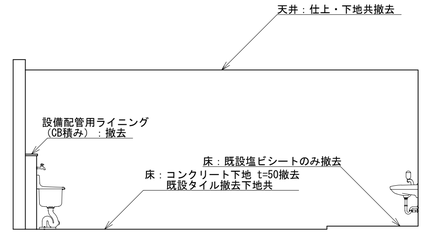
共用部分：A　　共用部分：A



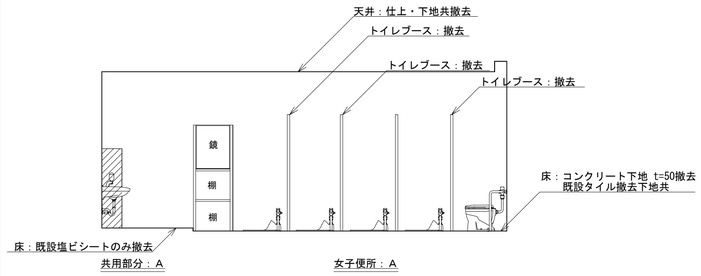
男子便所：C　　女子便所：C



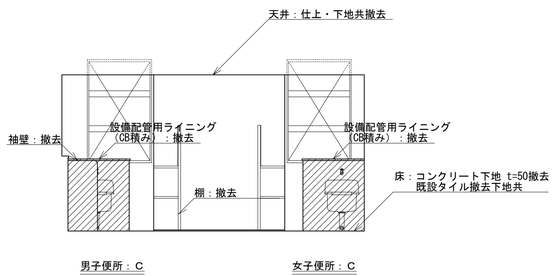
女子便所：B　　共用部分：B



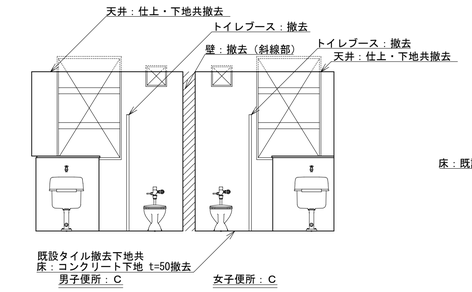
女子便所：D　　共用部：D



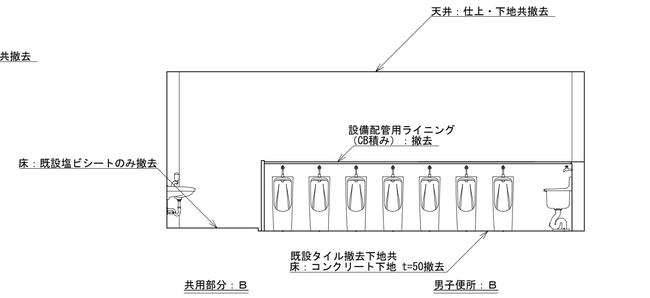
共用部分：A　　女子便所：A



男子便所：C　　女子便所：C

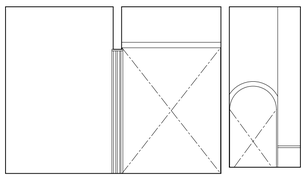


男子便所：C　　女子便所：C

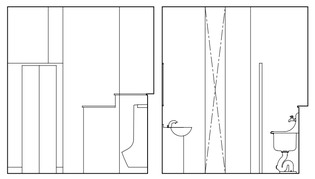


共用部分：B　　男子便所：B

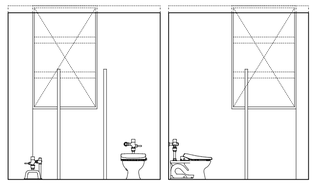
改　修　後



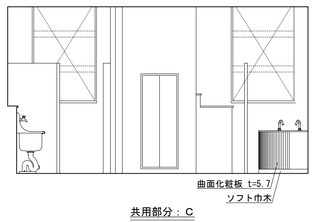
多目的：A　　共用部分：A



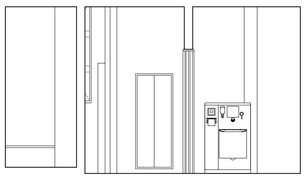
男子便所：A　　女子便所：A



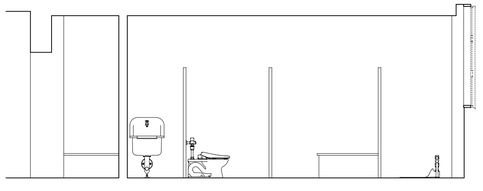
女子便所：C　　男子便所：C



共用部分：C

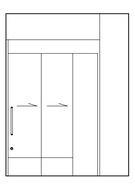


共用部分：C　　多目的：C

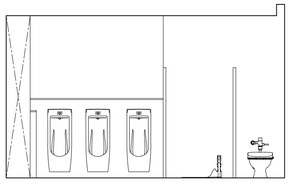


共用部分：B

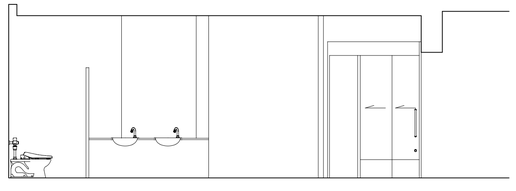
女子便所：B



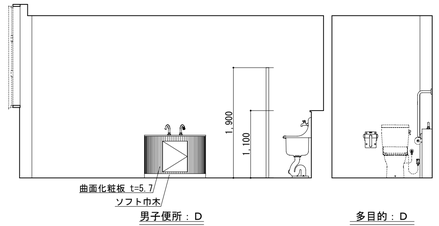
多目的：B



男子便所：B

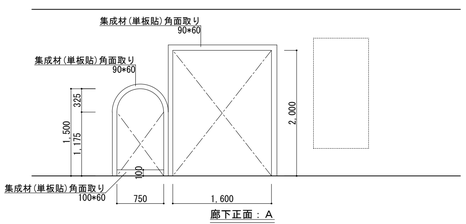


女子便所：D　　共用部分：D



男子便所：D

多目的：D



廊下正面：A

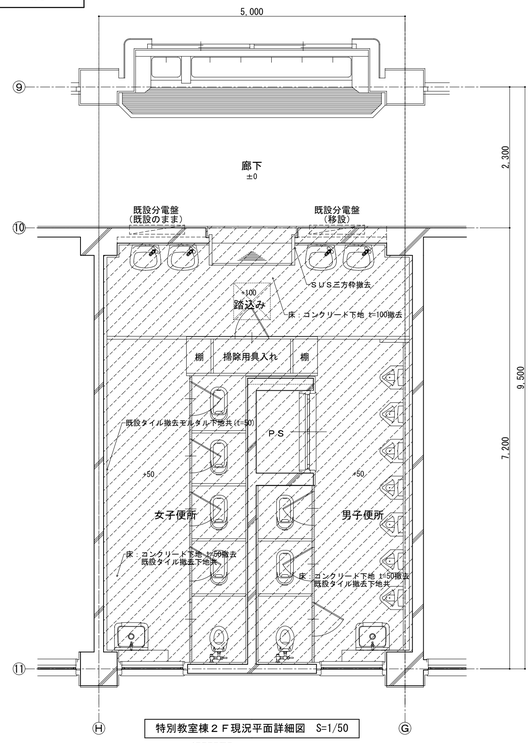
【特記事項】

一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

株式会社　中田　設計

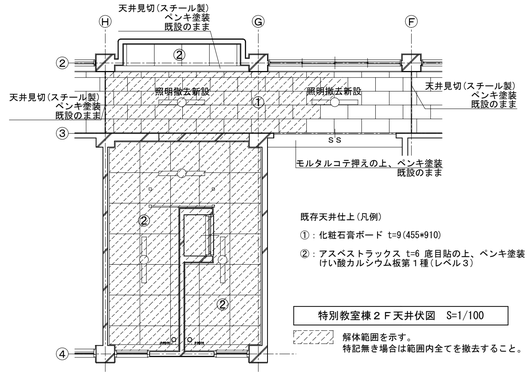
検印	担当	担当	年月日	工事名称	図面番号
			H27.03.31	北里小学校トイレ改修工事　設計図	Ａ－１６
			縮尺 A3:1/100 A1:1/ 50	図面名 特別教室棟１階展開図(現況・改修後)	

現　況



特別教室棟２Ｆ現況平面詳細図　S=1/50

解体範囲を示す。
特記無き場合は範囲内全てを撤去すること。



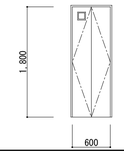
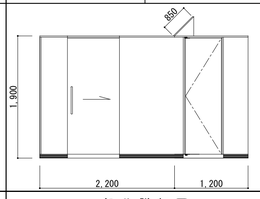
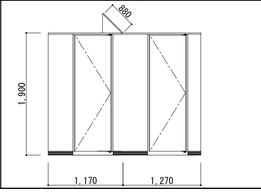
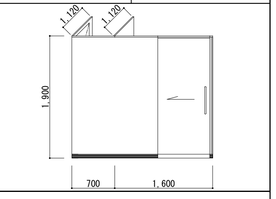
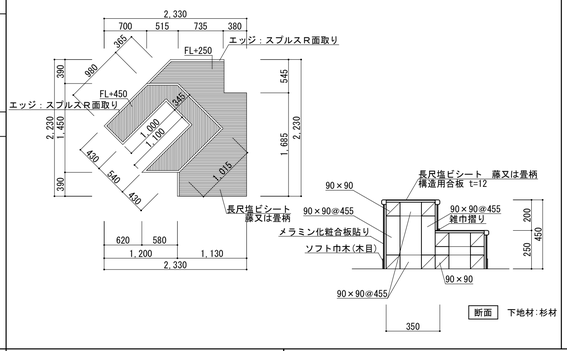
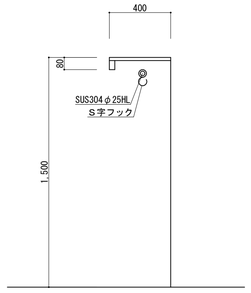
特別教室棟２Ｆ天井伏図　S=1/100

解体範囲を示す。
特記無き場合は範囲内全てを撤去すること。

便　所	
床（踏込み）	長尺塩ビシート仕上げ　軽量コンクリート t=100
床	モザイクタイル張り　モルタル下地、軽量コンクリート t=50共撤去
壁	１００角タイル張り　モルタル下地共撤去
天　井	アスベストラックス t=6 底目貼の上、ペンキ塗装
備　考	ＴＢ　面台　備品　衛生機器　出入り口三方枠（ＳＵＳ）
	特記なき限り全て撤去

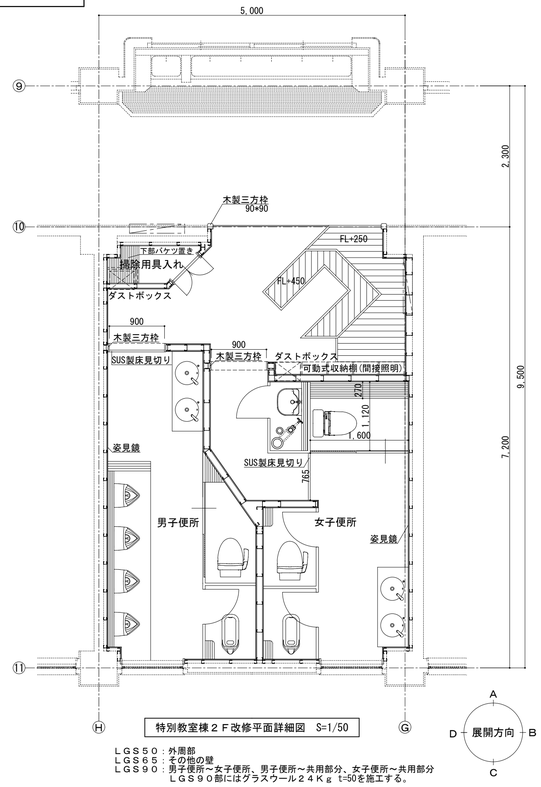
ＰＳ	
床、壁	ＲＣ壁撤去
天　井	既設のまま　区画貫通部耐火ＧＷ充填
備　考	一部配管撤去　配管補強材［－１００＊５０撤去　設備図参照

建具リスト

記　号	ＷＤ－１	ＴＢ－１	ＴＢ－２	ＴＢ－３
名　称	木製両開ドア	トイレブース	トイレブース	トイレブース
位　置	掃除用具入れ	男子トイレ	女子トイレ	女子トイレ
仕　上	SUS製丁番・ドアチェック・レバーハンドル 建具枠・戸当り・その他必要金物 アクリル樹脂板（半透明） メラミン化粧合板	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材　ハンガー金物　傾斜油圧制御式 巾木　ステンレスＨＬ　Ｈ＝60　引手　ステンレス　Ｌ＝45 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス その他必要金物	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材　ハンガー金物　傾斜油圧制御式 巾木　ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材　ハンガー金物　傾斜油圧制御式 巾木　ステンレスＨＬ　Ｈ＝60　引手　ステンレス　Ｌ＝45 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵
数量・見込	1　／　３６	1　／　４０	1　／　４０	1　／　４０
姿　図				
記　号	ＷＦ－１	部分詳細図		
名　称	木製三方枠	ベンチ詳細図　S=1/20, 1/50		ハンガーパイプ詳細図　ＨＰ１　S=1/20
位　置	男子便所、女子便所			
仕　上	メラミン化粧合板			
数量・見込	2　／　―			
姿　図				

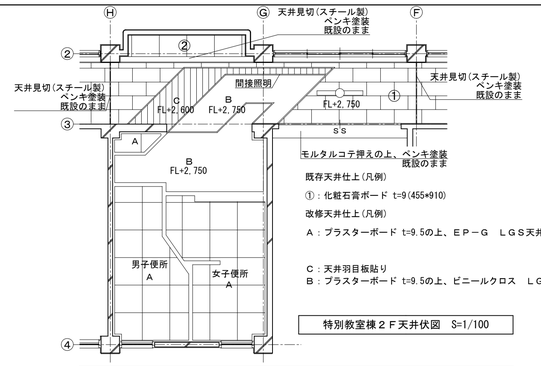
ＳＫ・掃除用具入内にはＤ400棚および
ステンレスパイプ、Ｓ字フック×６を設置する。

改　修　後



特別教室棟２Ｆ改修平面詳細図　S=1/50

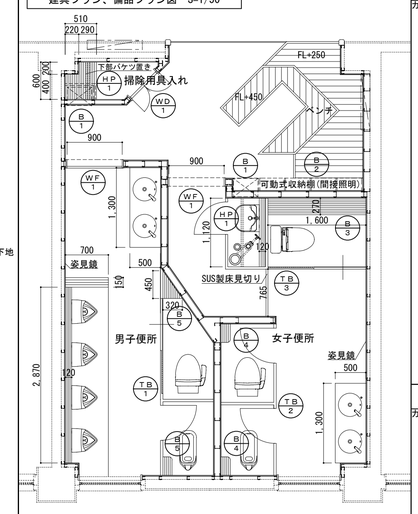
ＬＧＳ５０：外周部
ＬＧＳ６５：その他の壁
ＬＧＳ９０：男子便所～女子便所、男子便所～共用部分、女子便所～共用部分
　　ＬＧＳ９０部にはグラスウール２４Ｋｇ t=50を施工する。



特別教室棟２Ｆ天井伏図　S=1/100

便　所	
床	長尺塩ビシートt=2.0　モルタル下地　小便器前：防汚タイル
巾　木	塩ビ製 H=100
壁	シージングせっこうボード(GB-S) t=9.5 ２重貼の上、塩ビフィルム貼り
	ＰＢ t=12.5の上、珪藻土塗り
	ＰＢ t=12.5の上、ビニールクロス貼り
天　井	プラスターボード t=9.5の上、ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地
	プラスターボード t=9.5の上、ビニールクロス　ＬＧＳ天井下地
備　考	カウンター、面台　鏡　衛生機器　木製三方枠
	ＳＵＳ製床見切り、ダストボックス

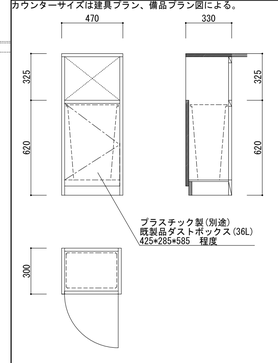
廊　下	
床	取合い部補修　既存仕上げ同等
壁	塩ビフィルム貼り　塩ビ巾木新設
天　井	プラスターボード t=9.5の上、ビニールクロス　ＬＧＳ天井下地 天井羽目板貼り、化粧石膏ボード t=9　ＬＧＳ天井下地



和便器撤去・補修詳細図　S=1/20

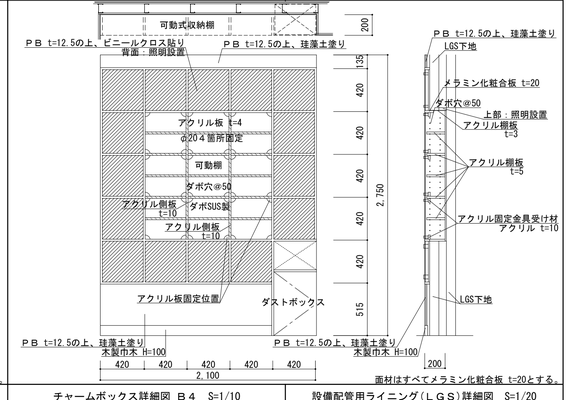
ダストボックス詳細図　Ｂ１　S=1/20

カウンターサイズは建具プラン、備品プラン図による。



面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

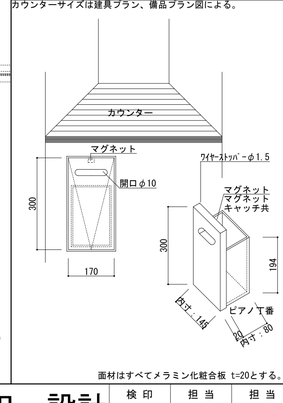
可動式収納棚　Ｂ２　S=1/30



面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

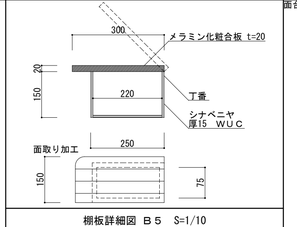
チャームボックス詳細図　Ｂ３　S=1/10

カウンターサイズは建具プラン、備品プラン図による。



面材はすべてメラミン化粧合板 t=20とする。

チャームボックス詳細図　Ｂ４　S=1/10

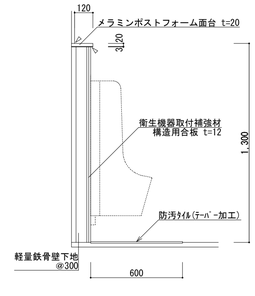


棚板詳細図　Ｂ５　S=1/10

表記なき棚板サイズは建具プラン、備品プラン図による。

設備配管用ライニング（ＬＧＳ）詳細図　S=1/20

面台サイズは建具プラン、備品プラン図による。



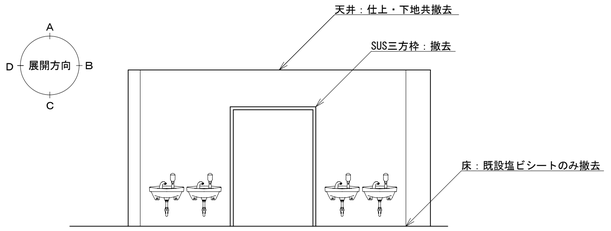
【特記事項】

株式会社　中田　設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

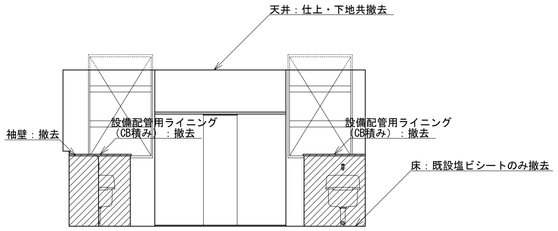
検　印	担　当	担　当

年 月 日	H27.03.31
縮　尺	A3:1/20,40,100 A1:1/10,20,50
工事名称	北里小学校トイレ改修工事　設計図
図面名	特別教室棟　２階平面詳細図（現況・改修後）、建具リスト、部分詳細図
図面番号	Ａ－１７

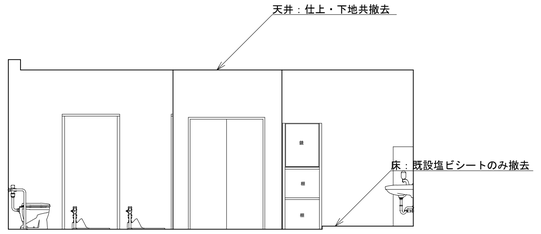
現　況



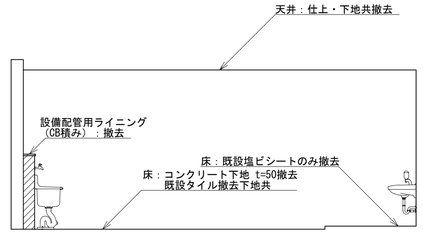
共用部分：A　　共用部分：A



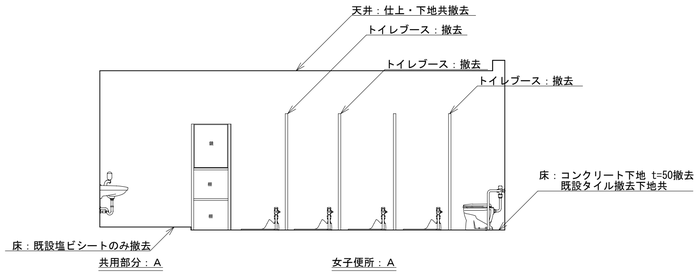
男子便所：C　　女子便所：C



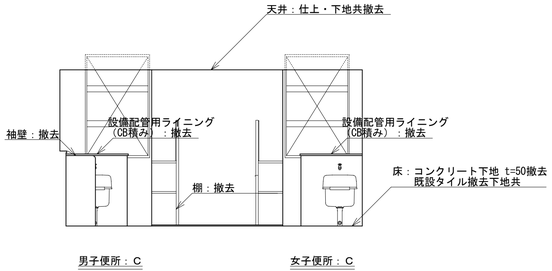
女子便所：B　　共用部分：B



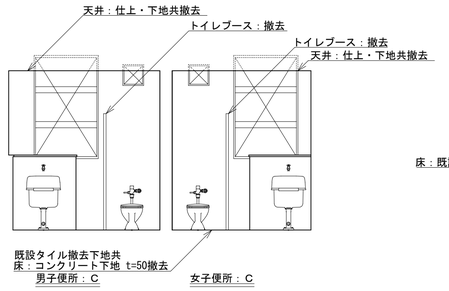
女子便所：D　　共用部：D



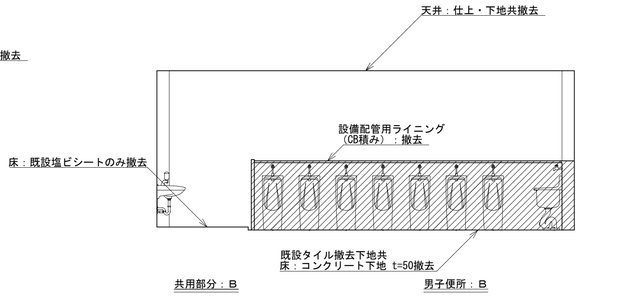
共用部分：A　　女子便所：A



男子便所：C　　女子便所：C

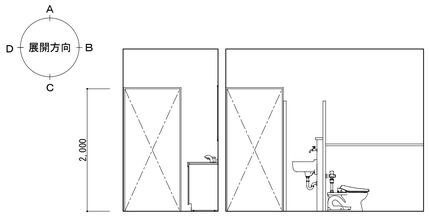


男子便所：C　　女子便所：C

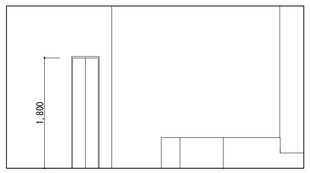


共用部分：B　　男子便所：B

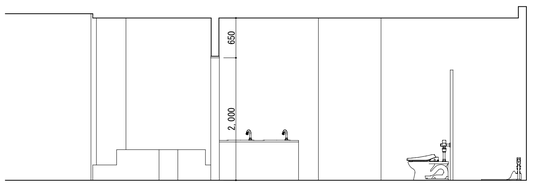
改　修　後



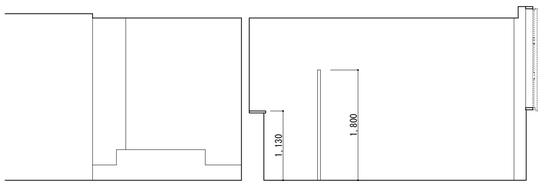
男子便所：A　　女子便所：A



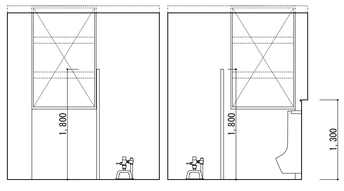
共用部分：A



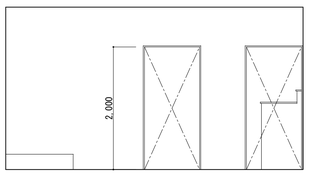
共用部分：B　　男性便所：B



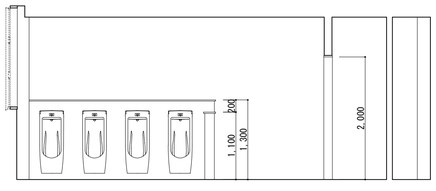
共用部分：B　　女子便所：B



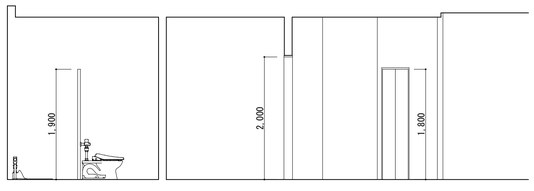
男子便所：C　　女子便所：C



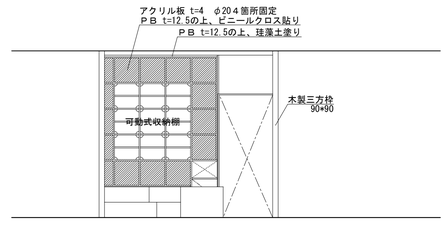
共用部分：C



共用部分：C　　男子便所：D　　共用部分：D



女子便所：D　　共用部分：D

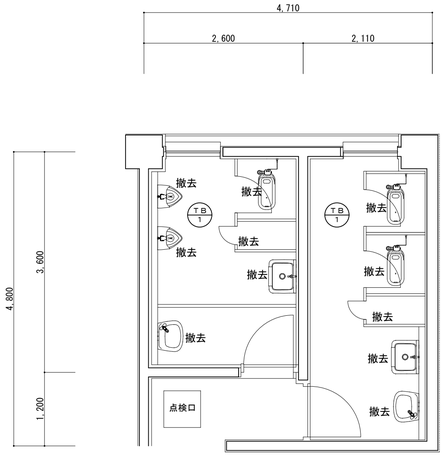


廊下正面：A

【特記事項】

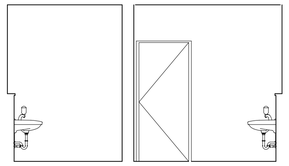
株式会社 中田　設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 H27.03.31 縮 尺 A3:1/100 A1:1/ 50	工事名称 北里小学校トイレ改修工事　設計図 図面名 特別教室棟２階展開図(現況・改修後)	図面番号 Ａ－１８

現　況

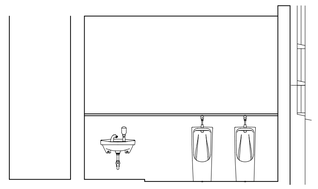


１Ｆ職員トイレ現況平面詳細図　S=1/50

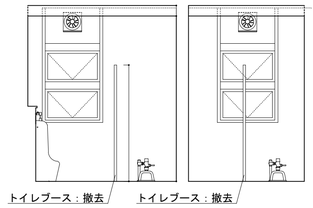
トイレブース、衛生機器はすべて撤去とする。
天井仕上材は全て撤去とする。（下地は既設のまま）



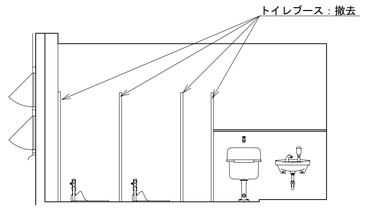
女子便所：Ｃ　　男子便所：Ｃ



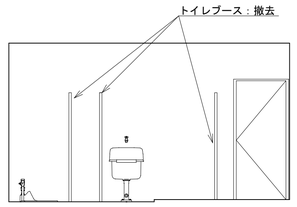
男子便所：Ｂ



男子便所：Ａ　　女子便所：Ａ

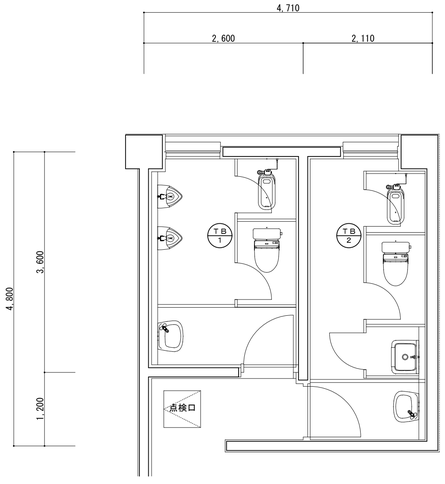


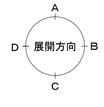
女子便所：Ｂ



男子便所：Ｃ

改　修　後



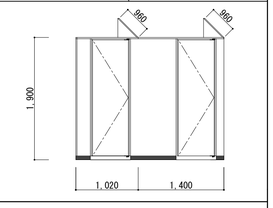


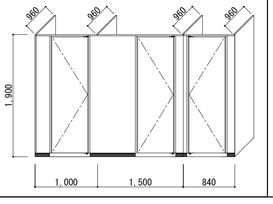
１Ｆ職員トイレ改修平面詳細図　S=1/50

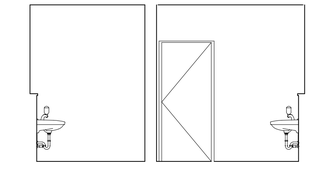
内装仕上げは基本既設のままとする。
撤去した箇所については同等の仕上にて補修すること。

床仕上：モザイクタイル
壁仕上：１００角陶器質タイル

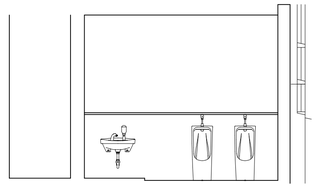
天井仕上（新設）：　プラスターボード t=9.5の上、
ＥＰ－Ｇ　ＬＧＳ天井下地

建具リスト	建具リスト
記　号	ＴＢ－１
名　称	トイレブース
位　置	男子トイレ
仕　上	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材 巾木　ステンレスＨＬ　Ｈ＝60 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス 金物　戸当り帽子掛け　表示付打掛鍵
数量・見込	1 / ４０
姿　図	

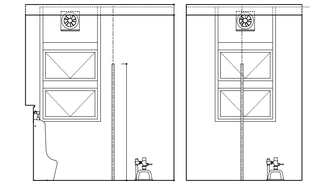
記　号	ＴＢ－２
名　称	トイレブース
位　置	女子トイレ
仕　上	仕上　高圧メラミン樹脂化粧合板　（アイカ指定） 芯材　ペーパーハニカムコア ドアエッジ　アルミ押出型材　アールエッジ 笠木　アルミ押出型材　　ハンガー金物　傾斜油圧制御式 巾木　ステンレスＨＬ　Ｈ＝60　　引手　ステンレス　Ｌ＝45 ヒンジ　クレビティヒンジ中心吊型　ステンレス その他必要金物
数量・見込	1 / ４０
姿　図	



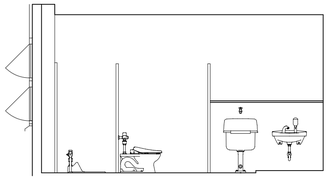
女子便所：Ｃ　　男子便所：Ｃ



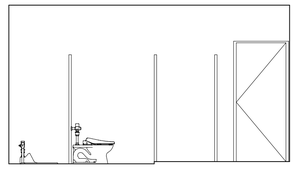
男子便所：Ｂ



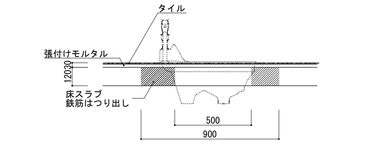
男子便所：Ａ　　女子便所：Ａ



女子便所：Ｂ



男子便所：Ｃ



和便器撤去・補修詳細図　S=1/20

【特記事項】

株式会社　中田　設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

検印	担当	担当

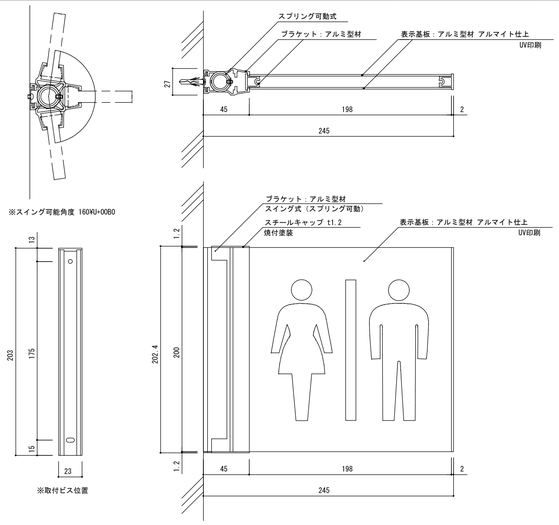
年月日　H27.03.31
縮尺　A3:1/100　A1:1/ 50

工事名称　北里小学校トイレ改修工事　設計図
図面名　職員便所　平面詳細図・展開図（現況・改修後）

図面番号　Ａ－１９

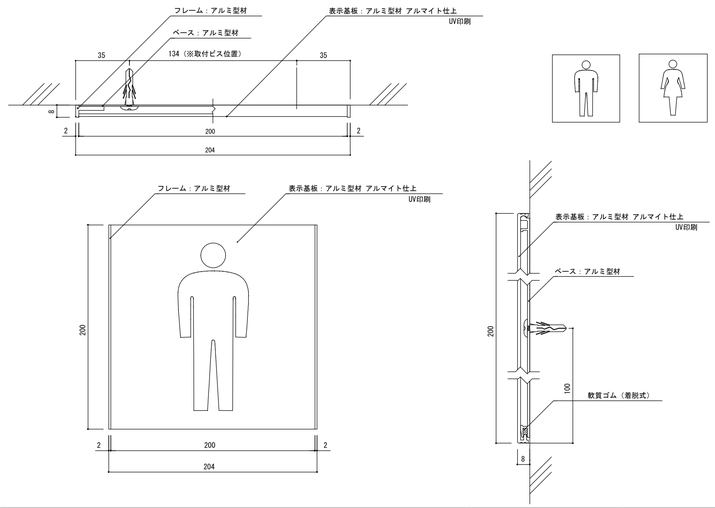
S-1　1F職員トイレサイン（突出型）

縮尺　1:3　　数量　1



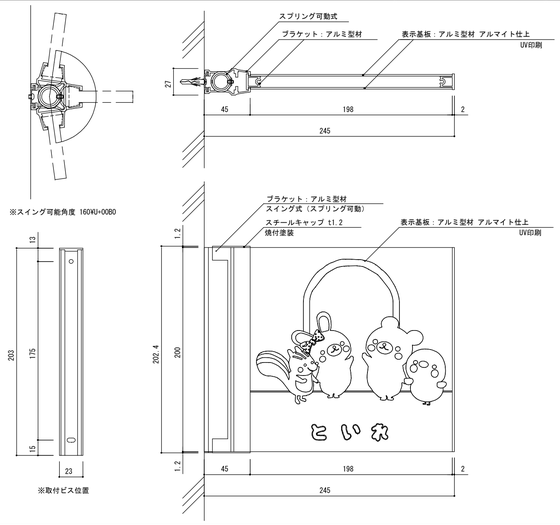
S-2　1F職員トイレサイン（平付型）

縮尺　1:2,1:3　　数量　2



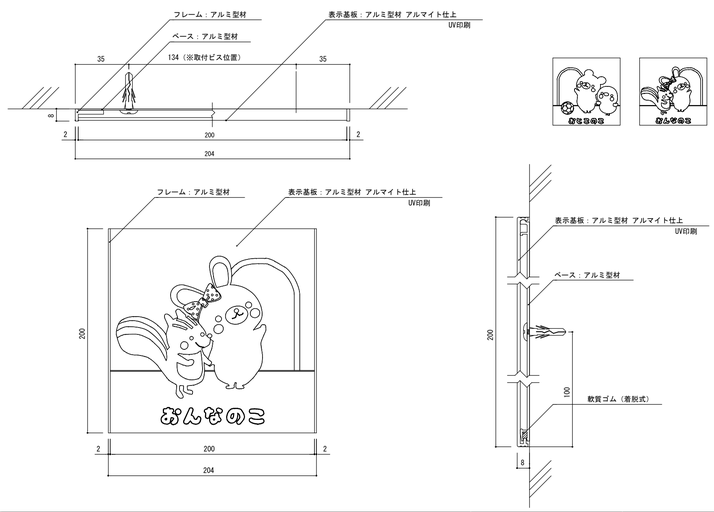
S-3　普通教室棟1Fトイレサイン（突出型）

縮尺　1:3　　数量　1



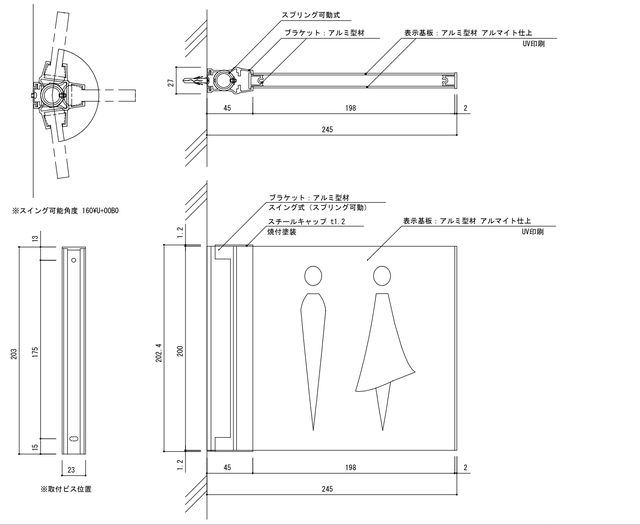
S-4　普通教室棟1Fトイレサイン（平付型）

縮尺　1:2,1:3　　数量　2



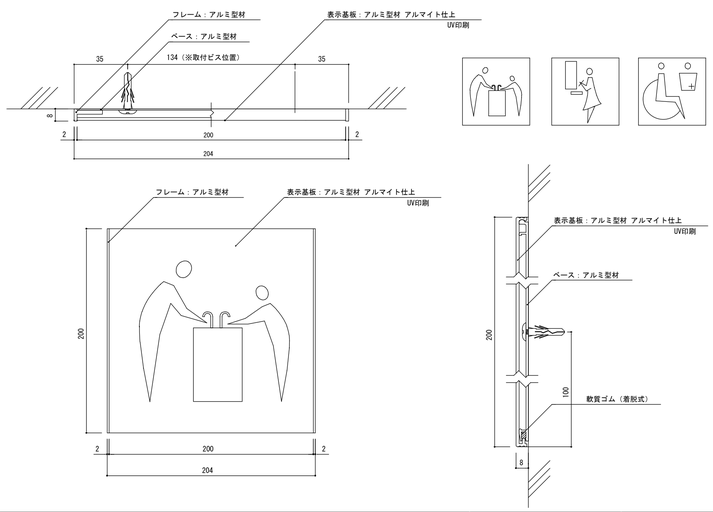
S-5　特別教室棟1Fトイレサイン（突出型）

縮尺　1:3　　数量　1



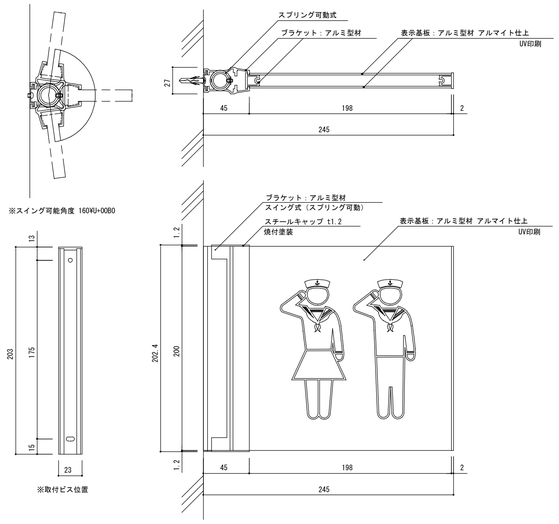
S-6　特別教室棟1Fトイレサイン（平付型）

縮尺　1:2,1:3　　数量　3



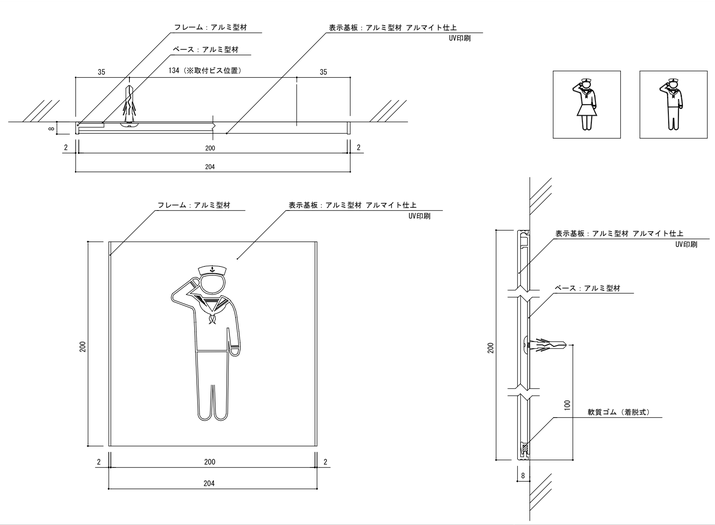
S-7　普通教室棟2Fトイレサイン（突出型）

縮尺　1:3　　数量　1



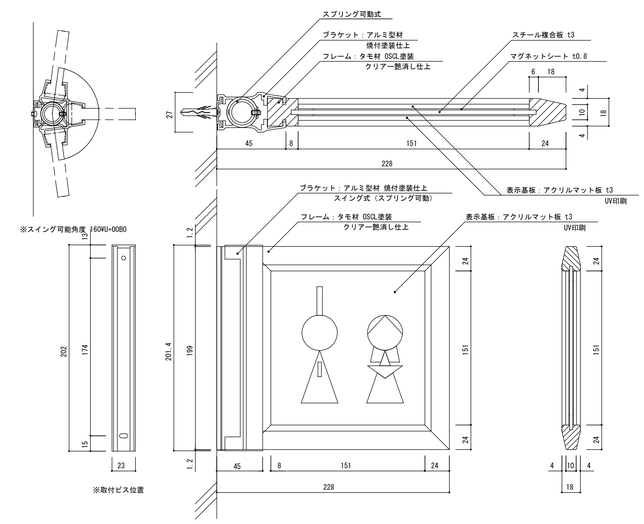
S-8　普通教室棟2Fトイレサイン（平付型）

縮尺　1:2,1:3　　数量　2



S-9　特別教室棟2Fトイレサイン（突出型）

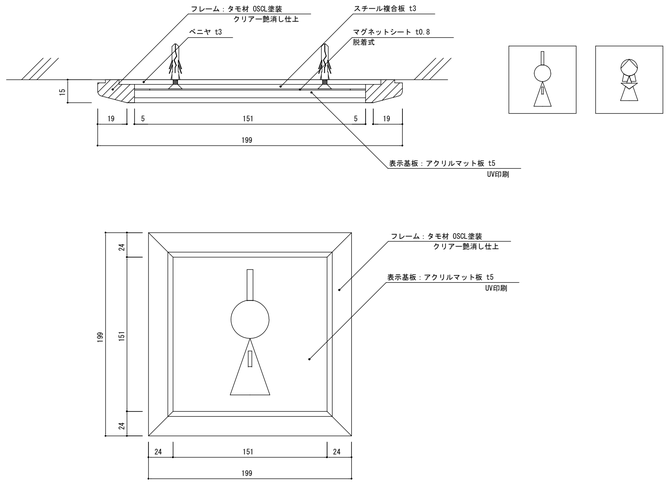
縮尺　1:2,1:3　　数量　1



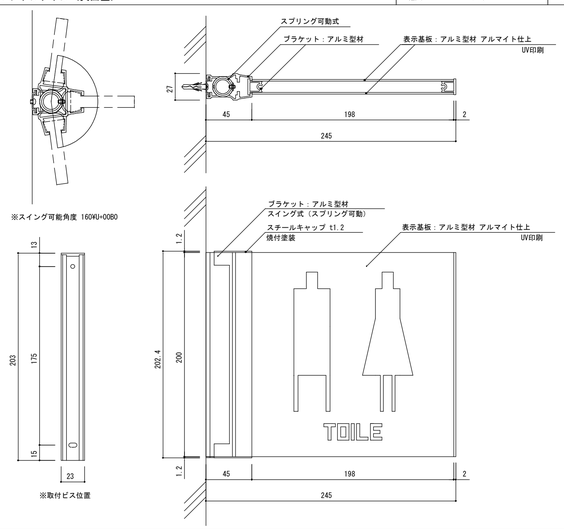
【特記事項】

株式会社 中田 設計 一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一	検 印	担 当	担 当	年 月 日 H27.03.31 縮 尺 A1：図示による	工事名称 北里小学校トイレ改修工事 図面名 サイン詳細図1	図面番号 Ａ－２０

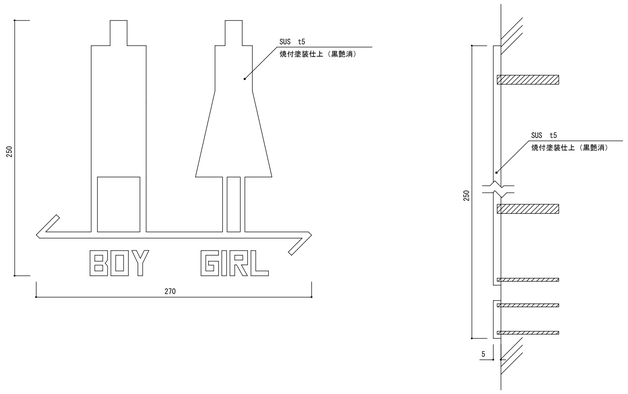
S-10	特別教室棟2Fトイレサイン（平付型）	縮尺	1:2,1:3	数量	2



S-11	普通教室棟3Fトイレサイン（突出型）	縮尺	1:3	数量	1



S-12	普通教室棟3Fトイレサイン（平付型）	縮尺	1:2,1:3	数量	1



■サイン特記仕様

［１］使用材料
- ａ．木材　　：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆☆対応）とする。
- ｂ．アルミ　　：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
- ｃ．アクリル　：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８
- ｄ．ステンレス　：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上

［２］フォント
- ａ．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
  ※ただし、係員より特定の書体の指示があった場合にはこの限りではない。

［３］ピクトグラム
- ａ．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受けること。

［４］取付位置・方法
- ａ．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
- ｂ．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取り付けを行うこと。
- ｃ．障害者用サインについては、自治体福祉要綱に基づき、係員と協議の上決定する。

［５］その他
- ａ．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
  又、室名札脱着の際には　スライドロック機構、専用吸盤などを利用し
  商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様とすること。
- ｂ．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をすること。

【特記事項】

株式会社　中田　設計
一級建築士　登録　第８０８０５号　中田　全一

検印	担当	担当	年月日	工事名称	図面番号
			H27.03.31	北里小学校トイレ改修工事	Ａ－２１
			縮尺 A1：図示による	図面名 サイン詳細図2	